

五、役員

組合長	塚本貞次郎	専務理事	浦部貞治郎
常務理事	阿藤市平		
理事	青木金次	西川佐右衛門	渡邊四良
	伊谷武兵衛	西村太平	坂本善四郎
監事	宮川彦治郎	富居多吉	大崎安次郎
書記	藤野甚三郎	青木増二郎	羽田太一郎
	北川新平	北野眞一	青木信祐
			居原田 徳次郎

六、組合の概況

昭和十四年度成績

出資總額	六三、三四〇圓	拂込濟出資額	四一、四二八圓
積立金	六七、八二〇圓	借入金	—
貯蓄金	一〇五二、七七五圓	貸付金	二五三、二六一圓
販賣高	一一三、〇八一圓	購買品賣却高	一四三、一八五圓
利用料	—	農業倉庫入庫數	米 八、五〇四俵
			大麥小麥 一、八七五俵

保證責任 高野信用販賣購買組合

一、事務所所在地 愛知郡高野村參百貳拾壹番地

二、設立年月日 大正十四年一月十四日

三、區域内戸數 一一九戸

四、組合員數 一〇九人

五、役員

組合長	上畑利助	専務理事	小西元次郎
理事	上田藤三郎	岸千助	
監事	門阪彦太郎	上田政次郎	
書記	丸山辰雄		

六、組合の概況

昭和十四年度成績

産業組合概況（愛知郡）

産業組合概況 (愛知郡)

出資總額	七、七八〇圓	拂込濟出資額	六三圓
積立金	二、四七六圓	借入金	—
貯金	八八、七五四圓	貸付金	二二、九四八圓
販賣高	一、五六六圓	購買品賣却高	三、三六三圓
利用料	—	農業倉庫入庫數	—

二七八

犬上郡

保證責任 厚生社信用販賣購買利用組合

(明治四十三年五月八日産業組合中央會より表彰)

- 一、事務所所在地 犬上郡豊郷村大字石畑第四百四拾貳番地
- 二、設立年月日 明治三十六年十月二十四日
- 三、區域内戸數 四、三三三戸 (豊郷村大瀧村龜山村河瀬東甲良村西甲良村)
- 四、組合員數 三、三一六人
- 五、役員

- 組合長 奥川四郎衛
- 専務理事 若林金二
- 常務理事 田中喜太郎
- 理事 西村淺右衛門
- 理事 眞柴重右衛門
- 古川榮三
- 藤居喜三郎
- 圓城茂一郎
- 田中耕次郎
- 村田竹次郎
- 古川爲次郎

産業組合概況 (犬上郡)

二七九

監事	山本孫七	山本庄兵衛	久木富治郎
	上田重三	村岸峯吉	松原文次郎
	若林祐三	東岸源三郎	
書記	伊藤彌八	西山治太郎	岸田金十郎
	岸田金兵衛	渡邊誠一郎	村岸喜十郎
	宮内幸之助	重森恭三	田中仁右衛門
	西川久治郎	牧野定吉	久木彌一郎
	若林萬吉	西山秀三	久木芳雄
	井上正一	木村耕造	西田良三
			圓城茂平
			森辰治郎
			田中治作
			北村太七
			加藤末雄
			福田宣乘

六、組合の概況

犬上川に水源を求むる水田灌漑用井堰及神社氏子關係等に依り設立當初より豊郷外五箇村を區域とする組合を設立せり、當初は信用事業のみを行ひたりしが其の充實發展するに及び販賣購買利用農倉事業を兼營せり、大正十年以來特に販賣購買事業に力を致し今日に及べり此の間近江銀行預金の切捨て等に會ひ多額の積立金は之が損失補填に充當せり。

昭和十四年度成績

出資總額	一二八、二二〇圓	拂込濟出資額	八四、四七〇圓
積立金	七二五圓	借入金	三六、一六九圓
貯金	二八四二、〇〇〇圓	貸付金	六四一、〇〇〇圓
販賣高	七三二、〇〇〇圓	購買品賣却高	四九五、八〇〇圓
利用料	二、七〇一圓	農業倉庫入庫數	米 六三三六依

保證責任 多賀莊信用販賣購買利用組合

- 一、事務所所在地 犬上郡多賀村大字多賀壹千參百貳拾貳番地の九
- 二、設立年月日 明治四十一年十月十五日
- 三、區域内戸數 一、三七七戸 (多賀村久徳村脇ヶ畑村芹谷村)
- 四、組合員數 一、四六七人
- 五、役員

組合長 夏原喜之助 専務理事 小財伊三
 理事 中川喜太郎 庵松次郎 上田米吉 馬場定道

産業組合概況 (犬上郡)

植野由太郎	安井太一郎	西村儀三郎
監事 宮下重造	小林三郎平	北村喜代松
主事 北坂喜三	田中初太郎	小菅奉太郎
書記 田中初太郎	藤井規太郎	西川直太郎
	種村嘉一郎	小財修三
	藤井利秀	桂平吉
	北川壽	一圓直三
		平木孫之丞
		清水儀三
		野村秀隆
		吉川滋
		新谷一郎
		寺田ソノ
		福島富太郎
		吉田儀三郎

六、組合の概況

犬上郡多賀村大字四平は東部山間村に位置し、全戸数僅に四十有戸の小部落にして、當時同字清水仙次郎氏は産業組合の必要を痛感し、二十五名の有志と相計り設立を發起し、明治四十一年十月設立の許可を受けたり、降て大正八年十月多賀村、久徳村、芹谷村、脇ヶ畑村の四箇村を一區域として、擴張し現在に至る。

昭和十四年度成績

出資總額	一六三、二六〇圓	拂込済出資額	八一、六三〇圓
積立金	一〇九、九七三圓	借入金	—
貯金	金一、五二五、一三九圓	貸付金	四一四、一一七圓

販賣高	二二八、八六七圓	購買品賣却高	六三、四三五圓
利用料	四二〇圓	農業倉庫入庫數	米 一九、二四〇俵

保證責任 三ツ池信用販賣購買利用組合

- 一、事務所所在地 犬上郡豊郷村大字三ツ池四拾貳番地
- 二、設立年月日 大正九年九月二十七日
- 三、區域内戸數 二〇二戸
- 四、組合員數 一五二人
- 五、役員

組合長	藤野澤次郎	専務理事	
理事	浅井正雪	藤野宗治郎	村岸峰吉
	谷口有信	宮崎丈助	有田三右衛門
監事	田中五郎	山田泰助	大西與兵
書記	中山えち		福永愛吉
			浅井新太郎

六、組合の概況

昭和十四年度成績

出資總額	一、五三〇圓	拂込済出資額	一、五二〇圓
積立金	三、三六三圓	借入金	三、三三三圓
貯金	二二、〇三〇圓	貸付金	一七、一五二圓
販賣高	—	購買品賣却高	—
利費用料	—	農業倉庫入庫數	—

保證責任 南青柳信用販賣購買利用組合

- 一、事務所々在地 犬上郡南青柳村字甘呂七百六番地の貳
- 二、設立年月日 大正十年一月十四日
- 三、区域内戸數 三一〇戸
- 四、組合員數 三一四人
- 五、役員職員

六、組合概況

當組合は大正十年一月創立當時組合員は二百九十三名なりしが現在三百十名に増加す創立當時貯金九萬四千圓、貸付五萬四千圓であつたのが、十九年後昭和十五年の今日では、貯金四十八萬圓、貸付十二萬四千圓に達す。

昭和十四年度成績

出資總額	三〇、七四〇圓	拂込済出資額	三〇、七四〇圓
積立金	一七、八〇〇圓	借入金	一、五八一圓
貯金	四五、五〇〇圓	貸付金	一六六、七六六圓
販賣高	九九、三六五圓	購買品賣却高	二五、六二九圓
利費用料	四二二圓	農業倉庫入庫數	米 五、九〇〇俵

- | | | | |
|-----|--------|--------|--------|
| 組合長 | 辻 重 義 | 専務理事 | 尾本惣五郎 |
| 理事 | 寺村銀次 | 吉田源治郎 | 神谷仲左衛門 |
| 監事 | 辻 金左衛門 | 稲本嘉七 | 田澤十之助 |
| 書記 | 辻 藤太郎 | 今村八郎兵衛 | 辻 宗 義 |
| | 内堀菊次郎 | 寺村文太郎 | 辻 正 一 |
| | | | 北川正義 |

保証責任 日夏信用販賣購買利用組合

- 一、事務所所在地 犬上郡日夏村貳千九百參拾七番地
- 二、設立年月日 大正十年一月十四日
- 三、區域内戸數 三六二戸
- 四、組合員數 三六六人
- 五、役員

組合長	寺村民雄	専務理事	若林重平
理事	成宮市太郎		寺島章三
監事	三橋直次		北川信三
書記	古川爲吉		橋本定次郎
			松本九造
			日夏岩吉

六、組合の概況

本組合は大正十年一月の設立にして以來十九箇年、其の構成する組合員は純農にして、戸數僅に三百餘戸なるも財界の不況、米價の低落による農村疲弊に對處して、累年健實なる發展の歩を見る、即ち設立の當初に於て信用

並に購買の兩部のみにして、後者に於て取扱をなせし種類も十指を出でざりしも次第に擴充し、大正十四年販賣及利用の二部増設を見、農業倉庫經營等飛躍的に進展を爲し、數年を出ずして、今日の成績を擧ぐるに至れり、又昭和十四年新築事務所完成し、内容外觀共に整備し、諸般の設備充實成り、村中樞機關として嚴存するに至る

昭和十四年度成績

出資總額	二七、一四〇圓	拂込濟出資額	二七、一四〇圓
積立金	四、四〇〇圓	借入金	六、三〇四圓
貯金	四八六、三七九圓	貸付金	五〇、八八七圓
販賣高	八六、一四七圓	購買品賣却高	三〇、九三六圓
利用料	二五六圓	農業倉庫入庫數	米 四、七四七俵
			小麥 一三三俵
			菜種 一九〇畝

保証責任 磯田信用販賣購買利用組合

- 一、事務所所在地 犬上郡磯田村大字八坂九百貳拾七番地の壹
- 二、設立年月日 大正十一年二月八日

- 三、区域内戸数 五四九戸
- 四、組合員数 六一五人
- 五、役員

組合長	林秀三郎	専務理事	田中利一
理事	森源吾	東川卯之助	西村政吉
	正田彦右衛門	古川源五郎	正田與三吉
監事	若林惣太郎	川崎鐵三	正田晋次郎
	近藤英造	青根鐵男	三浦信成
書記	遠藤作之	林伴三郎	出口藤松
	若林與惣吉	片上新三郎	出口幸次郎
	伊豆川作次	森明	正田捨松
技手	寺村彦兵衛		若林太市
			森義雄
			正田常太郎
			北川龍三
			正田松右衛門

六、組合の概況

大正十一年三月事業開始を爲し、中途定款を變更して利用部を設け、四種兼營となし、農業倉庫を附設す、本組合は大根、蒞、越瓜、及梅等の農産物加工品を京阪神及軍部等へ販賣し、相當の成績を見るに至り、現在總加工

數、四斗樽六千丁餘販賣額五萬餘圓に達し、農家の副業増進と食糧増殖報國に勉む、尙事務所は本部の外各大字に三ヶ所を設け、之に農業倉庫及賣店を設けて組合員の利用に便ならしめ、本部に加工所四棟二百餘坪及賣店等を建設し、事業の擴充に精進しつゝあり。

昭和十四年度成績

出資總額	三〇、六四〇圓	拂込濟出資額	二九、五三八圓
積立金	五四、八〇七圓	借入金	三、一六三圓
貯金	九九五、六二二圓	貸付金	一二九、二七一圓
販賣高	一八二、七三〇圓	購買品賣却高	七九、二三二圓
利用料	一、二九八圓	農業倉庫入庫數	米 七、六九四俵

保證責任 高宮信用販賣購買利用組合

- 一、事務所所在地 犬上郡高宮町貳千參百拾番地
- 二、設立年月日 大正十一年八月十五日
- 三、区域内戸數 七六六戸

産業組合概況 (犬上郡)

産業組合概況(犬上郡)

四、組合員數 五九四人

五、役員職員

組合長 中村吉次郎

専務理事

理事 北川長一郎

加藤徳平

安澤佐一

馬場誠一

音瀬錦二

澤田勘三

岩曾磯次

監事 郡田信次郎

中村九一郎

前川鍋次郎

書記 榎木卯吉

青木庄造

不破正三

馬場彌造

西村良三

杉原與平

榎木静子

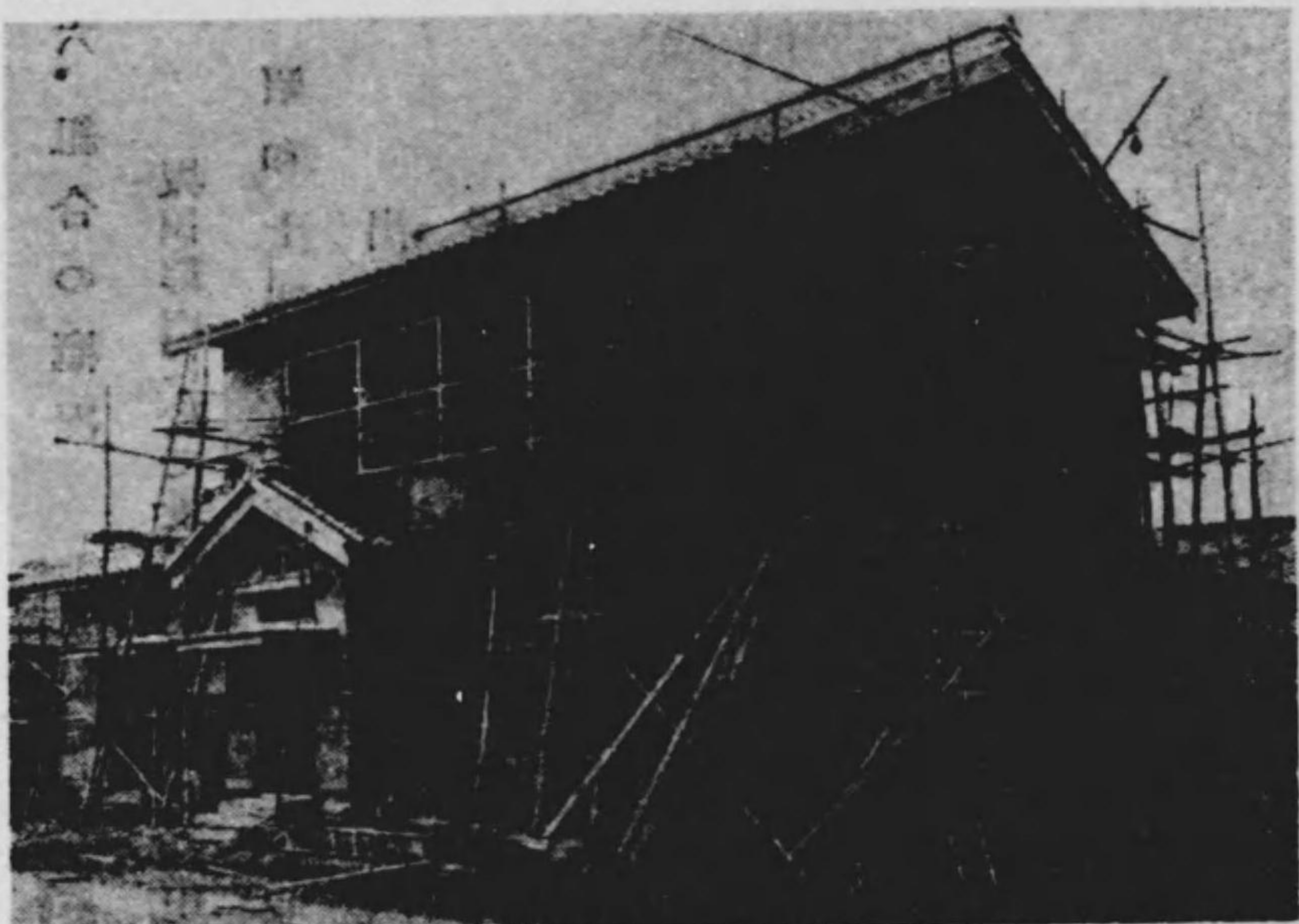
馬場八重子

六、組合の概況

昭和十四年度成績

出資總額 七二、二〇〇圓
 積立金 六四、五〇〇圓
 貯蓄金 七四一、二四七圓
 販賣高 三七、五八四圓
 利費用料

拂込済出資額 七二、二〇〇圓
 借入金
 貸付金 一四六、九八〇圓
 購買品賣却高 三、一五三圓
 農業倉庫入庫數 米 九五四俵



法性寺組合事務所

坂田郡

保證責任法性寺村信用販賣購買利用組合

一、事務所所在地

坂田郡法性寺村大字賀野六百七番地

二、設立年月日

明治四十三年十一月十二日

三、区域内戸數

五五五戸

四、組合員數

五六一人

五、役員職員

組合長 中林藏

専務理事

理事

監事

書記

宮川一郎 成川孫八

福井佐市郎 日比市三郎

藤井喜兵衛 上田鐵三

堤文次郎 北森佐太郎

北村善治郎 堀内利八

北居 儀平
北村 重雄

川崎 傳藏

六、組合の概況

坂田郡内に於て最初に設立せられ中途購買事業に於て一時頓挫を來したるも其の後漸次恢復し今日に至れり。
昭和十四年度成績

出資總額	一〇、九〇〇圓	拂込済出資額	一〇、九〇〇圓
積立金	一一、九九〇圓	借入金	—
貯金	五〇九、七四九圓	貸付金	一一九、五一四圓
販賣高	五〇、七七五圓	購買品賣却高	二二、七七四圓
利用料	一九〇圓	農業倉庫在庫數	米 五、六〇〇俵 小麥 二五〇俵 大麥 七八四俵 菜種 三一石

保證責任 北郷里村信用販賣購買利用組合

一、事務所所在地

坂田郡北郷里村大字東上坂九百八拾壹番地

二、設立年月日

明治四十四年九月四日

三、區域内戸數

九七〇戸

四、組合員數

六六二人

五、役員

組合長	木下 順三	専務理事	組合長兼務
理事	矢野 精市	清水 清吉	清水 利一
	川崎 源藏	田邊 喜左衛門	伏木 助五郎
監事	田邊 政徳	中北 政良	一居 利七
書記	服部 幸三	岩崎 新治郎	川崎 儀藏
	矢野 ひろゑ		田中 恒夫
			大塚 勝治郎
			坂本 都藏

六、組合の概況

明治四十二年八月湖北地方の大震災に際し、御下賜金を賜はりしを基本として、當時の村長木村半次郎氏の發企

にて創設し、大正十一年出資口数を倍額増資を行ひ、昭和八年有限責任を保證責任に変更せり。其間昭和初年來の財界不況に連れ、經營運用に定規を逸する傾向にありたるを以て、昭和十三年一大整理刷新を斷行し、爾來内容充實、産業の進展擴充に努め今や發展の途上に邁進しつゝあり。

昭和十四年度成績

出資總額	七、〇〇〇圓	拂込済出資額	七、〇〇〇圓
積立金	一〇、七七一圓	借入金	二二、九九八圓
貯金	二四七、一三九圓	貸付金	一〇八、〇五七圓
販賣高	一一三、一九一圓	購買品賣却高	九三、四一圓
販賣高	一一三、一九一圓	農業倉庫在庫數	米 五、七八七俵

保證責任 神照信用販賣購買利用組合

- 一、事務所所在地 坂田郡神照村大字八幡中山千百八拾貳番地の五
- 二、設立年月日 大正四年二月十日
- 三、区域内戸數 一、五〇二戸
- 四、組合員數 一、一〇五人
- 五、役員

組合長	北川重雄
理事	木村清治 川上芳吉 中川佐吉 中村龜吉
監事	岩嶋左造 飯田繁一 中井俊一 中川清雄 林慶司
書記	松畑米藏 清水文五郎 藤居友藏 高橋育三
	田中繁男 富岡正男 高田美惠子 田中美き子
	西澤弘江

六、組合の概況

産業組合概況 (坂田郡)

明治四十五年三月村當局の提唱に依り共同貯金組合を企圖し、村民の貯蓄心普及獎勵に努めたる結果、大正三年末には貯金總額五千圓に達したり、茲に於て信用組合設立の議起り、村民の理解を得て右貯金を出資に充當し大正四年二月信用部單營の本組合の設立成りたり。設立以來數年間は事業開始の運びに至らざりしも、大正六年農業倉庫業法の公布を契機として産米販賣上の不合理を是正する目的を以て、販賣事業の經營と農業倉庫の設置の議起り、其の間多少の迂餘曲折を経たれども、大正八年に至り販賣並購買事業の兼營と農業倉庫の建設を見、茲に各種事業の整備成りたり。其の後財界の變動農村の不況等に遭遇せるも組合員の共存同榮、相互扶助の組合精神の深き認識と當局者の不斷の努力とにより今日の確固たる基礎を築くに至れり。

昭和十四年度成績

出資總額	三九、六八〇圓	拂込済出資額	三八、八〇五圓
積立金	四六、九〇一圓	借入金	八四、六〇七圓
貯蓄金	一、一四五、二八六圓	貸付金	三二八、三九六圓
販賣高	三八二、一一八圓	購買品賣却高	二八、九四四圓
利用料	三、八二三圓	農業倉庫入庫數	米 二四、三九七俵

保證責任 醒井村信用販賣購買利用組合

- 一、事務所所在地 坂田郡醒井村大字枝折九拾參番地の貳
- 二、設立年月日 大正六年二月三日
- 三、区域内戸數 五九一戸
- 四、組合員數 五四一人
- 五、役員

組合長	北川友治郎	専務理事	川部彌一郎
理事	江龍周治郎		圓花君彌
監事	立木安吉	辻伴之助	
書記	田口貞藏	前川武雄	中村俊一
	圓花佐左衛門		西堀滿壽榮

六、組合の概況

本組合は大正六年二月三日本村民の熱意により設立し今日の盛況を見るに至れり。大正十二年六月十二日販賣購買事業を兼營し、昭和十年四月十日利用事業を加へ、昭和八年三月十七日有限責任を保證責任に変更し、組合の

基礎を確立し今日の成績を見るに至れり。昭和十五年十月末に於て積立金五萬六千圓に達せり。

昭和十四年度成績

出資總額	二四、五〇〇圓	拂込濟出資額	二四、五〇〇圓
積立金	五四、〇三四圓	借入金	三一、〇三六圓
貯金	四九四、七九六圓	貸付金	二七七、六二〇圓
販賣高	—	購買品賣却高	一八、四九八圓
利用料	—	農業倉庫入庫數	—

保證責任 西黒田村信用販賣購買利用組合

- 一、事務所所在地 坂田郡西黒田村大字常喜五百四拾八番地
- 二、設立年月日 大正九年三月十二日
- 三、區域内戸數 五六〇戸
- 四、組合員數 五四三人
- 五、役員 組合長 大久保久作 専務理事 —

理事	清水重助	北村左五郎	瀧澤榮藏	宮崎廣次
監事	柳ノ瀬松次郎	中尾源左衛門	岸本彦治郎	清水清八
書記	八上音八	宮部太平	小芝房治郎	—
		澤村喜左衛門	引山彰	藤江智江子

六、組合の概況

昭和十四年度成績

出資總額	二九、一〇〇圓	拂込濟出資額	二三、四五三圓
積立金	八、九二〇圓	借入金	九、〇三四圓
貯金	三七三、二八六圓	貸付金	一〇三、四八五圓
販賣高	七一、〇九六圓	購買品賣却高	一九、〇四七圓
利用料	—	農業倉庫入庫數	米 五、六九三俵



南郷里組合事務所

保証責任 南郷里信用販賣購買利用組合

一、事務所所在地 坂田郡南郷里村大字南田附參百拾七番地

の貳

二、設立年月日 大正九年五月二十一日

三、区域内戸數 八二二戸

四、組合員數 七九八人

五、役員

組合長 水森源次良

理事 垣見助左衛門 荒田惣平

田中錦藏 小川利七

木野文吉 松居順藏

相本慶次郎 加納左内

泉惣一

監事	樋口松平	松居源治郎	小川三郎助
書記	清水治一	加納四郎作	平居辰次郎
	吉居雅一郎	田附外三郎	杉江元吉
雇	小川利子		加納正美
			藤田虎男

六、組合の概況

大正九年五月二十一日日本縣知事の許可を得、設立名稱を有限責任南郷里信用販賣購買組合と稱す、同大正十二年四月農業倉庫業を經營、昭和八年三月組織を變更し、保証責任南郷里信用販賣購買利用組合とせり。而して昭和二年四月には突如近江銀行の休業により、當組合の預金損失莫大なるを以て臨時總會を開催し、積立金全部を以て、損失填補をなし、尙損失殘額壹万四千有餘圓は向ふ五ヶ年に毎歲剩餘金を以て填補するの整理案を決議したり、然るに其後順調なる成績を挙げ、三ヶ年間にして全部を填補し得たり。蓋し今日の成績は此の役職員諸氏の犠牲的貢獻の賜なることは言を俟たないが、亦他面組合員の理解に基くものである。

昭和十四年度成績

出資總數	一六、〇一〇圓	拂込濟出資額	一五、八七八圓
積立金	一七、〇四五圓	借入金	三、八四二圓
貯金	八五〇、三六二圓	貸付金	一三〇、七九四圓
販賣高	一六六、一〇一圓	購買品賣却高	二六、九四八圓
利用料		農業倉庫入庫數	米 一〇、九一九俵

産業組合概況 (坂田郡)

保証責任 春照信用販賣購買利用組合

- 一、事務所所在地 坂田郡春照村大字杉澤七百貳拾六番地
- 二、設立年月日 大正九年十二月二十五日
- 三、区域内戸數 五四〇戸
- 四、組合員數 五三九人
- 五、役員

- | | | | |
|-----|-------|------|---------|
| 組合長 | 林 仁 臣 | 専務理事 | 兒 玉 良 夫 |
| 理 事 | 市川政之進 | | 田中與惣松 |
| 監 事 | 谷川正雄 | | 辻村喜三郎 |
| 書 記 | 的場九一 | | 尾木徳次 |
| | | | 三宅和男 |
| | | | 田中康子 |
| | | | 堤 みつゑ |
| | | | 西村歳子 |

六、組合の概況

大正十年一月四日より信用組合として創業、同十四年四月一日より販賣、購買事業を追加し、同十五年三月一日より利用事業を追加し、茲に四種兼營となり累年事業は順調に進展せり。

昭和十四年度成績

出資總額	二四、九八〇圓	拂込済出資額	二四、九八〇圓
積立金	二四、六〇〇圓	借入金	七、四二九圓
貯金	五二六、六九六圓	貸付金	二〇五、五五五圓
販賣高	三九、一六五圓	購買品賣却高	四五、六九六圓
利用料	二、八七四圓	農業倉庫在庫數 米	四、九九五俵



保証責任 六莊信用販賣購買利用組合

一、事務所所在地 坂田郡六莊村大字勝百八拾貳番地の参

二、設立年月日 大正十年十一月二十日

三、区域内戸數 九二五戸

四、組合員數 七三一人

五、役員

組合長 中嶋捨吉

専務理事 金澤耕三

常務理事 横田耕三

理事 上橋兵造 下坂伊織

監事 藤居善治郎 廣田太平

書記 辻 甚造

川村嘉藏 岩瀬儀一

中川藤美男 中川七之助

六莊組合事務所

六、組合の概況

第一次歐洲大戰の餘波の爲め、我經濟界に大變動を生じ、各種物價は騰貴し、好景氣來の爲村民は相當の收入を得たるも、村内に金融機關なく、爲に資金は皆隣接長濱町に吸収され、一方中小商工業の資金は相當不便にして高利に借入るもの多く、日用經濟用品、産業用品も商人に莫大なる利益を吸収せられ、村全體より望めば誠に損失多かりしを以て一般に産業組合の設立を希望するに至り大正十年十一月二十日設立を見たり。設立當時は一般組合員も理解する者少なく、利用者も僅少なりしが、役職員の不斷の努力に依り愈々發展を來し、大正十五年度に於て農業倉庫も建設を見、昭和大典記念には村是を制定し、爾來村役場農會、小學校、軍人會、青年團等各種團體と連絡協調し、村治全般の進展を計り相當其の實績を挙げつゝあり。

梅本藤太郎 辻 春 江 中川冬子

昭和十四年度成績

出資總額	三〇、六四〇圓	拂込濟出資額	三〇、四六三圓
積立金	一三、四四一圓	借入金	四六、一二八圓
貯金	六五八、一六九圓	貸付金	二〇五、六一七圓
販賣高	一八〇、九二七圓	購買品賣却高	四四、九八五圓
利用料	—	農業倉庫入庫數 米	一四、一四九俵

産業組合概況（坂田郡）

三〇五

保証責任 鳥居本村信用販賣購買利用組合

- 一、事務所所在地 坂田郡鳥居本村大字鳥居本千六百七拾七番地
- 二、設立年月日 大正十一年三月三十一日
- 三、区域内戸数 五九四戸
- 四、組合員数 六三七人
- 五、役員

組合長 宇治原十藏 専務理事 角田文右衛門
 理事 岩崎軍次郎 有川久次郎 西村四郎 原喜平次
 監事 有川茂三郎 居川祐次郎 西村捨藏
 書記 武田佐京 馬場彌三郎 北村繁雄 谷澤重右衛門
 上田祐次郎 森増夫

六、組合の概況

大正十一年三月三十一日設立、當時の組合員数二百八十二名及出資口数三百六十一口、昭和八年組織變更により保証責任となる、昭和十一年十月米穀自治管理事業の代行手續を了す。昭和十五年四種事業を兼營す。

昭和十四年度成績

出資總額	一一、八七〇圓	拂込済出資額	一一、八七〇圓
積立金	一一、四二二圓	借入金	—
貯金	五九一、二二二圓	貸付金	一一二、九四三圓
販賣高	一六、〇三九圓	購買品賣却高	二九、七三六圓
利用料	—	農業倉庫在庫數 米	一、六五四俵

保証責任 伊吹信用販賣購買利用組合

- 一、事務所所在地 坂田郡伊吹村大字伊吹參百九拾六番地
- 二、設立年月日 大正十一年四月四日
- 三、区域内戸数 四三〇戸
- 四、組合員数 四三七人
- 五、役員

組合長 高橋乾三

産業組合概況 (坂田郡)

産業組合概況 (坂田郡)

三〇八

理事	山堀宇平治	伊夫伎亀三郎	高橋善治	柳川久作
	伊富貴守正	三原直哉		
監事	中川左八	森新一	山堀治郎夫	藤田義一
	福田賢助	神戸四郎		
書記	堀内安治	三原直三	堀井修	伊夫氣俊太郎
雇	三原繁			
作業手	瀧澤直七			

六、組合の概況

昭和十四年度成績

出資總額	八、九二〇圓
積立金	一〇、七五二圓
貯金	三三三、三六八圓
販賣高	五八、七七二圓
利用料	七四圓

拂込済出資額	六、三一五圓
借入金	—
貸付金	八一、三五八圓
購買品賣却高	二二、七三六圓
農業倉庫在庫數	—

保證責任 近江蠶業販賣購買組合

- 一、事務所所在地 坂田郡長濱町大字南吳服五百九番地
- 二、設立年月日 大正十一年四月四日
- 三、區域内戸數 縣區域
- 四、組合員數 六、一八二人 (内法人六六八)
- 五、役員

組合長	宮川恒一
専務理事	荒田善次郎
理事	中野佐七
	奥村平太郎
	久木富治郎
	狩野新一
	森松美
監事	景山松樹
	猪飼清六
	森口泰治
	富居多吉
	加田桂三
	丸山粮藏



近江蠶業組合事務所

産業組合概況 (坂田郡)

三〇九



同組合製作場

六、組合の概況

大正十年蠶繭處理、繭の保管及金融の本縣唯一の機關として、近江蠶業倉庫株式會社を設立し、事業を開始せるも資金僅少にして

相井儀三郎	福野豊躬
石田與太郎	
井關省吾	松橋孫士
山田清衛	宇野隆治
古山正弘	
製絲部	
技師	小笠原精三
主事	福本俊三
書記	藤田彦太郎
監督員	山田三三、草野八一、廣
古田武男	澄田文子
山本康子	

漸く一部を充たすに留まり、一般業者の興望に到底副ふべくも非らざりしを認め、大正十一年四月四日縣の許可を得て、近江蠶業販賣購買組合を創立し、同會社と唇齒輔車の關係を保ち以て、本縣蠶絲業安定と當業者の福祉増進を企圖せり。大正十四年國は共同繭倉庫及共同乾繭装置に助成せらるゝに及び、卒先國策に順應し、設備の擴充をなすと共に、近江蠶業倉庫株式會社を買收し、八日市に支庫を建設せり。其後繭絲價の慘落に際し縣は急迫する時局に對處すべく、關係代表者會合十數回に及び、組合製絲設立を協議し、本組合をして其の經營の衝に當らしむることとなり、出資の増募、統制事業の助成等本縣蠶絲業政策施設と相俟つて、昭和七年五月製絲經營方針を決定し、七月元醒井製絲場を買收、事業を開始せり。翌八年繭絲價の大暴落に直面し、不幸巨萬の過渡金を生じ、事業運營上一大蹶跌を招來したるも、困苦精勵經營の合理化を圖り、縣の援助と組合員の協力に相俟つて漸く更生、幸に順調の經營を辿り現在八割以上の過渡金を償却し、尙四萬圓以上の配分平衡資金を蓄積するを得たるは一に縣の援助并に組合員の協力に外ならず。然して醒井製絲場既に腐朽し、繰絲機又舊式にして非能率的なるを以て之が新築を計畫し、國、縣、地元の寄附助成を得て、八日市町に新清なる建物と最新式機械の設備を完了し、爾來製絲の向上、能率の増進に銳意努力しつゝあり。

昭和十四年度成績

出資總額 五一三、七五〇圓
 積立金 三五一、九一二圓

拂込済出資額 二九五、七五二圓
 借入金 三八四、八一〇圓

産業組合概況 (坂田郡)

販 賣 高二、一五九、〇四二圓

農業倉庫入庫數 乾滿三七、八二六貫

保證責任 神田信用販賣購買組合

- 一、事務所所在地 坂田郡神田村大字加田貳千貳百七拾五番地
- 二、設立年月日 大正十一年五月二十六日
- 三、區域内戸數 二五〇戸
- 四、組合員數 二四一人
- 五、役員
 - 組合長 加田 桂三
 - 専務理事 茂森 宇右衛門
 - 理事 中野 松次郎 阪 源左衛門 伊 藤 喜作 西 堀 毅三
 - 岩崎 重左衛門 茂森 捨次郎
 - 監事 藤居 市郎平 大橋 武平 伊 藤 晋作
 - 書記 大橋 英一 大橋 松枝
- 六、組合の概況

設立以來不振なりしも、理事常勤制を確立し、銳意之れが事業振興に努力したる結果、信用、販賣、購買の各部事業順に進展し、愛國貯金忽にして三萬餘圓を得たるのみならず、各部事業は次表の如き數字を示すに至れり。

昭和十四年度成績

出資總額	三、五六〇圓	拂込済出資額	三、四六九圓
積立金	六、〇八一圓	借入金	—
貯金	二二九、七〇〇圓	貸付金	三六、三二四圓
販賣高	二五、四〇七圓	購買品賣却高	二三、九七〇圓
利用料	—	農業倉庫入庫數 米	二、九七八俵

保證責任 日撫信用販賣購買組合

- 一、事務所所在地 阪田郡日撫村大字顔戸壹千貳百拾四番地の壹
- 二、設立年月日 大正十一年六月二十二日
- 三、區域内戸數 二四一戸
- 四、組合員數 二四一人

五、役員

組合長	池野 榮一	専務理事	北居 傳三朗
理事	廣瀬 清右衛門		中野 源治郎
			須戸 作次
			田口 金次
監事	億谷 甚一		粕淵 豊藏
			藤田 千治
書記	中野 源一		

六、組合の概況

大正十一年六月二十二日設立、有限責任日撫信用販賣購買組合、昭和八年三月二十八日組織を變更し、保證責任とす、農事實行組合を加人せしめ農業發展擴充を圖る、同九年五月三十日農業倉庫業經營、同十一年十一月四日米穀統制組合作業代行、同十四年六月十四日農業倉庫増設、事務所移轉併設現在に至る。

昭和十四年度成績

出資總額	六、八四〇圓	拂込済出資額	六、七八八圓
積立金	五、〇〇三圓	借入金	—
貯金	一一三、八八四圓	貸付金	三八、五二八圓
販賣高	二四、二四一圓	購買品賣却高	五、一〇七圓

保證責任 東黒田信用販賣購買利用組合

一、事務所所在地 阪田郡東黒田村大字志賀谷千參百八拾五番地

二、設立年月日 大正十二年二月二十六日

三、区域内戸數 八四四戸

四、組合員數 八三一人

五、役員

組合長	高森助太夫	専務理事	—
理事	阿原 彌一	杉山 義夫	細井 藤市郎
	箕浦 藤吉	高畑 歸一	鹿取 徳太郎
	野澤 吉彌	池田 信三	堀江 喜一
監事	田中 呈司	大澤 覺造	川口 吉太良
書記	大橋 太良	川瀬 良造	高畑 善一
	大澤 いさを	筑摩 やゑの	—

六、組合の概況

産業組合概況 (坂田郡)

本組合は時の村長高畑友吉氏の献身的努力により大正十二年二月設立を見、爾來之れが普及徹底に努めたる結果一大發展を遂げ、現今に於ては別記の成績を擧ぐるを得たり。農業倉庫の建設に於ても同氏不眠不休の努力により昭和九年十一月竣工し、同年十二月其の經營を開始したるに年々利用者激増し、昭和十四年末に於ては本村販賣高の殆んど全部の利用を見たり。本組合は堅實なる事業の擴充と内容の整備刷新を圖るを以て信條となし、事變下に於ける産業組合の責務遂行に遺憾なきを期しつつあり。

昭和十四年度成績

出資總額	二〇、二〇〇圓	拂込済出資額	一九、八〇一圓
積立金	三七、〇七三圓	借入金	—
貯金	四七八、六三〇圓	貸付金	一二三、三四九圓
販賣高	二〇一、〇七二圓	購買品賣却高	三一、〇三五圓
利用料	—	農業倉庫入庫數 米	一四、六七四俵

有限責任 長濱信用組合

有限責任 長濱信用組合

- 一、事務所所在地 坂田郡長濱町大字西本四番地
- 二、設立年月日 大正十二年八月二十一日
- 三、區域内戸數 三、六〇〇戸
- 四、組合員數 一、三九〇人
- 五、役員

組合長	西島庄五郎	理事	富岡庄治郎	監事	菅原司馬太郎	主事	北村常三	書記	田邊長平	書記補	清水敏一
			吉田長藏		中川幸平		北川武三		武田嘉市		高田文雄
			藤居太次郎		伊藤半平		北島正太郎		北川勘次		宮崎正夫
			富田豊次郎				西邑庄治郎				
			西川徳左衛門								

雇 員 杉山 傳一

久保田 多美江

大橋 ウメ

田邊 とよ

六、組合の概況

歐洲戦亂後の恐慌に依り大打撃を被りたる、我が経済界は前途洵に憂慮寒心に堪えざるものあり。この秋に當り相互扶助の精神に立脚せる、自主的金融機關を設立し、勤儉貯蓄の美風を涵養し、地方産業及經濟の發展を圖らむとて、町長は町會に諮り、町會の決議に依り設立に着手し、大正十二年八月二十一日設立の許可を經、大正十四年九月市街地信用組合としての認可を得たり、昭和二年金融恐慌に際會し、設立後日尙淺く將に致命的創痕を受け破産の状態に瀕せしも、役員員始め組合員一致團結克く難關を突破し、昭和八年其の創痕も癒る爾來各種事業の分量も累年漸増の一途を辿り本日に至る。

昭和十四年度成績

出資總額	一二八、七〇〇圓	拂込済出資額	一四七、四三二圓
積立金	一三、三〇〇圓	借入金	一四、三一〇圓
貯蓄金	金二、六三五、一七六圓	貸付金	五五〇、七六〇圓

市街地信用組合

保證責任 息長信用販賣購買組合

一、事務所所在地 阪田郡息長村大字能登瀬壹千貳百八拾六番地の貳

二、設立年月日 大正十二年八月二十三日

三、区域内戸數 七三一戸

四、組合員數 七三〇人

五、役員

組合長 塚田英次

専務理事 庄司利八

理事 廣田徳重郎

北川善吉

長野平太郎

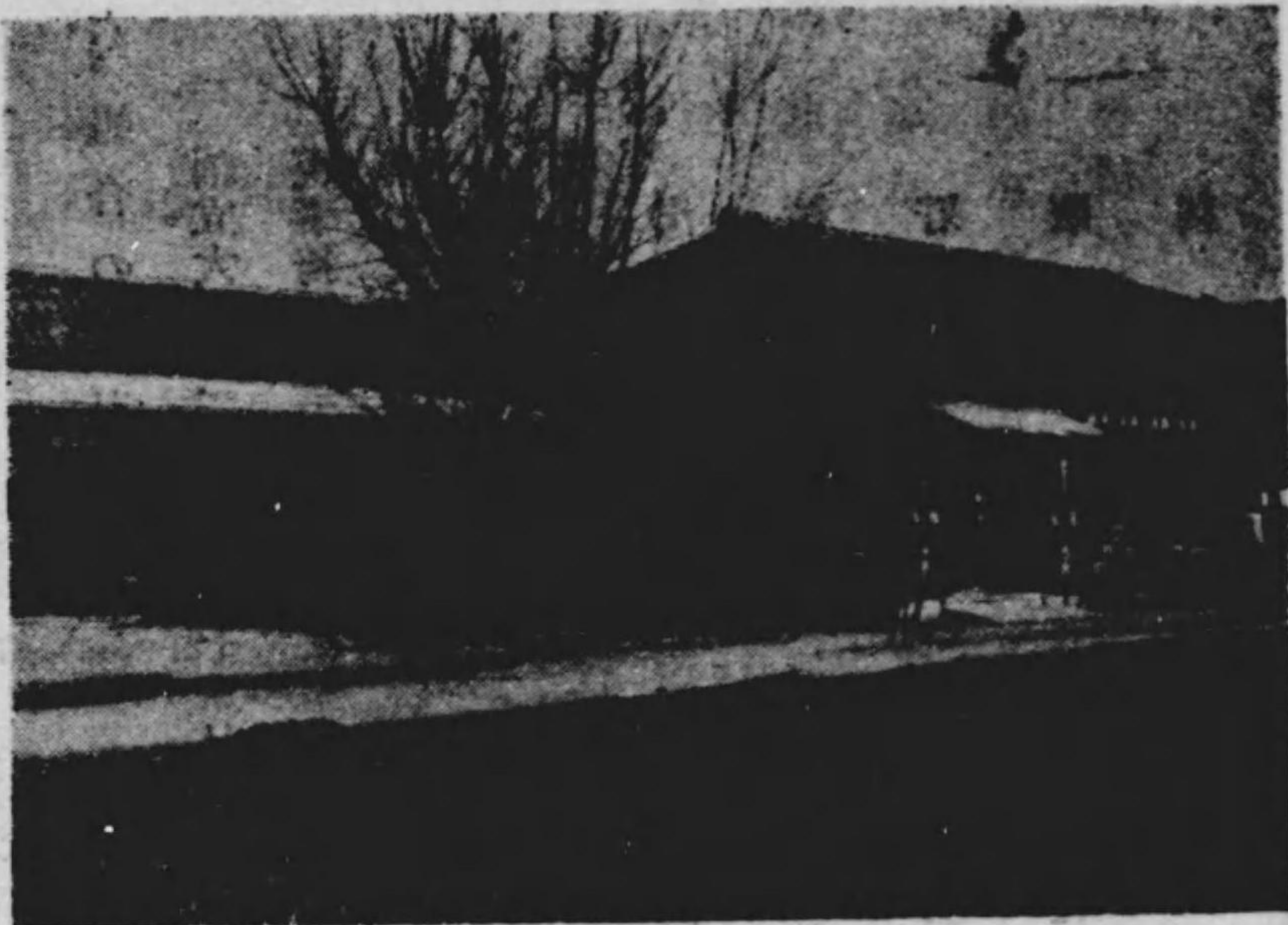
古野縫治郎

喜田健次郎

廣田藤五郎

河口捨三

澤村貞之助



息長信用販賣購買組合事務所

書記 田邊龜次郎 山田實寛 河居敬三 樋口やす子

六、組合の概況

創立大正十二年八月二十三日、息長村役場内に設立、當時有限責任、初代組合長河口芳太郎氏、大正十五年九月現事務所新築移轉今日に至る。昭和二年財界の一大恐慌に依り預入先銀行の閉鎖に遭遇し、致命的一大損失を蒙りたるも關係者の努力漸くにして報ひられ、昭和十三年に至り挽回の機運を示し、着々實績を擧ぐるに至れり。

昭和十四年度成績

出資總額	一一、六二〇圓	拂込済出資額	一一、五三六圓
積立金	一、四五〇圓	借入金	一、五一五圓
貯金	三八一、一九二圓	貸付金	七六、〇三五圓
販賣高	一五、三一五圓	購買品賣却高	一六、一九八圓
利用料	—	農業倉庫在庫數米	一、三一五俵

保證責任 息郷信用販賣購買組合

- 一、事務所所在地 阪田郡息郷村大字三吉五百六拾九番地
- 二、設立年月日 大正十三年一月二十三日
- 三、區域内戸數 五〇五戸
- 四、組合員數 四三八人
- 五、役員

組合長 吉田仙三郎 専務理事 泉 信 幸

理事 樋口剛男 北村文行 榮田源一郎 土川卯之助

中嶋佐平

監事 澤 文 藏 泉 直 吉 吉田八十郎

書記 堀音次郎 岩崎 敏 北河節三 山本廣子

六、組合の概況

大正十二年十二月二十七日定款を定め、翌年一月二十三日設立許可せられ、組合員數三百二十名、總出資額壹萬四千壹百圓にして現在、貳萬壹千五百圓に比し著しく進展の跡を示せり。昭和八年二月二十二日、有限責任を保

責任に變更す、昭和十年三月二十六日農業倉庫業の經營を爲すを見たるは洵に喜ぶべきことにして、此の機に臨み更に一層本機能發揚に全力を傾倒せんとす。

昭和十四年度成績

出資總額	二〇、六二〇圓	拂込濟出資額	二〇、五三二圓
積立金	一、六〇〇圓	借入金	一二、六四〇圓
貯金	二六四、五八四圓	貸付金	七七、三六〇圓
販賣高	七、七三九圓	購買品賣却高	二七、六七六圓
利用料	—	農業倉庫入庫數	米 二〇三俵 菜種 二一七畝

保責責任 米原信用販買購賣利用組合

- 一、事務所所在地 坂田郡米原町大字米原貳百貳拾五番地
- 二、設立年月日 大正十四年十二月二十六日
- 三、區域内戸數 一、三三三戸

四、組合員數

八〇七人

五、役員

組合長	杉村傳四郎	専務理事	—
理事	角田惣次	北村源十郎	樋口兵次
	草川龜次郎	中川半右衛門	角田清右衛門
監事	伊藤安吉	濱川三彌	北村外松
	松原善右衛門		田邊善四郎
書記	藤居惣左衛門	高橋七五三一	北村榮一
	官部嘉一	川崎芳藏	谷利秀子
			吉河いとゑ
			川村一郎

六、組合の概況

創設大正十四年十二月二十六日、翌年度より事業を開始し、専ら信用事業を主としたるも、翌々年全国的金融恐慌の餘波を受け、創立間も無き本組合は瀕死の打撃を蒙りたるも、隠忍持久數年にして自らの損失も充填して、昭和七年三月獨立の事務所を設け購買事業の兼營を開始す、其の後は時代の趨勢と共に順調の發展擴張を來し、販賣、利用事業も兼營し現在に及び。其の間有限責任を保証責任に變更し、其の後六百五十名の組合員は八百十名に増加し、専ら内容の整備強化を圖り、其の使命達成に努力を拂ひつゝあり。

昭和十四年度成績

産業組合概況 (坂田郡)

出資總額	三三、八〇〇圓	拂込済出資額	三一、〇八四圓
積立金	一三、〇〇〇圓	借入金	六、一九四圓
貯金	五五一、三五四圓	貸付金	一七四、九六六圓
販賣高	一〇六、二八一圓	購買品賣却高	一九、二七六圓
利用料	—	農業倉庫入庫數	米 一二、五四五俵

保證責任 柏原村信用販賣購買利用組合

- 一、事務所所在地 坂田郡柏原村大字柏原貳千百四番地
- 二、設立年月日 大正十五年四月二十日
- 三、區域内戸數 七七二戸
- 四、組合員數 七一〇人
- 五、役員
 - 組合長 山澤寛一
 - 専務理事 谷本喜代市
 - 常務理事 吉田博三 上村助左衛門

理事	野村敬吉	宮川眞造	池田由太郎	吉田幸次郎
監事	山本源三郎	小路查一		
書記	西川瀬太郎	石田吉五郎	吉田宗三郎	
	谷本守	北澤勝郎	谷口和子	田中久雄

六、組合の概況

昭和七年十一月十八日農業倉庫新設(本庫四十坪、下屋二十坪一棟)同八年三月二十二日保證責任に組織變更、同十一年十一月四日米穀自治管理事業代行、同年十二月二十日事務所新築、同十三年一月二十三日利用部設置、同十四年四月より簡易製材所開始、同年十月一日購買雜庫新設(建坪四十坪一棟)

昭和十四年度成績

出資總額	四一、六八〇圓	拂込済出資額	二四、四四四圓
積立金	一一、三一七圓	借入金	三、七二六圓
貯金	四六六、二二五圓	貸付金	一三九、九五〇圓
販賣高	五八、九七三圓	購買品賣却高	—
利用料	二、四九一圓	農業倉庫入庫數	米 四、七八四俵
			麥 二四三依
			菜種 二二三呔

産業組合概況 (坂田郡)

保証責任 大原村信用販賣購買利用組合

- 一、事務所所在地 坂田郡大原村大字市場四百拾壹番地
- 二、設立年月日 昭和五年三月二十六日
- 三、区域内戸数 七六三戸
- 四、組合員数 六九〇人
- 五、役員

組合長	山中貞藏	専務理事	佐々木政七
理事	堀田又四郎		大橋晋吉
	鹿取仙三		戸田捨之進
	溝口三代吉		今中精一
	岩島孝助		宮川森治
	今中仲治		野一色正義
	山中光之助		山口寛治
	松田貞尾		村田義一
			三橋常與門
監事			平井金吾
			大橋友藏
書記			野一色義勝
			宮川省一
			鈴木源導
			池田きみ

六、組合の概況

由來我が大原村には産業組合法發布後間もなく、明治三十五年頃既に信用組合并に生産販賣、購買組合相前後して設けられたり。然るに一朝解散の餘義なき運命となり、之が整理に相當の日子を要したりしも、幸昭和四年四月七日之か精算を完了し、報告總集會を大原小學校内に開催せり。その席上に於て満場の申し合せたるが如く時代は更に再興の要ありとなし、更に其の設立を企圖すべきことを約して散會し、遂に昭和九年六月新に現組合を設立し、郷黨相和し今日の實績を擧ぐるに至れり。

昭和十四年度成績

出資總額	一六、一七〇圓	拂込済出資額	一六、一七〇圓
積立金	一〇、六三二圓	借入金	—
貯金	四九一、四四四圓	貸付金	八九、八三三圓
販賣高	一六二、一二七圓	購買品賣却高	三三、六〇六圓
利用料	—	農業倉庫入庫數 米	九三八五俵

東淺井郡

保證責任 下草野村信用販賣購買利用組合

- 一、事務所所在地 東淺井郡下草野村大字北の郷九拾五番地
- 二、設立年月日 明治四十三年四月一日
- 三、区域内戸数 三七〇戸
- 四、組合員数 四二三人
- 五、役員

組合長 堤 定 治 専務理事

理事 草野新藏 大東七郎 草野永吾 清水太郎

監事 山崎正一 山崎五良 杉江準三郎

書記 伊吹耕造 岩嶋安太郎 川崎義隆 大久保信吾

伊吹一美 丸山外士 伊吹省三 草野富士夫

六、組合の概況

明治四十二年八月湖北震災の義捐金を以て意義あらしめる爲め之れを基本として各人に出資せしめ創立したるも組合員の認識浅くして、發達遅々たる中に職員の不正事件あり、一時は解散を稱へられたるも、當時役員の方力と監督官の督勵指導により漸く復活し、今日の業績を擧ぐるに至れり。

昭和十四年度成績

出資總額	一八、九九〇圓	拂込濟出資額	一八、八四二圓
積立金	一四、〇〇〇圓	借入金	八、〇八四圓
貯金	三二八、七〇七圓	貸付金	一〇九、五五〇圓
販賣高	一二〇、七八九圓	購買品賣却高	三七、〇六三圓
利用料	五九圓	農業倉庫入庫數	米 八、八八七俵

保証責任 大郷村信用販賣購買利用組合

- 一、事務所所在地 東淺井郡大郷村大字川道二千五百四拾五番地
- 二、設立年月日 明治四十三年六月十日
- 三、区域内戸數 一、〇七六戸
- 四、組合員數 一、二二一人
- 五、役員

組合長	大濱太郎兵衛	専務理事	中川泰藏
理事	奥村清五郎	岸本貞一	乾真太
監事	中川謙治	辻田太一	西村庄太郎
主事	林悦郎		
書記	岸本源治	澤村舜造	西尾鐵藏
	西川清三郎	中川融	周防正雄
雇員	高原重衛	香水勘一	香水敏榮
			澤村多嘉

六、組合の概況

馬淵一恵 漣 竹子

明治四十二年八月虎姫地方に大震災ありて、倒壊、半壊、死傷者を出して其被害尤も多く、各地より見舞金を恵與せられたり。此金員を無意に使用するを避け、組合設立の出資金となすの意見纏まり、明治四十三年六月十日設立許可を受けたり。事務所を村役場内に設置、役場書記兼務して殆んど名目丈の組合なりしも、爾來大正四年保証責任を有限と改め、大正五年十二月事務所を役場地内に建築して獨立し、稍其存在を認められ、大正八年頃より漸次發展を見る。昭和八年三月更に保証責任に變更し、事業分量の増加に伴ひ、事務所狹隘を告げたるを以て、昭和八年十月現在の事務所を建築し、事業發展の一路を辿り今日に至る。

昭和十四年度成績

出資總額	五二、八九〇圓	拂込済出資額	三九、二三四圓
積立金	三二、五七二圓	借入金	四八、三〇八圓
貯蓄金	一一、一五、一九一圓	貸付金	三七八、七八七圓
販賣高	五三、三九九圓	購買品賣却高	六二、九四七圓
利用料	一五圓	農業倉庫入庫數 米	八、五〇七俵

保證責任 湯田村信用販賣購買利用組合

- 一、事務所所在地 東淺井郡湯田村大字内保壹千六拾五番地の貳
- 二、設立年月日 明治四十三年六月十三日
- 三、区域内戸數 七六二戸
- 四、組合員數 八〇七人
- 五、役員

組合長 北河吉太郎 専務理事 田中繁次郎
 理事 三田辰象 大依政美 金森由太郎 北川惣吉
 金子亮次 中村光之 藤森孝三 水谷幸造
 金子亮一 宮本重藏
 監事 西橋已之助 中瀬専太良 北川良造 井上寛一
 樋口恒男 川添金作 北村謙三 梅本重夫
 水谷 勇 三田 讓 井上信夫 荻下芳雄
 菅井政美

六、組合の概況

明治四十二年八月十四日午後一時突如來襲せる、湖北の大震災は其の被害夥しく、本村に寄贈されたる義捐金のみにても、壹萬四千有餘圓の多額に及べり、而して當時村長たりし小山義象氏は之が一般同胞の義舉を永久に記念すると同時に轉禍爲福の策として、慰問金の一部を割きて資金とし産業組合の創設を企圖し、明治四十三年六月十三日組合設立の許可を得るに至れり、爾來組合員並出資金額の増加となり、更に昭和八年五月五日組織を變更し、保證責任湯田村信用販賣購買利用組合となし、其後逐年事業分量躍進的に發展をなし、左の如き成績を收め今日に及べり。

昭和十四年度成績

出資總額	三三、四八〇圓	拂込済出資額	三三、四六六圓
積立金	四七、六五一圓	借入金	七、九二六圓
貯金	六八六、四九五圓	貸付金	一二七、五二三圓
販賣高	二二五、六三六圓	購買品賣却高	五九、四五〇圓
利用料	七一二圓	農業倉庫入庫數 米	一一、一二八俵

産業組合概況 (東淺井郡)

保証責任 田根村信用販賣購買利用組合

- 一、事務所所在地 東淺井郡田根村大字高畑參百拾七番地
- 二、設立年月日 明治四十三年九月六日
- 三、区域内戸數 五五三戸
- 四、組合員數 五八三人
- 五、役員

- 組合長 佐治貞太郎
- 理事 速水宗兵衛 高木駒一
- 川村榮太郎 柴田孫太郎
- 阪田嘉一 梅本宅次
- 伊藤由太郎 高田賢治
- 橋本他一
- 中居仲彌
- 河村政春 青山 茂
- 書記



田根村組合事務所並作業場



六、組合の概況

明治四十二年八月十四日東淺井郡中心の大地震ありて被害甚大なり、此際震災を記念として一路村の復興に努力し全國より蒐る多額の義捐金を以て、茲に出資に充て本組合を形成し、爾來滿三十二年を経て現況に及ぶ。
現今の建物及設備

矢守行三 將亦武夫 植谷一豊 小野元頑
福田重佐

名	稱	數	量	總經費	時價	摘要
事務所建物	二棟	三十二坪	外階上二十坪	六、六〇三〇〇	四、五〇〇〇〇	昭和三年十月建設
コンクリート二階立及附屬建物	二棟	本棟七十坪 外屋二十八坪		九、一九〇〇〇	六、三〇〇〇〇	昭和九年十月建設
農業倉庫 (土蔵瓦葺)	二棟	九十三坪	外二階上十二坪	七、〇二三〇〇	四、二〇〇〇〇	昭和十二年十月建設
作業場及物品置場	二棟	九十三坪	外二階上十二坪	七、〇二三〇〇	四、二〇〇〇〇	昭和十二年十月建設
利 用 設 備		精米機二 製粉機一	精麥機一 小型自動車一	四、五七〇〇〇	一、九三九〇〇	同年同月建設

昭和十四年度成績

出資總額 一七、五五〇圓

拂込済出資額

一七、四六三圓

産業組合概況 (東淺井郡)

三三五

積立金	一二、六六三圓	借入金	二〇、六五〇圓
貯蓄金	五二五、九〇六圓	貸付金	一五一、三六六圓
販賣高	一六五、九九三圓	購買品賣却高	五一、七九一圓
利用料	八八五圓	農業倉庫入庫數	米 八、九四八俵

保証責任 上草野村信用販賣購買利用組合

- 一、事務所所在地 東淺井郡上草野村大字野瀬第九百七拾五番地
- 二、設立年月日 明治四十三年十月十四日
- 三、区域内戸數 七八九戸
- 四、組合員數 七九七人
- 五、役員
 - 組合長 小林清太郎
 - 理事 高山彦繁 宮元善之助 元井彦之進 北川臺藏
 - 池澤英三 奥長丹藏 草野京藏 寺前彦三郎

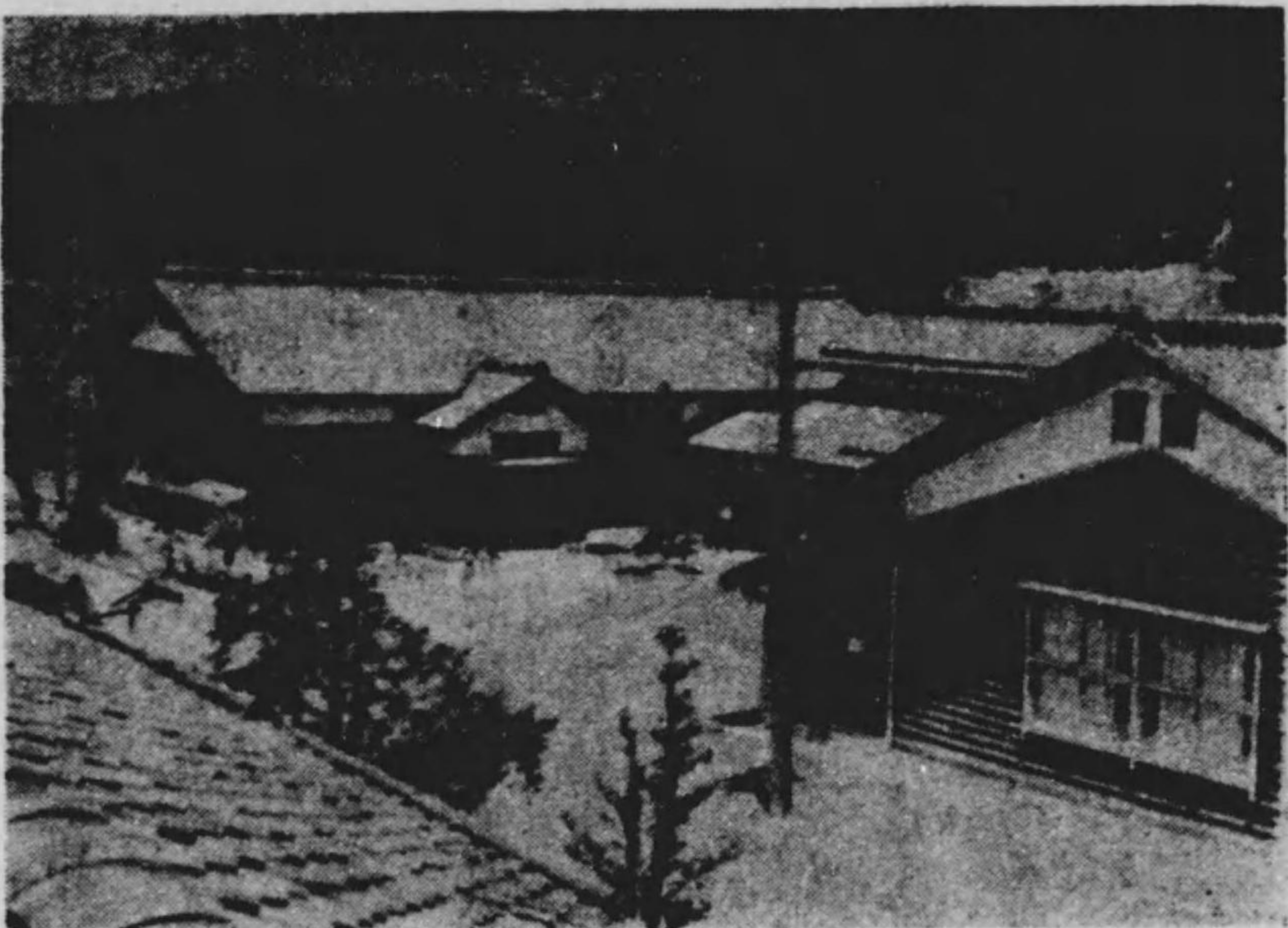
監事	押谷善助	高山七藏	草野文吾
書記	草野政之進	今井與	小林茂昭
	青井彦市	宮元善平	榊谷あや子
			押谷三郎

六、組合の概況

明治四十三年設立後役場内に於て、事業開始したるも成績向上せず。十三年間に漸く貯金に於て金四百拾六圓九拾八錢、貸付金に於て金壹千六百八拾貳圓六拾壹錢なりしが、大正十一年十一月一日役場より分離して、事務所を開き今日に及びり。

昭和十四年度成績

出資總額	二三、五八〇圓	拂込濟出資額	二三、五七七圓
積立金	四三、〇五四圓	借入金	三、一二五圓
貯金	七六六、〇三八圓	貸付金	二二五、六〇二圓
販賣高	—	購買品賣却高	四〇、〇五九圓
利用料	—	農業倉庫入庫數	—



小谷村組合事務所

保証責任 小谷村信用購買販賣利用組合

昭和七年四月二十五日 産業組合中央會より表彰

- 一、事務所所在地 東淺井郡小谷村大字丁野五百拾八番地
- 二、設立年月日 明治四十三年十一月二十九日
- 三、区域内戸數 五四五戸
- 四、組合員數 五五二人
- 五、役員

- 組合長 狩野新一
- 専務理事 佐野善左
- 理事 協阪駒吉
- 監事 山口助次郎
- 上田政次
- 中谷五市
- 神田市二郎
- 協坂辰二

六、組合の概況

本組合は明治四十二年八月十四日突發せし湖北大震災に依る、社會同情義捐金の内貳千七百七十五圓五十錢を、第一回出資に充て轉禍爲福の目的を以て、當時の川島本縣知事、小川本郡長の強行勸奨に依り、明治四十三年十一月設立許可を得たるも、當時組合員の認識不足と強制出資の反感に依り、第二回の出資を實行し得ず、只名目のみの儘にて空しく數年を経過せり、大正十二年有限責任に改むると共に全面的定款の變更を爲し、一意組合精神の普及に努むると共に縣下に卒先して、産業組合青年聯盟を結成して組合内外の陣容を整備せり、爾來着々進展の曙光を見、昭和七年四月産業組合中央會の選彰に浴し、昭和九年村内最適の地を選び部落綜合的の農業倉庫五棟を建設し、同年縣經濟更生村に指定を得、五箇年計畫を樹立し之に向つて猛進、昭和十三年更に特別助成村に選定の榮を得、三箇年計畫を以て共同作業場を建設し共同利用と作業の進展を期し、尙購買品倉庫の移轉改築事務所新築し、茲に一般機構の整備を完成し一路各事業の進展に辿りつゝあり。

昭和十四年度成績

出資總額	二八、六〇〇圓	拂込濟出資額	二七、二三五圓
積立金	四二、四一五圓	借入金	八、〇八九圓

産業組合概況（東淺井郡）

産業組合概況 (東淺井郡)

三四〇

貯立金 六六三、八七四圓
 販賣高 二六一、八五六圓
 利用料

貸付金 一五四、二九六圓
 購買品賣却高 三八、四〇八圓
 農業倉庫入庫數 米 一四、二二〇俵

保證責任 七尾村信用販賣購買利用組合

- 一、事務所所在地 東淺井郡七尾村大字佐野百拾六番地
- 二、設立年月日 明治四十三年十二月三日
- 三、区域内戸數 三七八戸
- 四、組合員數 三九九人
- 五、役員

組合長 多賀壽兵衛 専務理事 伊吹六治
 理事 宮川宗作 佐野源七郎 大澤米治郎 來本藤治郎
 監事 山田豊三郎 今莊彌太 伊吹助藏
 藤田新太郎

書記 山田清一郎 伊吹新次
 庶務 山田長策 藤田まさき

六、組合の概況

明治四十二年八月本郡を振源地として大震災に遭遇し、各府縣より同情義捐の金品を受け、其の一部を出資に充當し、時の郡長の勸奨に依り産業組合の設立を企て、翌四十三年十二月設立許可を得たり、當時一部民の反對等ありしも、克く之を勸説して事業の振興を企圖し大正十一年購買事業、昭和七年販賣事業の開始を爲せり、今や村民一般の喜ぶ所となり、日に發展の一路を辿りつゝあり。

昭和十四年度成績

出資總額	二五、〇〇〇圓	拂込濟出資額	二〇、七二九圓
積立金	一三、九二五圓	借入金	二五、二八五圓
貯金	三三五、八二八圓	貸付金	九三、三七七圓
販賣高	一五六、八八四圓	購買品賣却高	二五、一一一圓
利用料		農業倉庫入庫數	米 八、四二六俵
		茶種	一、〇三二俵

産業組合概況 (東淺井郡)

三四一

保証責任 竹生村信用販賣購買利用組合

一、事務所所在地 東淺井郡竹生村大字富田第貳百四拾七番地

二、設立年月日 明治四十三年十二月六日

三、区域内戸数 五五一戸

四、組合員数 六二〇人

五、役員

組合長 伊藤藏之助 専務理事 前田仙太郎

理事 米澤秀太郎 森 幸太郎 沓水文郷 松井米吉

前川伊左衛門

監事 林 恒司 神丸亮三 堀 承一

書記 前田正美 青根秀夫 田中久治 村田逸雄

前田光雄

六、組合の概況

明治四十三年十二月八日竹生村信用組合設立、大正十三年四月十六日有限責任竹生村信用販賣購買組合、昭和九年三月七日保証責任竹生村信用販賣購買組合、同年六月四日農業倉庫經營、昭和十四年四月六日保証責任竹生村信用販賣購買利用組合、明治四十三年度末組合員三〇人、出資金一五五圓、現在組合員數六二〇人、出資金一二、七六〇圓、貯金四五二、六六七圓、當組合に於ての特徴として、著しく掲記すべきものなきも強いて一二を表すれば、毎朝參勤役職員は、組合安置の祭神に拜禮の上先着員に「お早う」の挨拶を述べ各持場に着き、事務の開始を爲す、四種事業の内特に生産事業より爲す、販賣組合に重點を置く、月掛貯金の勵行等、凡そ新舊を問はず村並に組合員の利福を享受すべき事績に關しては、直ちに實行に移すのみに止めず、積極的永續的實行に力むる事とせり。

昭和十四年度成績

出資總額	一二、七五五圓	拂込済出資額	一二、六九〇圓
積立金	一三、一九七圓	借入金	二八、二二八圓
貯金	四三八、八四九圓	貸付金	一四三、三四九圓
販賣高	一七一、二二五圓	購買品賣却高	三〇、七七〇圓
利用料	—	農業倉庫入庫數	玄米 八、五一三俵
			白米 一、八五〇俵



虎姫信用購買販賣利用組合事務所

保証責任 虎姫信用購買販賣利用組合

- 一、事務所所在地 東淺井郡虎姫村大字五村百貳番地
 - 二、設立年月日 明治四十三年十二月七日
 - 三、区域内戸数 一、一九七戸
 - 四、組合員数 八七六人
 - 五、役員
- | | |
|------|-------------|
| 組合長 | 藤田俊三 |
| 専務理事 | 余須茂生 |
| 理事 | 西村繁三 齋場圓治 |
| | 北川忠三郎 長谷川 茂 |
| | 岸田源吾 |
| 監事 | 村上善正 小崎喜之助 |
| | 馬場卯吉 |
| 書記 | 武藏武男 米田軍三 |

六、組合の概況

本組合は設立以來順調に發展し來りたるも、大正の末期並昭和の初に於て、放漫なる貸付の結果多額の不良貸付金を包蔵したるの外、近江銀行破産に依り、預金未回収及利息未收金等に因り、經營に一頓挫を來したるも、組合長以下眞摯なる更生に努力の結果、昭和三年度より昭和十四年度に至る十二箇年度間に六萬餘圓の整理銷却を行ひ初めて剩餘金を見るに至れり、爾來忍苦經營幸に今日の業績を擧ぐるに至れり。

昭和十四年度成績

出資總額	二〇、四四〇圓	拂込濟出資額	二〇、四四〇圓
積立金	五、四二一圓	借入金	九、二五二圓
貯金	八八〇、二七七圓	資付金	一九八、一三一圓
販賣高	二二〇、五四二圓	購買品賣却高	三六、三四〇圓
利用料	二圓	農業倉庫在庫數	玄米 一六、五五三俵
			小麥 二七俵
			茶種 一一五叭
			大麥 一三六俵
			大豆 九三俵

保証責任 速水信用購買販賣利用組合

一、事務所所在地

東淺井郡速水村大字速水壹千貳拾八番地の壹

二、設立年月日

明治四十四年一月二十三日

三、區域内戸数

六五四戸

四、組合員数

六五三人

五、役員

組合長 南部謙治

専務理事 松山豊司

理事

赤井増藏

中川幸助

藪田賢三

鳥塚泰治郎

赤井英三

臼井恒治

關谷民三

南部金偉智

清水清一

武田武八

廣部信雄

竹内清八郎

關谷久左小

金田孫藏

藤田周一

監事

藤田泰一郎

關谷與之朗

近藤俊雄

竹内清

柴辻久尾

清

六、組合の概況

明治四十二年八月十四日虎姫地方を中心とする大震災ありたり、時に同情厚く義捐金を寄せらる、茲に義捐金の幾分を以て設立す、爾來隆々發展の一路を辿る、我組合の産青聯活動は他に其の追従を許さず、眞に村民打て一丸となりて、組合運動の陣營に協力しつゝあり。

昭和十四年度成績

出資總額	二五、一二〇圓	拂込済出資額	二五、一二〇圓
積立金	三〇、〇六一圓	借入金	—
貯金	五〇七、九七九圓	貸付金	一〇六、四七五圓
販賣高	二一九、一一一圓	購買品賣却高	四六、四九三圓
利用料	—	農業倉庫入庫數	米 五、五六八俵

保証責任 朝日村信用販賣購買利用組合

一、事務所所在地

東淺井郡朝日村大字山本千百五拾番地

二、設立年月日

大正十年五月十二日

産業組合概況 (東淺井郡)

- 三、区域内戸数 七〇三戸
- 四、組合員数 七四五人
- 五、役員

組合長	西村亮藏	専務理事	吉川芳三
理事	山崎重藏	片山竹太郎	吉田重一
	岩井駒六	武田義三	杉本外治郎
	石川耕一	大村健治郎	山本徳一
監事	隼瀬源治郎	五坪亀藏	杉山泰助
書記	中澤利明	國友祥治	藤居助左
	岩佐智	河越房代	片山加津江
			藤本儀右衛門
			丸岡仙壽

六、組合の概況

明治四十二年當地方の大震災を機として、隣村に産業組合の設立を見たるも、當村は政黨の弊により、計畫されたるも實現を見ず、他村組合の發展を傍觀しつゝありしも、大正十年五月十二日遂に設立を見るに至る、大正十四年十二月には農業倉庫を虎姫驛前に建設、昭和六年十月には事務所を新築、昭和七年四月には産青聯を結成し主として、販賣購買事業に協力す、昭和八年三月には有限責任を、保證責任に組織變更を爲す、昭和十一年十一

月には米穀統制組合の事業を代行す、昭和十四年三月には利用事業を併設し、総合的經營に進み今日に至る。
昭和十四年度成績

出資總額	一七、四二〇圓	拂込濟出資額	一七、四二〇圓
積立金	一七、七四〇圓	借入金	一七、〇四六圓
貯金	七七六、四三六圓	貸付金	二二六、一七八圓
販賣高	二六八、五一六圓	購買品賣却高	五六、七八四圓
利用料	—	農業倉庫入庫數 米	九、五七四俵

保證責任 東草野村信用販賣購買利用組合

- 一、事務所所在地 東淺井郡東草野村大字吉槻壹千參百五拾六番地
- 二、設立年月日 昭和十年七月二十二日
- 三、区域内戸数 三六〇戸
- 四、組合員数 二一五人
- 五、役員

組合長	長谷又兵衛	専務理事	世一萬治郎	赤田喜作	北川藤義
理事	細川作四郎		伊賀並傳四郎	草野文吉	
監事	長谷長治		仲川正四九	林末	
書記	草野傳治郎				

六、組合の概況

昭和十四年度成績

出資總額	四、〇二〇圓	拂込済出資額	二、七五五圓
積立金	—	借入金	—
貯金	二六、九二二圓	貸付金	二、七四九圓
販賣高	一一、九七一圓	購買品賣却高	四、〇五四圓
利用料	—	農業倉庫入庫數	—

伊香郡

保證責任 永原信用購買販賣利用組合

(昭和二年十月二日産業組合中央會より表彰)

- 一、事務所所在地 伊香郡永原村大字庄村貳拾壹番屋敷
- 二、設立年月日 明治三十七年五月二十三日
- 三、區域内戸數 七二〇戸
- 四、組合員數 六七八人
- 五、役員

組合長	谷口久次郎	専務理事	中田助二郎
理事	殿村官藏	上村鉄次郎	小久保八郎兵衛
	山岡富三郎	大田平七	坂井忠太郎
	西村長之祐	大田徳藏	田中吉五郎
			安藤國吉

監事 田中重吉 橋本勘三郎 建部清六
書記 西村保次郎 柳谷清一郎 三宅こま 谷口久藏
谷口健治 山瀬郷三 山岡兵藏 田中榮治郎

六、組合の概況

設立當初は一般に組合に対する理解なく、一部落に發達の傾向を來たせるも、大正六年購買事業に力を注ぎ四箇所に店舗を開設せるより、頓に組合員を獲得し、村内全部に亘り自然的發達を示し、特に近時統制經濟による、組合の使命重大を加ふると共に利用程度を愈々増しつゝあり。信用購買販賣利用各部に亘り、併進的發展を遂げ且つ部落間の聯絡に就ては三箇所に支所、又は出張所を置き村内各部落共に利用されつゝあり。組合長並に他二三の理事及職員の大部分は、二十箇年に亘る勤績者にして、地域の特長事業上の分擔等に關し是に精通し、施設の適否に付研究し、なるべく役職員の無意味なる交代はなさず、協力一致今日に至れり。

昭和十四年度成績

出資總額	一七、九八〇圓	拂込済出資額	一七、八一四圓
積立金	五六、五八九圓	借入金	四三、七九四圓
貯金	四二五、三二六圓	貸付金	一四六、一七〇圓
販賣高	一七四、四五一圓	購買品賣却高	六二、六六六圓

利用料 二、三二一圓

農業倉庫入庫數

米 八、三四二俵
穀 一、三八〇俵
葉 一、二六五〇貫

無限責任 丹生村北部信用販賣購買利用組合

- 一、事務所所在地 伊香郡丹生村大字田戸貳百四拾九番地
- 二、設立年月日 明治四十三年十月十三日
- 三、區域内戸數 九七戸
- 四、組合員數 八二人
- 五、役員

組合長 森下助松 専務理事
理事 川口次良八 横山千代松 今井孫市 久保吉治郎
監事 山口傳治郎 中川四郎 橋詰留松 横山正民
書記 久保又治郎

六、組合の概況

昭和十四年度成績

出資總額 九、〇〇〇圓

拂込済出資額

二、五八一圓

産業組合概況(伊香郡)

三五三

産業組合概況（伊香郡）

三五四

積立金	〇〇〇	借入金	二五、八九五圓
貯蓄金	三一、二三四圓	貸付金	二四、九三四圓
販賣高	二一、三七〇圓	購買品賣却高	一五、七三九圓
利用料	一六四圓	農業倉庫入庫數	—

保證責任 塩津村信用購買販賣利用組合

- 一、事務所所在地 伊香郡鹽津村大字鹽津濱九百六拾番地
- 二、設立年月日 明治四十四年二月二日
- 三、区域内戸數 五六四戸
- 四、組合員數 五六四人
- 五、役員
 - 組合長 澤田信一郎
 - 専務理事 田中孝之助
 - 理事 岡田源内 宮田直治郎 谷口與助
 - 監事 山岡重太郎 辻久米吉 松田和市

書記 宮川右京 山岡一男 中井孝策 澤田爲藏
 竹田幸作

六、組合の概況

昭和十四年度成績

出資總額	一四、六六〇圓	拂込濟出資額	一四、二七三圓
積立金	二二、〇二五圓	借入金	—
貯蓄金	二一九、八五七圓	貸付金	四〇、二七五圓
販賣高	五二、九三〇圓	購買品賣却高	三四、六一〇圓
利用料	—	農業倉庫入庫數	米 三、二二六俵 藥種 一、〇八〇貫

無限責任 杉野村信用販賣購買組合

- 一、事務所所在地 伊香郡杉野村大字金居原千七百七拾八番地
- 二、設立年月日 明治四十五年七月二十日
- 三、区域内戸數 一九〇戸

産業組合概況（伊香郡）

三五五

四、組合員数 一九〇人

五、役員

組合長 中井信須 専務理事 岩井與惣治

理事 堀 貞太郎 藤田三治

監事 山田捨松 山田惣吉

書記

六、組合の概況

本組合は明治四十五年七月の設立にして、大字金居原を区域とせる、信販購の三種事業兼營の部落組合なるも、区域内全戸を組合員に包擁し、地理的に恵まれざる山間僻地の組合員の不利不便を、漸次充足緩和せしめ、名實共に山村經濟の中樞機關として、克く其の機能を發揮し、區民經濟の更生に寄與しつゝあり。

昭和十四年度成績

出資總額	五、七〇〇圓	拂込濟出資額	五、七〇〇圓
積立金	三〇、九四〇圓	借入金	二〇、九〇一圓
貯金	一六八、八八一圓	貸付金	八一、七五一圓
販賣高	五四、八二二圓	購買品賣却高	三一、八三六圓
利用料	—	農業倉庫入庫數	—

保證責任 七郷村信用購買販賣組合

一、事務所所在地

伊香郡七郷村大字横山貳百九拾八番地

二、設立年月日

大正七年四月二十日

三、区域内戸數

三四五戸

四、組合員數

三四八人

五、役員

組合長 宮本秀八

専務理事 小野丹一郎

理事 吉内卯内

平川億治郎

上松慶作

中橋喜八

藤本角五郎

片山秀信

平井與四郎

監事 水上三津治

雨森九郎右衛門

北川嘉平

片山惣市

磯野新一

書記 川越三雄

雨森五郎

福田正一

六、組合の概況

産業組合概況 (伊香郡)

大正七年四月大字西物部に創立、大正の末期より昭和初年にかけて、一時逆境に陥りたるも、時の組合長片山侃氏外職員並に一般組合員の協力理解により、雄々しくも立ち上り、漸次進展の一路を辿り、今や村経済の中樞機關として、参百餘名組合員の爲に日夜活動を爲しつゝあり。

昭和十四年度成績

出資總額	四、四二〇圓	拂込済出資額	四、四一五圓
積立金	四、八六七圓	借入金	—
貯金	二八八、九六四圓	貸付金	三一、一七〇圓
販賣高	二〇二、八二九圓	購買品賣却高	二二、六八一圓
利用料	—	農業倉庫入庫數 米	一一、三二〇俵

保證責任 北富永村信用販賣購買利用組合

- 一、事務所所在地 伊香郡北富永村大字井口壹百五拾六番地の壹
- 二、設立年月日 大正九年二月九日
- 三、區域内戸數 三〇八戸

四、組合員數 三一九人

五、役員	組合長 森川七右衛門	専務理事	—
	理事 島村五八郎		小森定吉 高橋弘治 高橋傳
	監事 山内喜重郎		高橋正平 大橋五三郎 竹内一郎
	書記 西嶋長治郎		伊吹榮造 高橋悌二 門池元治郎
			長谷川與兵衛 松橋善政
			松橋助太郎 荒木孫太夫

六、組合の概況

昭和十四年度成績

出資總額	三一、六三〇圓	拂込済出資額	三一、六三〇圓
積立金	三、七三八圓	借入金	一八、一八八圓
貯金	四七三、五八三圓	貸付金	一五七、〇〇九圓
販賣高	二四六、六五二圓	購買品賣却高	五〇、五五二圓
利用料	—	農業倉庫入庫數 米	一一、三四九俵

保証責任 南富永信用販賣購買組合

一、事務所所在地 伊香郡南富永村大字高月拾番地

二、設立年月日 大正九年十一月二十六日

三、区域内戸數 六三五戸

四、組合員數 六三一人

五、役員

組合長 村井茂治郎

専務理事 西嶋由太郎

理事 供田 稔 山岡庄之助

田川 弘 岩本玄三郎

松田 健吉 阿閑 邦造

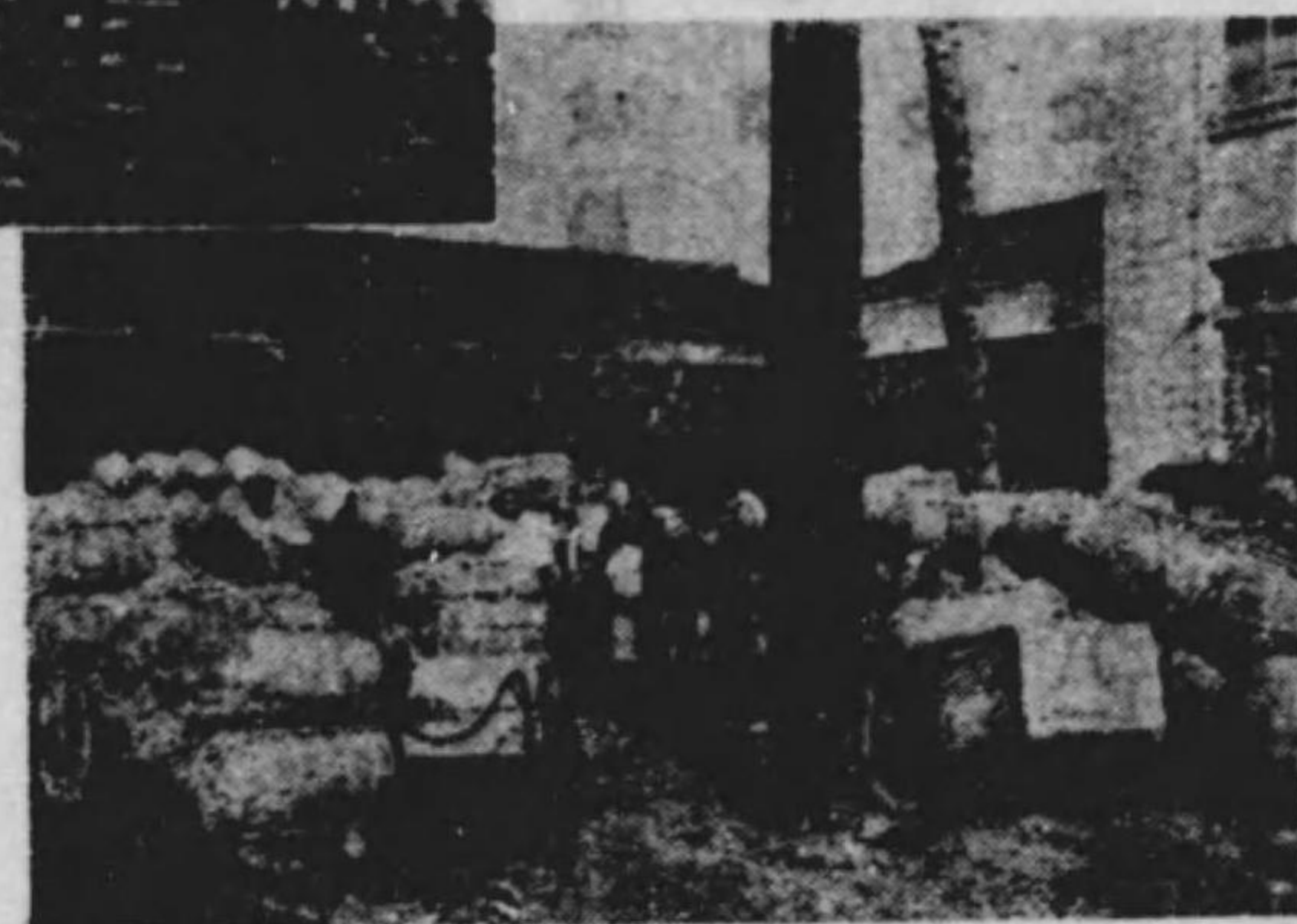
監事 片桐 奎治郎 山岡源之助

浅水 耕三

書記 中村 要 小森惣治郎



南富永組合事務所並倉庫



六、組合の概況

鹿城松之助 下村喜代三 三田村政雄

本組合設立以來各種事業順調に進展し、特に農業倉庫の施設と共に、販賣米の出荷は既に統制せられ組合員は全戸加入す。昭和十五年九月元北富永村大字馬上の本村合併により、組合員一二〇名を増加せり。

昭和十四年度成績

出資總額	二八、九三〇圓	拂込濟出資額	二八、九一八圓
積立金	一六、二三〇圓	借入金	三四、七六一圓
貯金	四八二、四六七圓	貸付金	一一一、二五二圓
販賣高	二六九、一〇三圓	購買品賣却高	七三、三八四圓
利用料	一一七圓	農業倉庫入庫數	玄米 一四、五七〇俵
			小麥 三二俵
			大麥 一一九俵
			菜種 一七一俵
			豆類 二四六俵

保証責任 片岡村信用販賣購買利用組合

- 一、事務所所在地 伊香郡片岡村大字今市第貳百貳拾九番地
- 二、設立年月日 大正十年一月十六日
- 三、区域内戸数 五二〇戸
- 四、組合員数 五〇一人
- 五、役員

組合長 綾戸由松

専務理事 是洞重太郎

理事 石原京太

田中新一

田川新三郎

藤田宗義

菅田曹能太

田中伊助

成瀬彌平

熊谷宅藏

下谷兵治

佐藤三郎

成瀬房太郎

監事 小西秀三

西田與之助

成瀬房太郎

書記 東野政一

田中利次

上杉貞雄

久保川たね

六組合の概況

大正十年一月十六日創立、有限責任片岡村信用販賣購買組合。大正八年四月十六日名稱變更、保証責任片岡村信用販賣購買組合。昭和十年四月十八日區域の擴張、宇中河内を加へ全村區域とせり。昭和十二年四月一日利用部を新設し保証責任片岡村信用販賣購買利用組合となり今日に至れり。

昭和十四年度成績

出資總額	一〇、〇〇〇圓	拂込済出資額	九、一六一圓
積立金	六、四八八圓	借入金	—
貯金	二二六、七七一圓	貸付金	一六、六二二圓
販賣高	八二、六〇五圓	購買品賣却高	四三、六三六圓
利用料	一七〇圓	農業倉庫在庫數	—

保証責任 廣瀨信用購買組合

- 一、事務所所在地 伊香郡木之本町宇廣瀨貳千九百拾四番地
- 二、設立年月日 大正十年三月二十六日
- 三、区域内戸数 二四二戸

産業組合概況 (伊香郡)

四、組合員数 一八九人

五、役員

組合長	浅井磯太郎	専務理事	
理事	鈴木甚治	酒井藤吉	
監事	大石竹治郎	川上丈助	
書記	浅田惣六		

六、組合の概況

昭和十四年度成績

出資總額	一、一〇〇圓	拂込済出資額	一、一〇〇圓
積立金	三、二六六圓	借入金	
貯金	一六八圓	貸付金	
販賣高		購買品賣却高	一四、二二九圓
利用料		農業倉庫入庫數	

保證責任 木之本町信用販賣購買利用組合

- 一、事務所所在地 伊香郡木之本町大字黒田七百參拾番地
- 二、設立年月日 大正十二年一月十三日
- 三、区域内戸數 八五〇戸
- 四、組合員數 五二七人
- 五、役員

組合長	高橋十吉	専務理事	
理事	林安雄	林英夫	野田藤一郎
	藤田傳藏	居川俊三	藤田義夫
監事	東野新治郎	田村林助	藤田一郎
	横田赫三	山岡恒也	
書記	藤田増太郎	上田清治郎	
			美濃部善四郎

六、組合の概況

本組合区域内大字木之本は商業地にして、設立當時市況を害するの故を以て、猛烈なる反対に遭ひ、殊に大正十三年農業倉庫を建設し、主要生産物たる米穀の販賣を開始せるや、一層の反対を受けしも、初期の目的貫徹を期せり今や本町経済機關の重要な使命達成に、邁進しつゝあり。

昭和十四年度成績

出資總額	三四、七四〇圓	拂込済出資額	三三、四〇一圓
積立金	一一、九八二圓	借入金	—
貯金	二六一、四七四圓	貸付金	九一、四五六圓
販賣高	一三〇、六九〇圓	購買品賣却高	三六、四一七圓
利用料	三八七圓	農業倉庫在庫數 米	六、七二八俵

保證責任 古保利村信用購買販賣組合

- 一、事務所々在地 伊香郡古保利村大字西柳野五百貳拾番地
- 二、設立年月日 大正十二年五月十五日
- 三、区域内戸數 四二〇戸

四、組合員數 四三〇人

五、役員

組合長	平塚重太郎	専務理事	細江清三
理事	安井甚太郎	森	四十逸
	野洲九助	岩田忠五郎	岩田新吾
監事	柳田金三	内藤奉助	松井俊三
	廣部文四郎		高山喜一
書記	武藤英英	前田半四郎	立花丈一
	廣部藤美子		北川 充

六、組合の概況

創立以來財界動亂時には相當の損失ありたるも、以來順調に進展し、貯金高現在五十萬圓に垂とし、其の間事務所を新築し、内容外觀共に完備せり、各種團體との連絡を密接し、販賣購買部共に全村舉つて組合利用に努めつゝあり。

昭和十四年度成績

出資總額	一五、六〇〇圓	拂込済出資額	一五、六〇〇圓
------	---------	--------	---------

積立金	一〇、〇〇〇圓	借入金	一五、〇七〇圓
貯金	四七二、二二二圓	貸付金	六九、八六六圓
販賣高	二八四、九〇三圓	購買品賣却高	四五、二九五圓
利用料	—	農業倉庫入庫數	—

保証責任 高時村信用販賣購買組合

- 一、事務所所在地 伊香郡高時村大字古橋參百六拾七番地
- 二、設立年月日 大正十二年六月八日
- 三、區域内戸數 四八八戸
- 四、組合員數 四七四人
- 五、役員
 - 組合長 熊川助二
 - 専務理事 本村安弘
 - 理事 林 九右衛門 阪田捨弘 高橋平太郎 谷口傳四郎
 - 熊河治良英 武田政雄 鷹野久太郎

- 監事 林 文藏 脇阪久太郎 熊井 茂 熊川耕治
- 書記 谷口季三郎 小畔新彌 大音そと

六、組合の概況

大正十二年六月八日有限責任組合として、設立認可を得村長を組合長に、各部落區長を理事として、事務所を役場内に置き、信用購買事業を開始す。昭和七年事務所を新築し、翌八年保証責任に組織を變更す、昭和十四年農業倉庫新築用地を購入し、翌十五年七月より販賣事業を開始し、目下農業倉庫新築中に在り、組合設立以來十八年健全なる經營方針のもとに、組合員の利用、毎年増加し、今や一般組合員の理解ある信賴と利用により、順調なる進展をなしつゝあり。

昭和十四年成績

出資總額	一五、〇七〇圓	拂込済出資額	一五、〇七〇圓
積立金	一四、七七四圓	借入金	—
貯金	四〇七、八一七圓	貸付金	八五、五五五圓
販賣高	—	購買品賣却高	二七、四二二圓
利用料	—	農業倉庫入庫數	—

保証責任 丹生村信用販賣購買利用組合

- 一、事務所所在地 伊香郡丹生村大字上丹生第貳千七百拾四。貳千七百參拾四番地。
- 二、設立年月日 昭和十一年八月八日
- 三、区域内戸数 二六九戸
- 四、組合員数 一四七人
- 五、役員

組合長 山根常右衛門 専務理事 湯本良三
 理事 山根 勇 督 傳三 山崎順治郎
 監事 山根與治郎 藤井儀三郎 督 章 横山邦三
 書記 丹生 藤次

六、組合の概況

昭和十四年度成績

出資總額	一、二〇〇圓	拂込済出資額	五三三圓
積立金	四四圓	借入金	〇〇圓
貯金	一、九一三圓	貸付金	〇〇圓
販賣高	〇〇圓	購買品賣却高	〇〇圓
利用料	〇〇圓	農業倉庫入庫數	〇〇圓

保証責任 余吳村信用販賣購買利用組合

- 一、事務所所在地 伊香郡余吳村大字中之郷八拾八番地
- 二、設立年月日 昭和十一年十月十六日
- 三、区域内戸数 四五七戸
- 四、組合員数 四一人
- 五、役員

組合長 平野市介 専務理事 大森正章
 理事 平野良太郎 間所藤太 田中俱吉 大澤米藏

- 前田耕造 桐畑憲藏
- 東野重郎 久保田松藏 三ヶ崎景友 桐畑一
- 桐畑吉三
- 書記 久保三治 東野敬治郎
- 書記補 間所重一 中村春吉

六、組合の概況

本組合は設立後、日尙淺きも其の前身は、余呉村大字坂口、下余呉八戸を組合員とする、余呉村信購販組合が、明治三十九年三月に設立され、約三十年の歴史を有し、一方川並信用組合が大字川並を區域として、信用事業のみを行ひ、二十年餘着實なる經營をなし、相方の堅實なる發展と、産業組合に對する認識は、現組合の基礎となりて、今日順調なる進展を爲しつゝあり。

昭和十四年度成績

出資總額	四、〇七〇圓	拂込済出資額	三、二二八圓
積立金	一、一九九圓	借入金	—
貯金	二〇九、〇七一圓	貸付金	二七、五二二圓
販賣高	五二、四〇一圓	購買品賣却高	三〇、九三〇圓
利用料	—	農業倉庫入庫數	—

保證責任 伊香具村信用販賣購買利用組合

- 一、事務所所在地 伊香郡伊香具村大字西山八拾四番地
- 二、設立年月日 昭和十一年十月十六日
- 三、區域内戸數 三二七戸
- 四、組合員數 二八〇人
- 五、役員

- 組合長 横關又藏 専務理事 二宮春次
- 理事 布施久雄 原秀三郎 清水奉作 布施周次郎
- 監事 順川常治郎 布施惣治郎 三家英三
- 書記 伊藤米藏 内貴理八
- 書記 七里治郎

六、組合の概況

昭和十四年度成績

産業組合概況 (伊香郡)

三七四

出資總額	三、〇三〇圓	拂込済出資額	一、七五八圓
積立金	三三三圓	借入金	—
貯金	二、三九七圓	貸付金	八八五圓
販賣高	二四、二三六圓	購買品賣却高	七、六〇三圓
利用料	—	農業倉庫入庫數	—

保證責任 杉野村昭和信用販賣購買利用組合

一、事務所所在地

伊香郡杉野村大字杉野第二千八百番地

二、設立年月日

昭和十三年三月二十八日

三、區域内戸數

一九二戸

四、組合員數

一三二人

五、役員

組合長 谷井茂夫 専務理事 木下專治
 理事 宮前孫助 前田金彌 島田吉三郎

監事 久保田豊 木下清藏 橋本與惣治
 書記 民徳英雄

六、組合の概況

昭和十四年度成績

出資總額	二、六四〇圓	拂込済出資額	一、〇五八圓
積立金	五七六圓	借入金	—
貯金	二一、七四七圓	貸付金	二、一七〇圓
販賣高	一七、三五五圓	購買品賣却高	一七、〇八九圓
利用料	—	農業倉庫入庫數	—

産業組合概況 (伊香郡)

三七五

高島郡

無限責任 新儀信用販賣購買利用組合

- 一、事務所所在地 高島郡新儀村大字新庄八百九拾八番地
- 二、設立年月日 明治四十年十月十八日
- 三、区域内戸数 七六八戸
- 四、組合員数 六一〇人
- 五、役員職員

組合長 長谷淺太郎 専務理事 河合與右衛門

理事 大林治左衛門 清水喜太郎 桑原喜六 多胡健二

監事 西川玄達

山田吉太郎 安原秀治郎 一井半右衛門 淺見清吉

川敷森吉

書記 中西喜治郎 藤田昌博 右田喜造 宮川秀子

六、組合の概況

昭和十四年度成績

出資總額	一六、〇七〇圓	拂込濟出資額	一四、八五九圓
積立金	一九、一七一圓	借入金	—
貯金	三二五、六六一圓	貸付金	七四、九二〇圓
販賣高	一四八、三三七圓	購買品賣却高	五、七五八圓
利用料	一〇二圓	農業倉庫在庫數	米 一八一俵

保證責任 西庄村信用販賣購買利用組合

- 一、事務所所在地 高島郡西庄村大字寺久保九百參番地の九
- 二、設立年月日 明治四十二年十月二十八日
- 三、区域内戸数 三六六戸
- 四、組合員数 三三九人
- 五、役員職員

組合長 久保井金之丞
 専務理事 山口五良右衛門
 理事 西川文三郎 伊丹良藏 藤田新七
 井花伊城 田中清治郎 青谷藤右衛門
 木下佐兵衛
 監事 青谷寅吉 里田宇平
 書記 井花伊左夫 中田秀基 安本佐右衛門
 木下 剛

六、組合の概況

明治四十二年東京府下大森町信用組合を視察して、之れが企畫をなし、本村大字寺久保の區民相謀りて、設立の基礎をなし、遂に同年十月二十八日に至り設立許可を受けたり、當時有限責任西庄村信用購買組合と稱せしが、其後事業の擴張に伴ひ、販賣利用をも兼營し、信用販賣購買利用組合と爲し、昭和十年十一月農業倉庫を建設し其の經營をも開始し今日に至れり。

昭和十四年度成績

出資總額	四、八六〇圓	拂込済出資額	四、七五二圓
積立金	一〇、二二五圓	借入金	五四二圓
貯金	一六六、一七一圓	貸付金	四九、四九五圓
販賣高	八七、八九四圓	購買品賣却高	二四、二四七圓
費用料	二八二圓	農業倉庫在庫數 米	五、九〇六俵

保證責任 廣瀨村信用販賣購買利用組合

一、事務所所在地 高島郡廣瀨村大字上古賀七百九拾壹番地
 二、設立年月日 明治四十四年十二月二十二日
 三、區域内戸數 四三二戸
 四、組合員數 三六二人
 五、役員

組合長	平井重右衛門	専務理事	清水久磨
理事	川島庄太郎 東村文藏 西澤萬次郎 入江賢二		
	赤塚又三郎 稻垣治司		
監事	長宗彌一郎 井上徳藏 中村平三郎		
書記	平井善藏 平井茂 北村安治		

六、組合の概況

本組合は明治四十三年、大字上古賀部落有山林が、陸軍用地として買収せられ其の買収代金を、各戸へ分配する

に當り之を有効に利用せんが爲、同部落百六十戸中四十戸を以て設立し、爾來出資金を資金として、貸付事業のみを行ひ殆んど睡眠状態に在りしが、時代の進運に伴ひ大正十二年區域を、本村一圓に擴張し、販賣購買事業等を兼營し、大正十五年事務所を建築せしより、各種事業の經營に努力し、昭和四年には農業倉庫を、昭和十四年には利用事業を經營し四種事業の兼營組合となり、今日に及べり。

昭和十四年度成績

出資總額	一一、一〇〇圓	拂込濟出資額	一一、〇八四圓
積立金	一六、六九三圓	借入金	二、八九六圓
貯金	四二九、八五四圓	貸付金	二九、四〇九圓
販賣高	一四一、三六三圓	購買品賣却高	四五、一〇八圓
利用料	—	農業倉庫入庫數 米	一、〇五二九俵

保證責任 本庄村信用販賣購買組合

- 一、事務所所在地 高島郡本庄村大字南船木貳百九拾七番地の參
- 二、設立年月日 大正四年十二月二十七日

- 三、區域内戸數 七〇〇戸
- 四、組合員數 六〇六人
- 五、役員

組合長	伊香權左衛門	専務理事	本多久藏
理事	矢島源良	提中	竹松 早藤友三 齊藤七五郎
	澤井勘兵衛		
監事	齊藤伊之助	上原秀次郎	講殿仁左衛門 山本卯太郎
	澤井仁助		
書記	梅村清八	竹内彦太郎	竹原喜代一 吉川久一
	澤井市太郎		

六組合の概況

本村産業組合は大正四年十二月二十七日、有限責任組織を以て創設せられ、當時は尙一般に組合觀念の乏しきに依り、遅々として發達を見ざりしも、理事者不斷の努力と時代推移の要求に依り、爾來事業歳と共に進展し昭和八年三月十七日、保證責任に組織變更の認可を得、愈形態を整ふと共に、内容の充實を計り方に二十有五年の今日概ね順調の経過を辿り來りたるものなり。

昭和十四年度成績

出資總額	一一、七四〇圓	拂込済出資額	一一、二五八圓
積立金	七、八七五圓	借入金	一、五五〇圓
貯蓄金	三三九、五六三圓	貸付金	一一〇、八〇四圓
販賣高	一二六、七九七圓	購買品賣却高	四六、九三八圓
利用料	—	農業倉庫入庫數 米	八、九三六俵

保責責任 劍熊村信用販賣購買利用組合

- 一、事務所所在地 高島郡劍熊村大字小荒路四百六拾七番地の四
- 二、設立年月日 大正九年十一月三十日
- 三、区域内戸數 三四〇戸
- 四、組合員數 三〇一人
- 五、役員 組合長 狩野彦右衛門 専務理事 —

- 理事 清水彦三郎 猪花香治郎 前川傳藏 篠原政治郎
- 監事 栗本新七 谷口五郎平衛
- 書記 栗津磯吉 西川清三
- 竹谷藤治郎 杉本信治 小林永吉 金谷もと

六、組合の概況

當組合設立以來經濟界の不況により、其の影響甚しく一時内容不整理の爲、官廳の監督指導を受けたるも、昭和十一年頃より事變の影響により、農村好況の波に乗り著しく事業分量増大し、組合内容も改善せられ、昭和十五年年度の如きは十四年度に比し、事業分量は五割増の發展を見たり。

昭和十四年度成績

出資總額	九、〇九〇圓	拂込済出資額	七、七〇〇圓
積立金	一、〇〇〇圓	借入金	五〇、〇〇〇圓
貯蓄金	八二、六〇〇圓	貸付金	八〇、〇〇〇圓
販賣高	八〇、〇〇〇圓	購買品賣却高	二〇、〇〇〇圓
利用料	三、三〇〇圓	農業倉庫入庫數 米	四、〇〇〇俵

保証責任百瀬村信用販賣購買利用組合

- 一、事務所所在地 高島郡百瀬村大字新保九百拾八番地の壹
- 二、設立年月日 大正十年十月十日
- 三、区域内戸数 四七二戸
- 四、組合員数 四五三人
- 五、役員

- 組合長 中川市三郎
- 専務理事 伊吹武一
- 理事 高屋平四郎 宗戸末造 吉原眞之介 峯森清太郎
- 中川龜次郎 伊吹勘一 栗本源太郎
- 監事 岡本定治郎 中川七郎平 上松甚之助
- 書記 會根太一 伊吹宇一 吉原啓造 西澤吉良兵衛

六、組合の概況

設立當時は單なる有限責任百瀬村信用組合として、農村金融機關たるを目的としたるも、其の後時代の推移に應

し、販賣購買事業を兼營し、尙組織をも保証責任に変更し、最近利用事業も加ふることとし、具体的計畫を樹立せり。

昭和十四年度成績

出資總額	一四、二二〇圓	拂込済出資額	一一、二二八圓
積立金	一一、一〇六圓	借入金	—
貯金	二三〇、九三六圓	貸付金	五四、六五〇圓
販賣高	一一一、四四三圓	購買品賣却高	三五、九三八圓
利用料	—	農業倉庫入庫數 米	七、七九八俵

保証責任 川上村信用販賣購買利用組合

（大正十三年四月二十六日産業組合中央會より表彰）

- 一、事務所所在地 高島郡川上村大字日置前参百五拾貳番地
- 二、設立年月日 大正十年十一月二十日
- 三、区域内戸数 六〇〇戸
- 四、組合員数 六〇八人

産業組合概況（高島郡）

五、役員

組合長	松本龜吉	専務理事	橋本源彌
理事	藤原甚吉	深田源一郎	澤田孫芳
	大森重次	水田定治	谷本松藏
	三田村喜祐	采野安藏	桂田太助
監事	岡本孫一郎	三田村友次郎	山崎立藏
書記	杉原良三	辻米三	前川源九郎
	深堂孫茂	藤本新藏	古川昇
			松本潔
			大森捨吉
			大釜圭三
			木下富太郎
			松本石松

六、組合の概況

大正十年十一月二十日設立許可を得、役場内に事務所を設け、事業を開始し、昭和元年九月事務所を新築して、事業を擴大すると共に、昭和六年今津驛構内に、集散地農業倉庫を建設し、販賣及保管の利用を促進し、昭和八年事務所前に生産地農業倉庫及共同作業場を建設して、精米機二臺、肥料粉碎機二臺を設備して、組合員の利用に便にし、尙貨物自動車を設置して、組合員に利用せしめつゝあり、其間昭和二年販賣米に對する、縣農會の不始末事件により、一時組合員に不安を感じしめたる結果、貯金の引出等相當ありたるも、内容判明すると共に、

安定し、爾來順調に事業を遂行し來れり。

昭和十四年度成績

出資總額	一七、九八〇圓	拂込濟出資額	一七、四七一圓
積立金	一八、〇四八圓	借入金	一六、五四三圓
貯金	四一八、六〇六圓	貸付金	一一〇、六六八圓
販賣高	二七〇、七九六圓	購買品賣却高	七五、九一〇圓
利用料	四、四一六圓	農業倉庫入庫數	玄米 一六、四三九俵
			小麥 一三〇俵
			菜種 九一二俵



安曇組合事務所

保証責任 安曇町信用販賣購買利用組合

- 一、事務所所在地 高島郡安曇町大字田中第四百番地
 - 二、設立年月日 大正十一年七月二十日
 - 三、区域内戸數 九六〇戸
 - 四、組合員數 六九四人
 - 五、役員
- | | |
|------|---------|
| 組合長 | 中村喜六 |
| 専務理事 | 平井小太郎兵衛 |
| 理事 | 岸田熊七 |
| | 藥師川米藏 |
| | 横田丑松 |
| | 日置祐太郎 |
| | 枝幸一郎 |
| | 熊谷助一 |
| | 岸田市太郎 |
| | 鈴木紋右衛門 |
| | 岡島卯内 |
| | 地村半三郎 |
| | 堀部繁次郎 |

六、組合の概況

創立以來の組合長早藤貞一郎八箇年、地村寅藏二年、中村喜六八年六箇月目下在職中。
大正十一年七月設立、經過年數十八年餘組合事業は、年次向上發展しつゝあり。

昭和十四年度成績

出資總額	一三、七一〇圓	拂込濟出資額	一三、四七〇圓
積立金	一五、三七三圓	借入金	二、五五九圓
貯金	四六二、二七六圓	貸付金	一三六、五二三圓
販賣高	一四四、三二六圓	購買品賣却高	七八、五三五圓
利用料	—	農業倉庫入庫數 米	八、五二八俵

保証責任 青柳村信用販賣購買利用組合

- 一、事務所所在地 高島郡青柳村大字青柳千百四拾六番地の壹
- 二、設立年月日 大正十二年一月十七日
- 三、区域内戸数 三八五戸
- 四、組合員数 三五七人
- 五、役員

- 組合長 志村清太郎
- 専務理事 西川伴三郎
- 理事 藤井新次 川越清市
- 監事 堀田儀左衛門 淵田吉太郎
- 馬場三良助 馬場武三
- 松田 巧 八田治一郎
- 中西佐右衛門 淵田敬一良
- 佐々木孝純 小島清松



青柳村組合事務所

六、組合の概況

當組合は本村下小川部落組合と、青柳上小川横江の三部落よりなる組合とを合併して、大正十二年一月十七日に創立なし、合併當初一年半は役場内に事務所を置き、更に此れを大字青柳區長事務所に移し、大正十四年に現在の事務所を建築した、事業も初めは信用と購買であつたが、昭和六年に販賣部を、同八年に利用部を設置し利用者が増加とも、業績も益々舉り現在では、農業倉庫も下小川青柳横江の三部落に設置、又部落毎に理事者を置いて、出張所の事務取扱を行つて居る、尙上小川に目下倉庫を建築中である。

昭和十四年度成績

出資總額	一八、五二〇圓	拂込済出資額	一八、四一七圓
積立金	二二、五二〇圓	借入金	—
貯金	二五七、二二二圓	貸付金	七〇、五〇七圓
販賣高	一一〇、五一八圓	購買品賣却高	四一、六九五圓
利用料	七一圓	農業倉庫入庫數 米	三、七五二俵

保証責任 今津町信用販賣購買利用組合

- 一、事務所所在地 高島郡今津町大字今津六百五拾壹番地の八
- 二、設立年月日 大正十三年三月三日
- 三、区域内戸数 一、〇二六戸
- 四、組合員数 六四八人
- 五、役員

- | | | | |
|-----|--------|-------|-------|
| 組合長 | 弘部三四郎 | 専務理事 | 西川藤吉 |
| 理事 | 古我奉次郎 | 林政治郎 | 藤戸清一 |
| | 中川嘉一 | 小堀秀吉 | 前川總一 |
| | 角井重三 | 早川六之助 | 山本作藏 |
| | 河原田政治郎 | | 石田與太郎 |
| 監事 | 今井彦一 | 増田一二郎 | 古我俊一 |
| 書記 | 江村喜三郎 | 前川賢三 | 前川忠治 |
| | | | 福井丈市 |

六、組合の概況

昭和十四年度成績

出資總額	一四、九〇〇圓	拂込済出資額	一三、六七二圓
積立金	一九、二一八圓	借入金	一六、三二〇圓
貯金	五〇九、二〇三圓	貸付金	八九、九五三圓
販賣高	一五六、五五〇圓	購買品賣却高	四四、六四五圓
利用料	—	農業倉庫入庫數 米	一〇、一九五俵

保証責任 高島村信用販賣購買利用組合

- 一、事務所所在地 高島郡高島村大字高島五百拾七番地の壹
- 二、設立年月日 大正十三年三月二十八日
- 三、区域内戸数 三〇三戸
- 四、組合員数 二七〇人
- 五、役員

組合長 八田 源左衛門 専務理事 岸田半之丞
 理事 岸田源五郎 河島甚太郎 西川松三 田原重行
 矢盛初太郎 林 七松
 監事 岡島新太郎 西川平三郎 岡本喜三 岸田安藏
 林 久七
 書記 小谷康三 矢盛久子

六、組合の概況

昭和十四年度成績

出資總額	一一、九〇〇圓	拂込済出資額	九、一六三圓
積立金	三、三六〇圓	借入金	七、四六八圓
貯金	一二二、六〇五圓	貸付金	三六、三二〇圓
販賣高	四〇、七九九圓	購買品賣却高	四八、三八五圓
利用料	九九圓	農業倉庫入庫數	—

保證責任 永田 利用組合

- 一、事務所所在地 高島郡大溝町大字永田八百九拾七番地
- 二、設立年月日 大正十三年五月二十一日
- 三、區域内戸數 八七戸
- 四、組合員數 八六八
- 五、役員

組合長 田中勘兵衛 専務理事 北村市三郎
 理事 木津長右衛門 木津文吾 吉谷兵吉
 監事 三矢儀右衛門 津田善右衛門 木津孝太郎 小島善之
 書記 —

六、組合の概況

土地利用、部落有田畑を買受け組合員に利用せしむるに始まり。
 機械利用、産業用及び經濟用に必要なる機械を購入し、組合員に利用せしめつゝあり。

昭和十四年度成績

出資總額	一五、六六〇圓	拂込済出資額	一五、六六〇圓
積立金	八、二九九圓	借入金	三、五二七圓
貯金	—	貸付金	—
販賣高	—	購買品賣却高	—
利用料	三、七六五圓	農業倉庫入庫數	—

保証責任 三谷村信用販賣購買利用組合

- 一、事務所在地 高島郡三谷村大字保坂參百貳拾四番地
- 二、設立年月日 大正十三年七月二十六日
- 三、区域内戸數 二七一戸
- 四、組合員數 二五六人
- 五、役員
 - 組合長 善積勇治郎
 - 専務理事 栗田勇信

理事	井上權吉	武原長太郎	清水源四郎	澁田常治郎
監事	橋本善藏	中山豊二郎	宮本太郎助	泉 宇一郎
書記	杉本徳次郎	前田岩次郎	森脇八治郎	
		善積信好	藤掛幸男	

六、組合の概況

創立以來順調の進展を遂げつゝありしも、自由經濟時代に於ける村内主産物、木炭の販賣統制事業の完遂には、幾多の難關を突破しつゝも、縣下主要消費地並京阪地方に其の販路を開拓し、本村産木炭としての進出を計り其の聲價向上に資する共に、今津港に木炭倉庫を建設し、生産者の便益と収益の増加に資する所尠らず、經濟更生計畫と共に特別助成事業として、牧牛の生産を開始せるに、飼牛者漸次増加して、年々相當の成績を収めつゝ、村内金融並産業の中樞機關として、堅實なる發展を期待し、目下従業員増員と倉庫の増設を計畫中なり。

昭和十四年度成績

出資總額	六、五四〇圓	拂込済出資額	五、一五七圓
積立金	四、一七八圓	借入金	九七三圓
貯金	八三、六五七圓	貸付金	一八、八二二圓
販賣高	五五、一五〇圓	購買品賣却高	二四、八三二圓
利用料	—		

保証責任 朽木村信用販賣購買組合

- 一、事務所所在地 高島郡朽木村大字市場字新町八百五拾四番地
- 二、設立年月日 大正十三年八月二日
- 三、区域内戸数 七七〇戸
- 四、組合員数 七二七人
- 五、役員職員

- 組合長 上藤吉松
- 専務理事 山崎庄三郎
- 理事 青山敬一 平井多三郎 中川常次郎 山田良藏
- 清川太三郎 上杉辰之助 中根繁治 栗本政治郎
- 栗本力平 竹内隆太郎 小原芳太郎 増本増右衛門
- 森本徳次郎
- 監事 熊瀬修三 河合治右衛門 島本善之丞 上山益治
- 柳生兵治郎

六、組合の概況

由來本村は安曇川の上流に位し、幾多の谿谷に跨り面積實に十一方に亘り、交通困難を極め物資の運搬、人情の錯雜等比類なき土地柄なりしが、時勢の推移に依り上司の勸奨を受け、當組合を大正十三年八月創立を企て、爾來是に十八年百難を排し組合精神の涵養に務め、銳意事業を擴充したるを以て、他村組合と比肩し組合員も創立當時五百九十四名なりしか、現今七百二十七名に達し、殆ど全戸加入を見、内容も次第に充實向上をなし、稍小康を保つに至りたるなり。

昭和十四年度成績

出資總額	八八、五九〇圓	拂込済出資額	一〇、二二九圓
積立金	一〇、三三七圓	借入金	二、八九九圓
貯金	三九四、二二五圓	貸付金	一五五、一四七圓
販賣高	八九、三六六圓	購買品賣却高	七四、〇六五圓
利用料		農業倉庫入庫數	—

保証責任 昭和信用販賣購買利用組合

- 一、事務所所在地 高島郡大溝町大字勝野壹千五百八拾六番地
- 二、設立年月日 昭和三年十月二十四日
- 三、区域内戸数 八八六戸
- 四、組合員数 八八四人
- 五、役員

- 組合長 前田 節
- 専務理事 万木良知
- 理事 仁賀半次郎 上原茂次 山本庄次 奥村傳藏
- 中村喜四郎 中江傳三郎 吉谷兵吉 白崎清兵衛
- 梅村伊之助 水谷銀之助 林 精一 鈴木兵左衛門
- 澤 常吉 和田富三郎 廣部敬三
- 監事 仁賀助左衛門 馬場松太郎 田中勘兵衛 萬木常吉
- 白井甚三郎 萬木金之丞 萬木義治

六、組合の概況

經濟と地理的關係深き大溝町、水尾村合體して、昭和三年十月、萬木嘉次松氏、前田節氏等の努力に依り、有限責任昭和信用販賣購買組合を設立、初代組合長として萬木嘉次松氏就任、昭和八年一月二十九日、保証責任昭和信用販賣購買組合に改む、昭和十三年一月利用部を設け、保証責任昭和信用販賣購買組合と改む、昭和九年五月現組合長前田節氏、二代目組合長として就任し、事業は順に進展せり。

昭和十四年度成績

出資總額	一四、〇五〇圓	拂込済出資額	一三、二九五圓
積立金	一七、一九三圓	借入金	—
貯蓄金	五〇〇、六六八圓	貸付金	二〇八、三八〇圓
販賣高	二五九、四九七圓	購買品賣却高	一二五、三二六圓
利用料	三、九六〇圓	農業倉庫入庫數 米	二一、五一七俵

保証責任 水尾家禽販賣購買利用組合

- 一、事務所所在地 高島郡水尾村大字鴨二千百五番地
- 二、設立年月日 昭和七年四月十八日
- 三、区域内戸数 四五二戸
- 四、組合員数 六三人
- 五、役員

組合長 横田 政一 専務理事 八田 元義
 理事 澤 常吉 鈴木 龍吉 水谷 平藏
 監事 和田 富三郎 澤 太助 八田 貞宣
 書記 |

六、組合の概況

昭和十年五月二十三日設立、設立當時組合員数七十三名なりしも、其後事業不振により、脱退するものを生じ、現在六十三名あり、組合員飼育羽数、三千三百四十三羽、鶏卵共同處理場を有し、目下現状維持の程度なり。

昭和十四年度成績

出資總額	一、二六〇圓	拂込済出資額	六六〇圓
積立金	九五圓	借入金	
貯金		貸付金	
販賣高	一、〇一〇圓	購買品賣却高	一、二七五圓
利用料		農業倉庫入庫数	

保証責任 饗庭村信用販賣購買利用組合

- 一、事務所所在地 高島郡饗庭村大字饗庭參百拾七番地
- 二、設立年月日 昭和七年十一月二十四日
- 三、区域内戸数 七七六戸
- 四、組合員数 七〇七人
- 五、役員

組合長 藤本 敬藏 専務理事 美濃部 新之助

産業組合概況 (高島郡)

四〇四

- | | | | | |
|----|-------|--------|-------|-------|
| 理事 | 松田富治郎 | 岡田喜十郎 | 小川松治郎 | 中村孝三郎 |
| | 中西重太郎 | 桑原金治郎 | 桑原又藏 | 八田五左雄 |
| | 饗庭三一 | 内藤彌二郎 | 遠藤繁次郎 | 中野富之助 |
| | 村上己之助 | 山本庄太郎 | 遠藤卯吉 | |
| 監事 | 伊庭祐市 | 桑原八左衛門 | 饗庭庄一 | 北野末三郎 |
| | 堀内徳松 | | | |

六、組合の概況

當組合は創立以來年を閲すること正に九年、昨今事業漸く進展の緒に付きたりと雖も、曩に解散せる組合の影響を受け、創立二、三年は組合員の認識極めて薄く、諸事業の進捗實に遅々たりしも、當事者先づ信用を第一義とし經營方針亦堅實を旨とし來りたる結果、最近組合員の増加と共に、漸く其の認識を一新し年と共に諸事業の進展著しく、本年度末に於ては、組合員の加入率九〇%貯金の累加、實に著しきものあり。殊に戰時統制經濟下に於ける、米穀其の他の集荷配給は、國家の代行機關としての使命を完遂し、物資の配給に至りては、組合員の要望に應へ、愈々本村産業の、中樞機關としての重きをなすに至れり。

昭和十四年度成績

出資總額 七、二八五圓 拂込済出資額 六、四三〇圓

積立金	四、七〇三圓	借入金	一、七九四圓
貯金	一、三三七、八七三圓	貸付金	一七、三七一圓
販賣高	一九三、六二五圓	購買品賣却高	四三、〇五四圓
利用料	—	農業倉庫入庫數 米	二、九二〇俵

保證責任 海津村信用販賣購買利用組合

- 一、事務所所在地 高島郡海津村大字海津貳千貳百五拾番地の壹
- 二、設立年月日 昭和八年九月二日
- 三、區域内戸數 三五〇戸
- 四、組合員數 二九七人
- 五、役員

- | | | | |
|-----|--------|-------|--------|
| 組合長 | 井花伊右衛門 | 専務理事 | 江端長右衛門 |
| 理事 | 森野龜吉 | 紺野音吉 | 内田長吉 |
| | 谷田孫七 | 田中勘四郎 | 木下太三郎 |
| | | | 吉田芳太郎 |

産業組合概況 (高島郡)

四〇五

江端長右衛門

監事

八木久藏

松本爲夫

石井田勘三

鳥居彦四郎

書記

唐澤謙性

山腰政藏

磯野健次

大窪あゐ

六、組合の概況

設立以來、未だ日尙淺きを以て其の成績見るべきものなしと雖も、目下村の重要機關として、國策に順應し飛躍しつゝあり、

昭和十四年度成績

出資總額	八、九四〇圓	拂込済出資額	五、九四六圓
積立金	二、一八三圓	借入金	—
貯金	七二、九五六圓	貸付金	二一、二二五圓
販賣高	二一、三五五圓	購買品賣却高	一一、八八五圓
利用料	—	農業倉庫入庫數	米 一、六三六俵
		小麥	八俵
		菜種	三五畝

第四節 産業組合聯合會概況

一 保證責任滋賀縣信用販賣購買利用組合聯合會

事務所 大津市境川町 貳拾壹番地
貳拾貳番地

一 沿革

明治四十二年四月に産業組合法第二次改正に依つて、産業組合聯合會制度が認めらるゝこととなつた、即ち全国的に聯合會設立運動が強調せられ、本縣に於ても明治三十四年以來縣が設立獎勵した、産業組合も同四十四年には其の數八十一に達した、然るに本縣は湖東、湖南と、湖北、湖西とは諸般の事情が異なつてゐる、金融關係も亦湖東、湖南地方の緩漫なるに反して、湖北、湖西地方は常に逼迫し、之が地方産業に及ぼす影響蓋し尠くないのであつた、從て有無相通づる聯合機關の必要は痛切に感ぜられてゐるので、縣農會は有限責任琵琶湖水産物販賣購買組合其他主なる、二三の産業組合と協議し、縣區域の信用組合聯合會を設立し、地方金融の圓滑を圖らんとして、各組合に参加を求めた、當時八十一の組合の内、有限責任琵琶湖水産物販賣購買組合外五十組合が發起となつて、同年八月十五日有限責任滋賀縣信用組合聯合會を設立し、十一月十五日事業を開始したのであつた、其の後創立早々ながら事業は順調に進捗し、翌四十五年五月には早くも、資金の不足を感じるに至つたので、臨

時總會を開き、保證責任組織に變更し出資の増加を圖り、同時販賣購買事業をも兼ねることとなつた、而して大正元年には十五組合、同二年には七組合、同三年には六組合、同四年には六組合、同五年には四組合と漸次組合の設立と共に、加入組合の數も増し、同年末には縣下の産業組合數は、百十五聯合會加入組合は六十九組合となつた、之等の所屬組合に、貯金の便宜を與へ又組合に必要な、資金を供給するので、組合相互間の金融は次第に圓滑となり、漸次資金を増加した、そこで明治四十五年より購買事業を開始し、從來の會社又は商人等の利益搾取から漸次逃れ得るの途を拓いたことは、洵に本制度の賜であつた、大正九年には一般經濟界の激變に伴つて、組合は貯金の拂戻、貸出金の要求等、一時多額に資金は拂ひ出され、大正十四年には、湖北養蠶農家救済の爲、原合資會社債を引受け後年苦慮の因由を作つたか、幸に其の基礎も漸く培はれて來たので事なく大正時代を終つた、昭和元年には、年來の財界不況尙止まず、翌二年四月には俄然財界動亂を突發し、淺沼銀行支店を始めとして近江、栗太、蒲生の各銀行相次で休業するに及び、一般組合員は極度に恐怖し、所屬組合の状態亦險惡となつたので、縣支會の協力と相俟つて、聯合會は資金調達に努め自己資金の外、地方資金八十七萬餘圓の供給を受け之が挽回に努めた、當時貯金百八十八萬八千餘圓を減じ、貸付亦八萬餘圓を増加し、購買部は一時休止の状態に陥つたのであつた、而して、翌昭和三年には滋賀縣産業組合振興五箇年計畫實施を決議し、翌四年一月から之が實行に着手した、昭和五年には肥料配給改善助成規則が公布され、聯合會は專任者を置き、肥料配給には特段の努力を拂つた、昭和六年には京都市に聯合會出張所を設け、翌七年には本縣産米の取扱を開始したが、程なく

全國米穀販賣購買聯合會の設立と共に、同聯合會の出張所も之に併置せられ、名古屋市にも、縣聯合會の販賣所を設け又主要なる生産地の停車場には、逐次倉庫を建設して、出荷統制を企畫し引續き全國運動の産業組合擴充五箇年計畫實行に移り、聯合農業倉庫も昭和八年より事業を開始した、其の後經濟界も不相變不振で剩へ昭和九年には未曾有の風水害に見舞はれ、夏作は勿論産繭の違作價格の暴落さらだに、米穀産繭法案の審議未了等の事象で極度に人心を不安に導いたが、昭和十一年には海外貿易の躍進と軍需工業の股賑低金利政策の施行と共に米滿價共に騰貴し景氣稍小康を得た、聯合會亦之に順應し資金の融通、販賣事業の擴充等五箇年計畫に沿ふて其の進展を見せた、翌十二年七月には支那事變突發して、戰時體制下に入り専ら消費節約貯蓄の實行國債の消化等金融報國の實を擧ぐるに努力し、當年度事務所の竣功を機會に處務規程を改め業務の刷新事業の擴充を期し倉庫の増設精米薬工品加工場の新設、縣有農産加工場の譲受に依る設備の擴充等一段と農村工業方面に進出を企圖した然し時變の推移と共に諸般の統制は更に強化せられ、消費經濟は一層の窮迫を告ぐるに至つたが聯合會は米麥茶種等に付縣當局と協力の下に、聯合農業倉庫并所屬組合農業倉庫と連絡提携して之が集荷に努め購買事業に在りても、各物資は不足を告げ之が確保爲し難き状態に立至りたるも、全購聯は勿論各種關係團體とも聯絡し一元的配給統制を目指して積極的に經營を企圖しつゝ今日に及んだ、累年の成績は次の通である。

二 事業

設立當初より累年の事業成績は次の通である。

累年成績 其の一

年次	所属組合数	出資金	拂込済出資金	積立金	借入金	貯金	貸付金
明治四四年度	三	二,000	二,000	1	1	三,000	八,500
大正元年度	三	五,600	五,600	二元	二五,000	二四,七九	四〇,七五〇
同 二年度	五	六,七〇〇	六,七〇〇	五元	五〇,〇〇〇	三三,六四三	八四,五五
同 三年度	五	七,四〇〇	七,四〇〇	一,六〇二	九,〇〇〇	一六,三八九	九〇,七八〇
同 四年度	五	一六,〇〇〇	二二,〇〇〇	二,六四四	八四,六五〇	五五,八六九	七九,四一九
同 五年度	六	一六,八〇〇	一六,一〇三	三,九二一	五七,五〇〇	五〇,九八六	七四,二二〇
同 六年度	七	一九,二〇〇	一九,〇〇三	五,〇八六	五五,六九	五,三三六	六三,八元
同 七年度	七	三二,八〇〇	二二,六〇〇	六,四四九	八七,三四一	五八,四三	五四,七三
同 八年度	八	二六,六〇〇	二四,三三三	七,三六五	五五,一九八	二六八,二九七	七,六三
同 九年度	一〇	三二,二〇〇	一九,五〇〇	八,四六一	二〇八,四〇六	七〇六,三四	一三三,八五二
同 十年度	一三	六〇,〇〇〇	五二,八〇八	一三,九三三	一六一,〇七一	九八二,五九	三二八,七八七
同 十一年度	一五	六六,六〇〇	六二,〇七三	一九,一五五	二四,五〇一	一,七四五,五七三	六六九,三三
同 十二年度	一六	一六八,六〇〇	一三二,六四三	一五,一四〇	四〇八,八五八	二,五〇四,六〇八	九八八,八二六

年次	所属組合数	出資金	拂込済出資金	積立金	借入金	貯金	貸付金
同 十三年度	一八	一七六,一〇〇	一五六,五四	三三,三三〇	四七〇,七四	三,九六五,四二五	一一,四二,九三
同 十四年度	一九	四四〇,〇〇〇	一八一,六〇〇	元,九三三	六七三,二七	五,七四,七六	一,四九,二〇七
同 十五年度	二〇	四五六,〇〇〇	一九三,〇八一	五,二二一	八九,五九一	五,六六,七七〇	一,六四,一三〇
昭和二年度	二〇	四八八,〇〇〇	二〇六,〇一六	六四,二〇九	二,〇八三,一五六	三,七八,〇四三	一,七五〇,一六〇
同 三年度	二〇	四八八,〇〇〇	二〇六,二二六	六九,四〇〇	一,六五〇,三四三	五,一九,二二	一,四三,一四三
同 四年度	二〇	四九,五〇〇	二〇六,六三六	三,二九八	一,八四〇,一九〇	六,二二〇,九四五	一,三四〇,七三六
同 五年度	二〇	四四〇,〇〇〇	二〇六,八三六	六,四九二	二,二八,三三九	六,八八,〇二四	一,九四三,五七四
同 六年度	二〇	四九,〇〇〇	二〇六,三九一	三,六五五	一九七,六三〇	六,四七〇,二二六	一,六九八,五四九
同 七年度	二〇	四四〇,〇〇〇	二〇四,五〇四	二,二六八	一九七,四八	七,二四五,二三八	一,八四二,九七六
同 八年度	二〇	四七三,〇〇〇	二〇六,八八一	四,二八四	一,〇六五,五九二	八,九二四,九四五	一,五九六,三三九
同 九甲年度	二〇	四七三,〇〇〇	二二六,三六一	六,一五七	一,四五〇,〇六四	九,五七七,四四七	二,二五二,〇二二
同 九乙年度	二〇	五五,〇〇〇	三〇,二六四	五,九五六	三五〇,四七四	一〇,一三六,四四九	一,七二,五四三
同 十年度	二〇	五九,五〇〇	三六,一三七	四,三四六	五,五三七,二八	一〇,〇二七,三四九	一,四八四,一五二
同 十一年度	二一	五八,五〇〇	三四,一〇一	一〇,三六〇	三七七,三三	一〇,一五八,八五一	九五二,三〇〇
同 十二年度	二二	五七,五〇〇	三三,五七七	二〇,三六〇	二五二,一五四	一三,九四七,〇六五	九八六,二一〇
同 十三年度	二〇	六〇三,五〇〇	四三三,九九五	一五,三六六	九七六,六八六	二二,八〇五,二七八	六四七,五三

現況

同十四年度	同十五年度
二〇九	二〇九
六三三,五〇〇	六三三,五〇〇
四九三,八三三	五五一,六七七
一八五,三五六	二五三,五九〇
二,〇四四,三六八	二,一〇八,四四四
二八,一五七,九〇七	三九,六四八,一九九
七五四,七七	一,一九七,三三三

同其の二

年次	販賣高	購買品賣却高		利用料	農業倉庫入庫數(立米)	剩餘金	摘要
		産業用	經濟用				
明治四四年度						三	
大正元年度		八五二		八五六		四六〇	
同二年度		四,八八六		四,八八六		一,三三三	
同三年度		五,九九四		五,九九四		一,三三三	
同四年度		四,六六四		四,六六四		一,九〇七	
同五年度		二,二三三		二,二三三		二,二三三	
同六年度		七,八八八		七,八八八		二,二九〇	
同七年度		一三,八九二	三,二七五	一七,一六七		二,四六〇	
同八年度		一四,九五四	八,三〇二	二三,二五六		二,六〇三	
同九年度		三,三五二		三,三五二		六,六〇七	

四二二

現況

年次	販賣高	購買品賣却高	利用料	農業倉庫入庫數(立米)	剩餘金	摘要
同十年度		六,八一〇	六,八一〇		八,八一	
同十一年度					九,七〇二	
同十二年度					三,四五四	
同十三年度					一八,一六八	
同十四年度					二四,五三三	
昭和元年度		一,二二二	一,二二二		二六,三三三	
同二年度		四九,一六一	四九,一六一		五,二二七	
同三年度		九,三〇九	八九九		損〇八,八八一	
同四年度		三四,二五五	一八,〇二六		七,〇五九	
同五年度		八九,五八八	一六,六四〇		七,七六七	
同六年度	七七一,八四	二〇五,六五六	二六,〇六五		一,五三〇	
同七年度	一九八,六三三	五五,五六六	一五,三四八		四,三三五	
同八年度	三八六,六三三	六六三,九六	二七,五三三	二五,二〇四	四,五三二	一月一日ヨリ
同九甲年度	二,七〇一,九七七	二七,一七五	共,二八三	二六,七四二	六,二五二	三月末日迄
同九乙年度	五,二四一,八〇二	一,一二三,八六五	四七,四八	一〇五,八〇〇	一〇,八八二	四月一日ヨリ
同十年度	五七〇,〇九二	一,三三九,一八七	七九,七七	二五,二七〇	四,三三九	三月卅一日迄

四二三

日野聯合農業倉庫敷地 三六九坪 (事業用)
野洲聯合農業倉庫敷地 三〇〇坪 同
守山農產加工場敷地 一八一坪七五 同
水口支所事務所及附屬物敷地 一七四坪四四 同

計 田宅地 一五七畝七步
六八六一坪五四

一、産業會館 (事務所)
木骨洋風瓦葺二階建及附屬建物共四棟
建坪二〇四坪四

一、水口支所事務所及附屬建物 一棟
建坪底共 八二坪五 此の價格 四一、一三七圓

一、聯合農業倉庫 (事業用)
鐵筋コンクリート造瓦葺外二棟及木造スレート
葺鐵網コンクリート壁支庫一棟 附屬建物共
計六棟建坪底共七〇〇坪
此の價格 一二〇、一六一圓

一、粗貯藏聯合農業倉庫 (事業用)
木造瓦葺土藏造五棟 建坪底共八六七坪
此の價格 五九、三六七圓

一、購買品倉庫 (事業用)
石油タンク外石油貯藏倉庫空罐倉庫肥料及雜貨
倉庫共 十棟 建坪四六三坪五 外タンク二基
此の價格 三八、一九四圓

建物

四〇一、四七七〇〇〇

一、醸造場建物 (事業用)
木造瓦葺二階建事務所及住宅各種倉庫共
二〇棟建坪 一、〇九二坪 外板塀六一間
此の價格 五八、九八九圓

一、精米場建物 (事業用)
木造スレート葺平家建工場其他附屬建物底共
一棟建坪 一〇一坪 此の價格 六、〇八五圓

一、農産物加工場建物 (事業用)
木造瓦葺二階建事務所及工場倉庫並附屬建物一
〇棟建坪 四七一坪五
此の價格 四三、九二二圓

一、薬工品集積貯藏倉庫 (事業用)
木造瓦葺平家建(堅田、虎姫)及附屬建物三棟
建坪底共 三六七坪七五
此の價格 二六、一五九圓

一、自動車庫 (事業用)
自動車庫二棟建坪 四五坪七五
此の價格 四、九五七圓

一、其他の建物 (其他)
木造瓦葺二階建事務所(大津市)同附屬建物共
一棟建坪五七坪二七五
木造瓦葺二階建事務所及附屬建物(物部村)
木造瓦葺倉庫及事務所二棟建坪一三五坪六六
此の價格 二、五〇六圓
計價格 四〇一、四七七圓

現況		負債	
販賣現品	445.5	能登川穀物倉庫建設費	28,482.90
菓加工現品	8,623.77	堅田菓加工場建設費	6,026.10
農産加工現品	24,737.77	未收利用料	5.3
購買現品	6,352.00	未收菓加工荷造費	4,408.50
購買加工現品	2,802.00	未收菓加工調整費	4,981.71
購買現品	8.9	現金	94,988.01
肥料	12.0	合計	44,051.13
雜貨	8.9		
農具料	7.4		
製材	5.2		
製粉	5.0		
製糖	5.0		
調味料	5.5		
諸品	7.1		
中央會館建設資金	22,880.00		
精米部未收代金	115.42		
假拂金	34,099.53		
貸付金整理勘定	508.83		
農業倉庫調製立替金	183,497.25		
包裝材料	5,754.28		
自動車運轉材料	77.90		

現況		負債	
全購販聯未拂込出資金	142,564.47	能登川穀物倉庫建設費	28,482.90
役職員退職給與積立金	17,116.00	堅田菓加工場建設費	6,026.10
貯金總額	39,648.19	未收利用料	5.3
	77.7	未收菓加工荷造費	4,408.50
		未收菓加工調整費	4,981.71
		現金	94,988.01
		合計	44,051.13

現況

現況

借入金總額	愛國貯金 特別指定貯金 据置貯金	五、三四〇、五九九、三一〇〇 二、八〇六、九九八、〇七〇〇
職員保證積立金	年賦借入金 手形借入金	二、〇〇八、四三四、七七〇〇
債務保證	借貯金	一〇九件 三四一、〇二一、〇五〇〇 一、五四九、二二〇〇
未經過收入利息	受託販賣代金	一三七件 三四組合
購買品未拂代金	肥飼料 雜貨	一一件 二四件
醬油原料未拂代金	農具 木炭	三七件 一七件
假受金	高月倉庫 產會館 勤勞所 購買容 木炭共同計算	四二件 二二件 五、六六四、五九九 一、〇〇六、七九四 七、四九八、八一五 二、四二四、八一五
倉庫其他勘定		五件 五、六六四、五九九
合計		六、七〇一、八八〇

四二四

愛國公債利孳益拂戻備金	三、二六〇、三八〇
罐詰製品不良品引當備金	二、〇〇〇、〇〇〇
農産加工假受金	四、一〇〇、五〇〇
未拂技術料	二、五七六、〇五〇
未拂罐詰戻シ金	一、四四四、二〇〇
購買假受金	三、一八八、三五〇
約束手形	九、二五六、〇五〇
合計	四三、一三七、三九三、一一七

差引金九拾壹萬參千七百拾九圓九拾六錢壹厘 純資産

乙貸借對照表 (昭和十六年三月三十日現在)

貸		借	
科目	金額	科目	金額
拂込未済出資金	五三、八四三、二八〇	出資	六〇五、五〇〇、〇〇〇
中央金庫出資金	二六、八〇〇、〇〇〇	全購販聯未拂込出資金	一四二、五六四、四七〇
全購販聯出資金	一一八、〇〇〇、〇〇〇	準備金	一〇二、八九六、〇六〇
合計	一九八、六四三、二八〇	合計	八五〇、三六〇、五三〇

現況

四二五

現況

農產加工設備	三、六八四〇〇〇	約束手形	九、二五六〇五〇
譯利用設備	五、〇五八〇〇〇		
藥加工設備	五、三四一〇〇〇		
販賣假拂金	一三〇、一三四〇五〇		
受託販賣未收代金	二三四、七九六二七〇		
農產加工未收代金	三三、九一五〇〇〇		
藥加工未收代金	四、九二七四三〇		
購買品未收代金	九〇六、〇九六二六〇		
醬油未收代金	一七、九一三四九〇		
受託販賣加工未收代金	一八八六四〇		
販賣現品	一二九七五〇		
藥加工現品	三、三四二六八〇		
農產加工現品	六六、四四三八八〇		
購買現品	九六六、七〇九七〇〇		
購買加工現品	五、七三七二五〇		
醬油現品	一二九、九六二三三〇		

四二八

中央會館建設資金	二二、八八〇〇〇〇	約束手形	九、二八二九九〇一
精米部未收代金	一一、五四二〇〇		
假拂金	三四、〇九九五三〇		
貸付金整理勘定	五〇八八三〇		
包裝材料	五、七五四二八〇		
自動車運轉材料	七七九〇〇〇		
農業倉庫調整立替金	一八三、四九七二五〇		
未收利用料	一、三八五六二〇		
能登川倉庫建設費	二八、四八二九〇〇		
堅田倉庫建設費	六、〇二六一〇〇		
未收藥加工荷造費	四、四〇八五〇〇		
未收藥加工調整費	四、九八一七一〇		
現金	九四、九八八〇一〇		
合計	四四、〇五一、一一三〇七八		
剩餘金	九二、八二九九〇一		
合計	四四、〇五一、一一三〇七八		

丙 損益計算書

(昭和十六年三月三十一日現在)

現況

四二九

科目	金額	損目	金額
收入利息	一、二八〇、九四九、三三二	貯金支拂利息	一、〇四五、五四三、四八〇
貸付金收入利息	二九、九六六、八一二	既未拂	七〇四、五二二、四三〇
事業資金利息	三八、五〇〇、〇〇〇	借入金支拂利息	三四一、〇二一、〇五〇
預金收入利息	五一、九三二、五三〇	既未拂	二二三、五二一、七九〇
中金預金收入利息	三一五、八八二、五一〇	事務費	二二一、九七二、五六〇
證券收入利息	五九二、一八六、一三〇	既未拂	一、五四九、二三〇
米穀證券割引收入利息	二五一、〇七二、八一〇	役員會費	一五三、八七六、八四〇
雜收入利息	一、四〇八、五八〇	總代會費	八二五、八一〇
配當金	一二五、〇二七、一一〇	協議會費	九三九、〇五〇
中央金庫代理業取扱手数料	一三、七二五、二四〇	役員報酬	八七三、三三三
中央金庫保証手数料	九〇五、五六〇	監查費	五、二〇〇、〇〇〇
中央金庫貸付調査手数料	一七九、六八〇	俸給料	四二五、八五〇
國庫補助金	三、一八一、〇〇〇	雜給	四九、一九八、七八〇
縣費補助金	一九、二〇〇、〇〇〇		三二、二〇九、八五〇

科目	金額	損目	金額
債券償還益金	四八四、〇〇〇	旅費	二、八五三、二一〇
雜收入	一〇、五一七、〇六〇	圖書費	三七八、〇〇〇
販賣歩合金	八七、六五九、四一〇	消耗品費	一、七一三、五一〇
販賣雜收入	一、四四七、三三〇	諸帳簿費	三、八〇五、七八〇
販賣益金	七六六、七〇〇	印刷費	六、八九〇、九〇〇
菓加工益金	一、一五六、二三〇	收入印紙	五〇三、〇〇〇
農產加工益金	三一九、三一〇	通信費	一一、〇五八、七七〇
購買益金	一〇七、八九一、五九〇	送金手数料	一六〇、九九〇
醬油購買益金	九、九八六、八二〇	諸聯通報費	四一四、二〇〇
購買加工益金	一〇、七〇七、一六〇	縣際費	三九八、〇〇〇
聯合農業倉庫益金	一八、九三三、二〇〇	交際費	一、二二八、六〇〇
利用料	一九、三四三、三七〇	負擔金	二、六六九、〇〇〇
什器賣却益	七〇〇、〇〇〇	修繕費	六七五、八八〇
委託販賣加工加工料	一、四七七、九〇〇	調查費	二〇〇、〇〇〇
農產加工設備賣却益	一、三七〇、〇〇〇	證券保護預手数料	二二一、五九〇
農業倉庫調製雜收入	一〇、一八二、二三〇	雜費	一一、二二一、六八〇

會館分擔金	一、四五六五〇
備品費	二六五六九〇
寄附金	一六、〇四〇〇〇
負債整理協議會費	一四八八一〇
信用事業費	一二、一七五六一〇
販賣事業費	五、四七六九五〇
購買事業費	一三、五六八〇〇〇
利用事業費	一二、四九一二〇〇
全販聯支拂步合金	三〇、八九六六二〇
買取販賣諸掛費	二九九一八〇
購買特別割戻金	五、四六三六〇〇
有價證券償却	九九、九六二〇〇〇
建物償却	二九、二二四二四〇
什器償却	二、一五三三七〇
設備償却	八、七六五九七〇
林産事業費	四〇三八七〇

繰越金	二、九三三四九九	職員健康保険料	四六八七二〇
合計	一、七二七、七二三、七四一	債券償還損失金	五〇〇〇〇〇
		什器賣却損金	一〇二四〇〇
			一、六三四、八九三、八四〇

差引剩餘金九萬貳千八百貳拾九圓九拾錢壹厘

丁 剩餘金處分案

一金壹百七拾貳萬七千七百貳拾參圓七拾四錢壹厘

本年度總益金

一金壹百六拾參萬四千九百九拾參圓八拾四錢

本年度總損金

差引金九萬貳千八百貳拾九圓九拾錢壹厘

本年度剩餘金

此の處分

一金貳萬五千圓也 (剩餘金の四分の一以上)

準備金

一金壹萬圓也

特別積立金

一金貳萬五千壹百六拾參圓六拾貳錢

特別配當金

但 年度内定期貯金(年三分五厘のもの)支拂利息百圓に對し金貳圓八拾五錢七厘

年度内拂戻準備貯金(年三分五厘のもの)支拂利息百圓に對し金五圓七拾壹錢四厘の割

現況

一金壹萬九千參拾壹圓九拾參錢 (拂込濟出資額に對する年三分五厘)
 內金壹萬貳千九百四拾貳圓參拾壹錢 出資拂込に充當
 一金 八千圓也
 一金 參千圓也
 一金貳千六百參拾四圓參拾五錢壹厘

四三四

配當金
 役職員退職給與積立金
 役員賞與金
 翌年度へ繰越

聯合農業者倉庫收支決算書

(昭和十六年三月三十一日)

種目		金額	種目		金額
收		入	支		出
聯合會繰入金	計	一八三、四九七、二五〇	調製原料立替資金	計	一八三、四九七、二五〇
小計		一八三、四九七、二五〇	諸給料及手當		一〇、四九四、五三〇
保管料		二七、九八一、九一〇	備人料		三、三五五、七七〇
證券發行手数料		二四四〇〇	消耗品費		七七、一七八〇
出入庫料		五、五六六、五二〇	印刷費		一〇、一五七〇
調製料		七八九、二四〇	通信費		九一八、一六〇
改裝料		一、〇九九、九八〇			

益

受檢料	二、二二四、六七〇	倉庫火災保險料	九三六〇〇
票箋料	二、四〇五、〇三〇	受寄物火災保險料	一、五七〇、三〇〇
運送料	五、八四〇、七九〇	諸稅負擔	一四七、九〇〇
貨車積込料	二、七一五、五七〇	燻蒸費	一、一〇七、八七〇
貨物引換證料	一九七八〇	倉庫修繕費	一七二、六六〇
販賣仲立及取次手数料	五三七〇〇〇	鐵道側線修繕料	一七三、三九八
雜收入	三、二七五、五一〇	鐵道用地除柵使用料	二九、二二〇
		運送費	五、四九五、〇二〇
		貨車積込料	二、五九四、一八〇
		受檢料	五三三、四〇〇
		票箋料	二、二八七、七五〇
		貨物引換證料	一二五〇〇
		出入庫費	五一六八〇
		支拂保管料	一、〇二三、九九〇
		借地料	六二九三〇
		借庫料	一九六〇〇〇

現況

四三五

合	小	計	計	調製費	改裝費	雜費	小計	合計
				七〇八三四〇	九九六一八〇	六四七八九〇	三三、五四七二〇〇	二二七、〇四四四五〇
							五二、四八〇四〇〇	一三五、九七七六五〇

差引益金壹萬八千九百參拾參圓貳拾錢也
 (備考) 差引益金は聯合會損益勘定に繰入る

三機關及職制

設立當初に在りては、理事五名、監事三名で、會長一名、専務理事一名を互選し、初代會長には北川嘉平、専務理事には、白崎清兵衛を選任した、其の後定數も變更され、現在は理事十名、監事五名で理事の任期は三年、監事の任期は二年、理事は會長、専務理事、常務理事、各一名を互選することになつてゐる。當初は總會制度なりしも、大正九年八月總代會制度に變更した、職制は次の通である。

- 一、總務課 庶務係、文書係、經理係、農業倉庫係、
- 二、信用課 貸付係、貯金係、資金係、代理業務係、

- 三、購買課 肥料係、飼料係、農具係、礦油係、雜貨係、加工係、
- 四、販賣課 米穀雜穀係、特產物係、加工係、農業倉庫係、
- 五、利用課 自動車係、薬工品集積倉庫係、
- 六、林産課 木炭係、其他係、
- 七、監理課 監査係、調査係、

創立以來の役員

設立以來の役員は、次の通何れも居村の産業組合長である。

會長	北川嘉平	犬上郡豊郷村	自明治四十四年	至昭和十一年
専務理事	白崎清兵衛	高島郡大溝町	自明治四十四年	至昭和元年
理事	向坂政平	愛知郡稻枝村	自明治四十四年	至大正九年
同	中村七右衛門	野洲郡篠原村	自明治四十四年	至昭和十年
同	瀬川仙藏	蒲生郡鎌掛村	自明治四十四年	至大正九年
同	川島幸次郎	甲賀郡柏木村	自大正十年	至昭和十年
同	前田雪太郎	蒲生郡鏡山村	自大正十年	至昭和二年
同	松居吉右衛門	神崎郡北五箇莊村	自大正十年	至昭和十二年

現

況

四三八

同 中川作平

愛知郡稻村

自大正十年 至昭和十年

同 柴辻貞治郎

東淺井郡速水村

自大正十三年 至大正十五年

會長 猪飼清六

滋賀郡伊香立村

大正十五年より理事、昭和七年より専務、同十二年より會長在任中

理事 落合退二

東淺井郡大郷村

自昭和二年 至昭和十年

同 早藤貞一郎

高島郡安曇村

自昭和二年 至昭和三年

同 久郷庄藏

蒲生郡金田村

自昭和四年 至昭和十年

同 万木嘉治松

高島郡水尾村

自昭和五年 至昭和九年

同 松本龜吉

高島郡川上村

自昭和十一年 在任中

専務理事 望月長司

甲賀郡油日村

自昭和十一年より理事、同十二年より専務在任中

同 西村己之介

野洲郡兵主村

自昭和十一年 在任中

同 橋本市平

蒲生郡北比都佐村

自昭和十一年 在任中

同 田中庄平

愛知郡秦川村

自昭和十一年 至昭和十三年

同 狩野新一

東淺井郡小谷村

自昭和十一年 在任中

同 疋田由次郎

犬上郡日夏村

自昭和十二年 至昭和十三年

常務理事 小西寅之助

蒲生郡金田村

自昭和十四年 在任中

監事

榎市次郎

滋賀郡伊香立村

自明治四十四年 至大正四年及大正六年

同 藤丸定次郎

甲賀郡土山町

自明治四十四年 至大正五年

同 小山義象

東淺井郡湯田村

自明治四十四年 至大正十二年

同 横山秀太郎

蒲生郡朝日野村

大正五年

同 井原仙藏

甲賀郡貴生川村

自大正六年 至大正十二年

同 猪飼清六

滋賀郡伊香立村

自大正七年 至大正十四年

同 青山伊藏

坂田郡醒井村

自大正十三年 至大正十四年

同 松居吉右衛門

神崎郡北五箇莊村

大正十四年

同 本郷菊太郎

栗太郡瀬田村

自大正十五年 至昭和十一年

同 日比久太郎

坂田郡長濱町

自昭和二年 至昭和四年

同 松井常太郎

伊香郡北富永村

自昭和二年 至昭和六年

同 小原兵次郎

大津市

自昭和二年 至昭和七年

同 西島庄五郎

坂田郡長濱町

自昭和六年 在任中

同 谷口久次郎

伊香郡永原村

自昭和七年 在任中

同 林治三郎

大津市

自昭和九年 至昭和十年

現

況

四三九

現況

常任監事 吉住岩藏 大津市 自昭和十一年 在任中
 監事 奥村和二郎 栗太郡葉山村 自昭和十三年 在任中
 同 戸崎甚藏 彦根市 自昭和十三年 在任中

現在の役員並職員

會長理事 伊香立組合長 猪飼清六 昭和十二年十一月六日
 専務理事 油日組合長 望月長司 昭和十三年二月八日
 常務理事 川上組合長 小西寅之助 昭和十四年五月八日
 理事 北比都佐組合長 松本龜吉 昭和十年四月二十七日
 同 兵主組合長 橋本市平 昭和十一年四月二十七日
 同 五箇莊組合長 西村己之介 昭和十一年四月二十七日
 同 小谷組合長 古川左近 昭和十四年四月二十六日
 同 角井組合長 狩野新一 昭和十一年四月二十七日
 同 高宮組合長 川上卯藏 昭和十四年四月二十六日
 同 大津組合専務理事 中村吉次郎 昭和十四年四月三十日
 常任監事 吉住岩藏 昭和十二年十二月十日

職員(課長)

監事 長濱組合長 西嶋庄五郎 昭和六年一月二十六日
 同 永原組合長 谷口久治郎 昭和七年一月二十五日
 同 葉山組合長 奥村和二郎 昭和十三年四月三十日
 同 青波組合長 戸崎甚藏 昭和十三年四月三十日
 總務課長 主事 上原豊吉 昭和十二年七月十七日
 監理課長 主事 鷺田正五郎 昭和三年十二月一日
 信用課長 主事 中村宇之助 昭和八年十月十一日
 購買課長 主事 川島寅吉 昭和十年八月十五日
 販賣課長 主事 廣部直義 昭和八年十二月二十六日
 利用林産課長 主事

郡市名	總代組合名	役名	氏名
大津	滋賀組合	専務理事	服部榮次郎
滋賀	木戸組合	組合長	原田庄右衛門

現況

同	高	同	伊	同	東	同	坂	彦	同
島		香		淺	井		田	根	
青	廣	木	南	下	速	米	春	福	磯
柳	瀬	之	富	草	水	原	照	滿	田
組	組	本	永	野	組	組	組	組	組
合	合	合	合	合	合	合	合	合	合
組	組	組	組	組	組	專	專	組	組
合	合	合	合	合	合	務	務	合	合
長	長	長	長	長	長	理	理	長	長
志	平	高	村	堤	南	杉	兒	尾	林
村	井		井			村	玉	田	秀
清	重	橋	茂	定	部	傳	良	隆	三
太	右	十	治		謙	四	夫	明	郎
郎	衛	吉	郎	治	治	郎	夫	明	郎

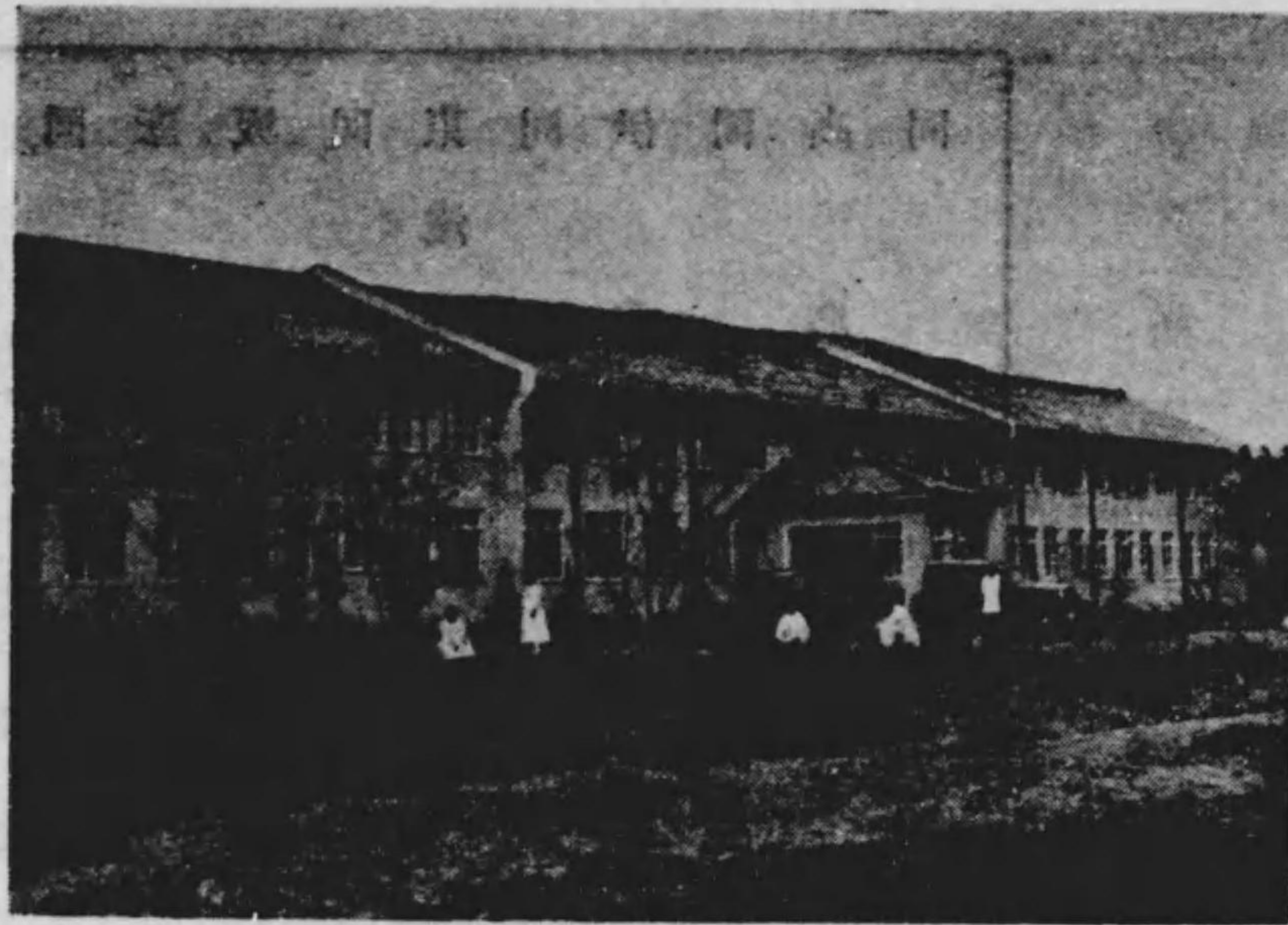
犬	同	愛	同	神	同	同	蒲	同	同	甲	同	野	同	栗	同
上		知		崎			生			賀		洲		太	
多	共	稻	栗	八	老	平	南	大	寺	水	玉	祇	草	笠	堅
賀	榮	枝	見	日	蘇	田	比	原	庄	口	津	王	津	縫	田
莊	社	組	組	市	組	組	都	組	組	組	組	組	信	組	組
組	組	組	組	組	組	組	佐	組	組	組	組	組	用	組	組
合	合	合	合	合	合	合	組	合	合	合	合	合	組	合	合
組	專	組	組	組	組	組	專	組	組	組	組	組	組	組	組
合	務	合	合	合	合	合	務	合	合	合	合	合	合	合	合
長	理	長	長	長	長	長	理	長	長	長	長	長	長	長	長
夏	松	田	田	川	小	藤	岸	村	木	藤	西	岩	高	長	辻
原	本	村	井	島	林	田	本	田	村	井	川	田	津	谷	川
喜	健	中	菊	鐵	金		良	幸	兵	利	菅	榮	金	清	太
之	利	二	之	治	治		祐	吉	治	次	太		平	太	律
助	助	郎	郎	助	郎	郎	祐	吉	郎	平	郎	郎	平	郎	律

二 保證責任江南醫療購買利用組合聯合會甲賀病院

事務所 甲賀郡水口町大字水口四千八百九拾六番地

一 沿革

我國醫療制度は所謂自由開業制度なるにより、資本主義經濟組織下に於ける通則として、醫師は經濟的に有利なる地方に偏在するの結果となり、殊に優秀なる良醫は、多く都會に集中し農村は逐年無醫村を増加しつゝある現状なり、故に有産者は都會地に治療を求め得るも、中産者以下は、容易に治療を求め得ざるのみならず、治療費高價なる爲め、經濟上の打撃實に甚しく従つて、治すべき傷病も治する能はず一家の慘狀見るに忍びざるの實例少なからざるなり、去る大正十五年大阪市が貧困者七百名に付、其の貧困に陥りし原因を調査せしに其の六割二分三厘は傷病に依る、治療費の負擔過重に基因せる事實を發見したるが、醫療設備の完備せる都會地に於てすら斯くの如し、況んや農村に於ては生命の不安、經濟上の打撃及活動力の減殺の爲めに日に無産者の増加しつゝあるは、國家民人の共に憂ふる所にして、痛嘆の



甲賀病院全景

至りに堪へざる次第なり。今や我國の醫術は世界無比を誇り得る迄に發達せりと聞く、然るに富者は其の恩恵を受くるに反し、貧者は其の餘澤を被むる能はず、洵に聖代の悲慘事にして國家政策上將又人道上默過し得ざる一

大事なりと謂ふべし、甲賀郡内各町村産業組合は、茲に鑑みる所あり醫療購買利用組合聯合會を組織し、以て相互扶助の主義に依る自主的救済の方途を講ぜんとせり、今我が甲賀郡が特に其の必要を痛感するに至りたりし理由を左に記す、

一、醫師數の少なき事

衛生局年報によれば昭和七年末に於ける全國平均人口一萬人に付醫師數六人九分四厘又昭和十年十月滋賀縣平均人口一萬人に付、醫師數六人二分八厘なり、而して甲賀郡平均人口一萬人に付、醫師數三人四分三厘にして全國平均數を以てすれば、甲賀郡人口七萬二千八百十五人に對し、醫師五十人本縣平均數を以てすれば醫師數四十六人を要す、然るに本郡現在開業醫師二十五名にして、甚しき不足を告ぐるは洵に遺憾なり、故に本郡には少くとも二十數名以上の醫師を増加する必要は論を俟たざる所にして、殊に本



甲賀病院大手術室

那二十五箇町村中十五箇町村は無醫村なるを以て之等町村民の不利不便、洵に甚大なるものと謂ふべし。

二、醫療設備の不完備なること

本郡に於ける醫療設備は其の醫師を見るに學位を有する者無く、僅かに學士五名其他は醫專出身或は受檢免許醫にして、之を診療科別に見るに外科専門醫一名、他は内科を主とする全科醫にして産婦人科、眼科等の専門醫皆無又介助者たる看護婦を設置せるもの二あるに過ぎざる現状なり、又其の設備を見るに、レントゲンを有するもの一名、太陽燈を有するもの一名、其他近代の最も進歩したる、醫療器具機械を設備せるものあるを聞かず、レントゲン、太陽燈の如き診療上重要なにも不拘以上の如き實狀に在るは甚しき不完備と謂ふべく痛嘆に堪へざるなり。

三、治療費の高價なる事

治療費の高價なるは獨り甲賀郡に限りたるに非ざるも、本郡醫師會の定めたる料率は現下、農村の實情に鑑み重荷に堪へざる所にして、他府縣に於ける既設醫療利用組合の料率に比し、手術料、藥價、注射料、文書料等何れも非常に高價にして、貧民が醫療費の重壓に喘くも宜なりと謂ふべし。

四、他郷に醫療を求むる者少なからざる事

以上の如く本郡には醫師數少なく又醫療設備の不完全にして加ふるに治療費の高價なる爲め、有資産者は止むなく他郷に出て治療を求むる現状なり、最近の調査によれば京都市、大津市、草津町等に入院せるもの平均七十名

を下らざるの實狀にして、其他遠隔の地に入院せるもの及京都市、大津市等へ通院せるもの百名を下らず、殊に天津市への通院に至りては、甲賀郡が縣下第一位を占むるの實狀なり、又京都市、大津市より醫師の往診を求むる者相當數多く、其の往診料は一回五十圓乃至百圓に上り、更に車馬賃を加ふるときは其の負擔洵に莫大なり。

五、關西線にて京都、大津、草津に毎日通院する患者を其の列車内に多數見受けらるゝことは、本郡民として痛嘆に堪へず、心ある者之が救濟策の講究を希望せざるはなく、即ち町村長會は赤十字病院の分院設置を要望したるも其の目的を達せず、又自治協會より本縣知事に對し、甲賀郡民の第一要望として醫療設備の完整を陳情せるが如き醫療施設の完備は、本郡民の多年熱望せる所にして、茲に於て本郡産業組合は犠牲を拂つて郡民多年の希望を達せしむべく、郡内町村産業組合聯合の醫療病院建設を計劃したるものにして、組合本來の目的たる共存同榮、相互扶助の精神に立脚し兩三年前より之を實現せしめんとするに至りたり。

六、滋賀縣農會の農家經濟調査によれば、昭和十年に一世帯主の支拂ふ保健衛生費は平均參拾九圓拾八錢なり、本郡戸數一萬四千二百三十三戸（昭和十年度末現在）にて一箇年の保健衛生費は五十五萬七千六百四十八圓九十四錢の巨額に達す、然して參考の爲め農家の保健衛生費に關する調査事例を左に擧ぐべし

イ、内閣統計局の調査に依れば大正十五年より昭和三年に至る間農家六百七十戸の保健衛生費は一戸當り一箇年平均三十三圓七十二錢、

ロ、農林省の昭和七年度農家經濟調査によれば一戸當り一箇年平均二十五圓七十三錢、

ハ、奈良縣宇陀郡伊那佐村の調査によれば一戸當り一箇年平均四十四圓三十八錢。

ニ、岡山縣上道郡外三郡に亘る農家三百九十一戸の調査によれば一戸當り平均三十五圓八十二錢。

以上の調査により考察すると共に本郡二十五箇町村に於て二回に涉り産青聯を動員し醫療費調査に依れば一戸當り毎年平均三十五圓八十二錢の保健衛生費を支出し、其年額四十八萬三千餘圓を支出する結果となり、大體に於てこの推算は妥當なりと信ず、然して此の如き巨額の治療費を負擔せるを以て本郡農村の、疲弊困憊は更に重加しつゝあるの現状なり。

七、由來甲賀郡は大部分純農村にして、米麥作養蠶により約五萬の郡民が生活を営みつゝあり、而して其の主産物たる米の生産に付ては、郡内上下擧つて之が改良に嚮心し、數萬圓を投じ努力の結果漸く他郡産米より一石五十錢高價なる賣れ行きを見るに至りたりと雖も其の利益は二萬七千二百八十八圓に過ぎざるなり、然るに組合病院を設立し、治療費の一例を減少し得れば四萬八千圓を利することゝなるべし、他府縣に於ける既設組合病院の實績に徴すれば、組合病院に依り治療費一、二割を減少し得ること敢て難事に非らず、郡民上下擧つて産米改良に努力しても尙且二萬七千二百八十八圓を利するに止まるも、組合病院より毎年數萬圓を利し得るとせば何を捨て措くも一日も早く組合病院を設立し以て農家經濟更生を企畫すること極めて急務なるを信するものなり、爾つて思ふに國民の生活安定を圖るは、果代政府の政綱とする所にして彼の不祥事件の後を受けたる政府は特に國民生活の安定に重點を置き施政方針演說中に於ても、國民生活の安定を強調されたるは天下周知の事なり。

依つて醫療利用組合を設立し以て出來得る限り農民の經濟更生を圖り、生活の安定に資するは全く國策に順應する所以なりと信ず、以上の理由により、保證責任江南醫療購買利用組合聯合會を組織し、甲賀病院を經營せんとするにあり

以上の趣旨により計畫を樹てんとして、昭和十一年一月頃より産業組合中央會並に關係方面にて、組合病院計畫の大要を調査し同年九月愛知縣安城町更生病院、同縣田原町碧海病院の視察調査をなしたるに、剋切缺くべからざる事業なるを痛感し直ちに農林省に就て全國の病院經營事例及統計等により調査研究を續け、愈々時期を見計らひて、實行に移さんとの決意を固めたり、然りと雖も該計畫を今直ちに發表せんか、圖らざるに逢着する處あるを慮り、先づ既設組合病院經營の實際を視察して、計畫進捗上の自信を得るを必要と思惟し、製油事業の研究をも兼ね、昭和十二年三月三日九州並に山陰地方へ視察の途に上れり、かくて組合長一行十二名は九州、山陰地方に於ける組合病院の經營を視察して、大に啓發せらるゝ所あり歸途偶々國民健康保健法案の議會に提案せられ、喧々囂々論議されつゝあるを見、一行は其實現の必要性を益々痛感し、促進機運は更に醸成せられたり、依つて歸任後直ちに組合長會を開き視察の經過を報告すると共に愛知縣下の先進組合病院視察を決議し、僅かに兩三日を隔て、郡内組合長十八名は安城及田原の兩組合病院の視察をなしたる處、何れも其の必要を痛感し一日の荏苒は一日の不幸なりとの結論を得急遽旅宿に於て實行委員五名を選び電光石火の運動を起すべく歸任後、直ちに縣廳及京都帝國大學醫學部を訪問せり、又委員會に於ては各方面にて調査研究せる結果を綜合し、組合病院の位置は交通の利便且つ區域内に於て最も戸數の

多き場所を選ぶに非ざれば経営困難なるを認識し、此の條件を具備せる水口町を最適地と認め折衝の末、敷地三千坪出資金三萬圓を同町に負擔せしめて敷地問題を解決せんとせり、然るに貴生川村方面を適地となすの異論擡頭し端なくも紛糾を起せり、貴生川村は本郡を東西に横斷する關西支線草津線の一驛をなし且つ本郡を南北に縦走する近江鐵道の終點をなし、信樂鐵道亦此處を起點として雲井村及信樂町に延び恰も十字路の交叉點なるを以て敷地を此處に求めんとするものなり論議七八箇月空しく日時を費し此の間物價は次第に昂騰し物資は缺乏を告げ病院建設上大なる打撃を蒙りしは誠に遺憾なりしも結局水口町は出資金六萬九千圓と敷地三千坪敷地は御茶屋壕と唱へ往古御茶殿の御殿跡にして水口町の南面氏神社の東方に位置し土地高燥清淨の地にして外廓に壕を廻らしたる一城廓を形成せる土地を寄附することにより圓滿なる解決を齎し愈々十二年十二月五日設立許可申請書を縣知事宛提出することとなり舉郡一致設立に邁進し昭和十三年四月八日江南醫療購買利用組合聯合會の設立許可を受け遂に宿志を貫徹するに至れり。

二 事業

醫療機關の完備は郡内多年の宿望たりしを以て、舉郡一致縣下最初の醫療聯合會病院を設立、昭和十四年六月開院所期の目的を達せり、而して第一年度の成績は此の種病院としては、稀に見る好成績にして、新體制下重要なる農村保健運動に寄與するを得たり。

区域内戸數 一四、四〇四戸 所屬組合組合員數 一一、九〇二人
昭和十四年度成績

出資總額 一九〇、〇〇〇圓、 拂込濟出資額 一九〇、〇〇〇圓、 利用料 六二、一七九圓、

現在役員及職員

會長	藤井利平	專務理事	北川信治郎
理事	木村兵治郎		
監事	中村喜三郎	上村重郎右衛門	加藤辰之助
主事	細野正長		
書記	田中繁造	木村正人	池田すゑ
	山崎ふさ		山内純子

事業部職員

院長	樋口輝夫
醫員	松原恒
藥劑師	池ノ内かよ
レントゲン助手	青木要藏
	梅本忠臣
	安間哲文
	入野恒夫
	同助手 近戸登美子
	田坪修

1 利用並ニ經理狀況

イ、患者實人員及患者延人員 自昭和十四年六月 至昭和十五年三月

種別	月別											
	六	七	八	九	一〇	一一	一二	一	二	三	計	
患者實人員 (内入院患者數)	一、二二四	一、二六六	一、〇四八	六、三六六	四、〇〇〇	四、〇六六	四、四九〇	三、三三二	四、三三二	五、七七一	六、七〇三	
患者延人員 (内入院患者數)	三、九八二	六、五五五	七、三三五	五、三三七	四、二七七	三、六五八	三、八八三	三、三三一	三、〇三四	三、七三九	四、五〇二	
往診延人員	一、二五〇	一、二五〇	一、六二六	一、六六六	一、〇〇九	七六六	八二〇	七六三	七三二	九四四	九、七九〇	
往診回数	一、〇五五	一、二四三	二、二九九	二、〇四一	九〇八	一、〇二五	一、二九九	一、二〇九	一、四八三	一、八七九	一、四三三	

口、消費資料

種別	前年度現在			本年度購入			本年度消費			本年度末現在		
	金額	種別	金額	金額	種別	金額	金額	種別	金額	金額	種別	金額
藥劑				一五、五五八、八五		八、九三五、三五	六、六二三、五〇					
醫療材料				三、〇九〇、五〇		一、七七〇、一五	一、三二〇、三五					
醫療消耗資料				二、六〇九、〇四		二、六〇九、〇四	七、九四三、八五					
計				二二、二五八、三九		一三、三一四、五四						

ハ、診療内容別利用料

種別	金額	種別	金額	種別	金額
導尿管	九四七〇	診療品	四六九六三		
光線治療料	七九二八〇	診察料	九四〇五		
X線	一、五二〇五五	特診料	二六五〇		
寫真	五七〇	往診料	三、六〇九〇五		
分娩	一五〇〇	瓶代	一一八六〇		
助産	二〇〇	貸布	三七五七〇		
モデル	七九六〇	代	四六二五		
検査	三六六九五	計	六四、六四三〇六		
書類	二三五八〇				

種別	金額	種別	金額	種別	金額
内用藥價	一五、〇四八六〇	外用藥價	一、六〇二二〇	頓服用藥價	三三二一八〇
注射藥價	二、三、四二七三五	入院料	一四、一二九九八	輸血料	七四九〇
手術料	四、八五六三〇	處置料	七、二八四〇五	洗腸料	四五四〇

2 區域内總戶數並ニ醫療機關

イ、區域内總戶數並ニ組合員數

町村名	總戶數	組合員數	町村名	總戶數	組合員數	町村名	總戶數	組合員數
石部	五七五	二二八	土山	七二四	六一五	北柚	四七六	四五六
三雲	六九八	五〇五	鮎河	二六四	一五九	南柚	三五〇	二二七

岩根	五五三	五一八	山内	二九四	二九二	雲井	四六五	四二二
下田	三三六	二四七	大原	九四九	八六二	信樂	一、一八九	五四八
伴谷	四八八	四七〇	油日	八一〇	八一七	小原	三〇三	二二三
柏木	四七一	四五三	宮	二六二	二六二	多羅尾	一八三	一七三
水口	一、六九〇	一、三五四	龍池	五八〇	五一八	南比都佐	四一五	四二三
大野	五八八	五五一	寺庄	七四〇	六〇六			
佐山	六七〇	六五九	貴生川	三六一	三二四	計	一四、四〇四	一一、九〇二

ロ、区域内官公私設別診療所

1 縣立治療所	一	2 公立病院	一	3 私設診療所	一三
4 醫師數	二三	5 病床數	一九		

ハ、區域外に於ける顯著なる醫療機關

1 日本赤十字社滋賀支部病院	2 京都府立醫科大學附屬病院	3 京都帝大醫學部附屬病院
4 草津町駒井眼科醫院	5 草津町山田醫院(産婦人科)	

三 保證責任共生醫療購買利用組合聯合會八幡病院

事務所 蒲生郡八幡町大字宮内百貳拾貳番地

一 沿革

産業組合協同組織に依る醫療事業への進出は、日支事變以前に於ては農村貧困原因の排除、農村文化の向上無醫村地帯の自助的事業として計畫され來つたのである、然るに日支事變を契機として我國一切の企業經營の上に、維新が齎らされた、即ち大東亞共榮圈建設の爲の國家最高目的に統合歸一せらるべく、飛躍が行はれた、従つて醫療事業自體の持つ内容にも大きな變革がなされた、即ち軍事的意義に於ける農村、人的資源の確保、生産力の維持増進、國民體力の増強力必須要件として痛感され來つたのである、政府の之に對する新政策は急速に實施せられ、然して之に順應對處する爲、産業組合全國大會に於ても農村保險運動が議題として採り上げられ、全國的に縣の運動が展開された、我蒲生、野洲の兩郡に於ても此の國內の狀勢環境の中に蘊藏せ



八幡病院

られた必然的な動きとして勃然として、病院建設の發案動議が爲されたのである、而して既に本縣に於ても隣郡甲賀に於て先驅者甲賀病院の竣功落成を見、更に開院以來の成績良好なりと聞くに及び、之に依る強烈なる刺戟と示唆を受けたることは謂ふ迄もなかつた、茲に八幡町を病院建設の候補地とする、一町十二箇村の結集團結が成立し、保証責任共生醫療購買利用組合聯合會の設立認可申請を縣に提出し、昭和十五年九月二十六日其の認可を得たのである、然しながら現下狀勢に於て病院の如き、各種資材を大量に要する大設備の建設については、其の困難實に言語に絶するものがあつた爲に、關係理事者は心血を注ぎ一意専心之が完成に寢食を忘れ没頭した、更に又其の建設資金の問題に付ても時局下の上にも、價額の變動に依る幾多の設計變更も餘義なくせられ苦慮せること一方ではなかつた、由來蒲生郡一圓並に野洲郡に於て近代的綜合設備を有する病院なく、重病者の治療は遠く京都大阪方面に治療を求むる爲、其の不便不利不勤、本區域内に於ける人口五萬四千三百三十五名、一町十二箇村中無醫村は六ヶ村を算し其の人口二萬一千二百二十五名である、従つて當地方に綜合病院を建設することの要望は、多年一般民衆の渴望せるところであつて然も今日迄容易に實現し得なかつたものである、茲に八幡病院の完成を見たのは誠に慶福に堪へないところで、其の蒙る恩惠又甚大なりと云ふべく、清麗壯大にして其の内容設備の充實せることに實に、一大偉觀と言ふべきである、然して其の醫局の編成は京都府立醫科大學に於て行はれ、伊東院長以下各職員の陣容を整備せられたのである、昭和十五年九月地鎮祭を行ひ、翌十六年三月二十五日起工式を舉行同十月三十日工事完了し翌十一月五日朝野の名士八百名を招き、嚴肅なる落成式を舉行了た。當日京都府立醫科大學長常岡良三氏の祝辭を掲ぐれば次の通である、

本日茲に保證責任共生醫療購買利用組合八幡病院開院式を舉行せらるゝに當り不肖其の席末に列し祝辭を述ぶるの機會を得たるは余の最も光榮且欣快に堪へざる所なり
惟ふに國民體力の向上人的資源の確保の如何に國運の消長隆替に至大の影響を有するかは改めて茲に喋々を要せざるところなり

特に重大時局に直面せる現下の國情に於て最も其然るを痛感するに現在我國に於ける醫療機關の普及狀況を見るに最近の調査に係る厚生省衛生局年報に依れば全國人口平均一萬人に對し醫師七人七分一厘の割合を示し、かも其の分布の狀態たる都市に濃厚にして農村に稀薄なるのみならず無醫村の數實に三千有餘を算する狀況にある此現状は我邦國民保健衛生上眞に寒心に堪へざるところなり、當地方の有識の諸士深く感ずる所あり蒲生郡八幡町外十二ヶ村の聯合に依り完備せる醫療機關の設立を企劃し當地方に於ける、醫療の普及徹底を圖ると共に現下戰時下に於ける重要問題たる、人口問題の解決に寄與し以て過去十數年來、地方民衆の要望を達成せんが爲昭和十五年九月以來殆んど寢食を忘れて東奔西走、或は資金の調整に、或は設備の完遂に特に醫局陣容の整備に、之れ日も足らざる努力を致され今回漸く諸般の準備を完了し、茲に本日開院の盛典を挙げらるゝに至る、誠に當地方民衆の慶たるのみならず、邦家の爲眞に慶賀に堪へざるなり、今親しく院内外の設備狀況を見るに其の規模必ずしも大なるにあらず、其外觀必ずしも華麗なるにあらずと雖、本館を始め一般病棟、傳染病棟、藥局其の他汚

物焼却場、給水電気施設等に至るまで、凡て最新技術の粋を集め加ふるに内科、外科、眼科、耳鼻咽喉科、産婦人科、レントゲン科等凡ゆる専門部門を網羅し、総合病院としての内容形態全く相整ひ、地方病院として稀に見る冠絶せる施設を完備せるのみならず、更に直接醫療に従事する醫長以下の陣容に至りては、何れも多年醫學及醫術の研鑽を累ね學識經驗共に既に一家を成せる、有爲の士を網羅し來りて、醫療を乞ふ者安んじて其貴重なる生命を托するに足れり、斯く觀じ來れば本院の設立こそ、正に之れ天の時と地の利、人の妙三者併せ兼ね備へたるものと云ふべく、その前途の洋々たる期して俟つべきものあるを信ず、庶幾くは當事者各位並組合員諸君、今後内外協心戮力本院設立の目的達成に邁進せられ、以て地方民衆の福利を増進し引て、國家の興隆に寄與せられんことを衷心祈念に勝へざるなり、聊か蕪辭を述べて祝辭となす

二 設備並機關

八幡町の西北鶴翼山を背面に負ひ、南面の高燥廣潤の地にして、陽光豊かに注ぎ空氣清淨、眺望絶佳、自ら氣晴れ、病癒ゆるが如き絶好の健康地なり。敷地廣さ一一、五〇〇平方米、山林一部を切りひらき田面を埋め前面道路より約五尺高に整地し、主要建物を之に置き、背後は更に二段の臺地となし、隔離病棟及増築豫定敷地に充て自然の地形に應じて建物の律動的配置をなすを得たり。

建物は堅牢、明快且使用上の便を最も重視せる、新興日本型にして本館、病棟、中央藥局館、隔離病棟、食堂棟

十五棟總坪數、三、八六五平方米なり

イ、本館、木造二階一部玄關は鐵筋コンクリート造

床面積一階、八七五平方米 二階八〇八平方米 計一、六八三平方米にして以下の諸室より成る

玄關 下足室 廣間 綜合待合 事務室 會計室 交換室 内科第一第二 外科第一第二 眼科 耳鼻咽喉科 産婦人科の各診察室 處置室 第一第二手術室 同準備室 レントゲン室 物療室 暗室 各科待合室 物置 便所等

階上は會議室 應接室 院長室 部長室 醫局 圖書室 研究室 豫備室 宿直室及特別病室五 普通病室九室 其他

ロ、中央藥局館、木造平家一部地階付

床面積一階一八五平方米 地階二三平方米 計二〇八平方米

間取は藥局 製藥室 藥劑師室 宿直室 廊下 物置 賣店等階は藥庫に充つ

ハ、病棟、木造二階建 正南面して建つ

床面積一階 五〇五平方米 二階五〇二平方米 計一、〇〇七平方米

間取は病室二八室 共同病室二室 休憩日光室 看護婦詰室 昇降場 洗面洗濯室 配膳室 炊事場 便所 物置 浴室等

ニ、隔離病棟、木造二階建背面高臺に同正南面して建つ

床面積一階 二一六平方米 二階一七〇平方米 計三八六平方米

間取は病室一四看護婦室面會室休養室消毒室洗面洗濯室炊事室昇降場浴室便所物置等
ホ、食堂棟、木造平家建 床面積三三三三平方米

間取は食堂配膳室調理室小使室湯沸場賄夫室掃除夫室浴室便所消毒洗濯再生室倉庫等
ヘ、其の他傳廊下靈安室ポンプ室倉庫車庫等二四八平方米

構 造

一構造一般 本館建物は杭打地業其他は、栗石地業にコンクリート基礎を据ゑ、建物は木造大壁作り大筋違を入れ
以て堅固なる三角形を作り水平垂直材を充分に用ひ、且アンカボルトを以て基礎と堅固に緊結し、耐震耐風の
となし、外壁セメント塗、準耐火、壁體と共に強固なる構造たらしめたり。

一小屋組及屋根 洋式眞束小屋に組み水平垂直に筋違を入れ金具を用ひて緊結し、傳廊下の如き輕微なるものと和
小屋にて何れも充分堅固に建設す、屋根は八幡産瓦葺きとす。

一外部仕上 鉄網モルタル塗、アトガンリン吹付、一部腰タイル貼

一内部構造 壁はシツクヒ塗、カセイン色付及富士壁となし、天井はシツクヒテツクス及ベニア板、床はオーク厚
板貼り階上床には鋸屑及モミ糠を充填し、音響遮断を計り、各手術室床は壁共アットタイル貼とす、窓は面積を
大にとり採光通風を快適に、且獨特の二段造りとして輕快強固となす、玄關は鐵筋コンクリート造にして各廊下
と共に能ふ限り廊下を設け病棟階上と本館との連絡を安易ならしめたり、階段は昇降に具合よき巾勾配を選び且

準防火戸を以て一室となし得、有事の際の避難又は防火準備完了まで、一時遮断可能なる様工夫せり。

附帯設備

一炎害に對する施設

防火壁鉄筋コンクリート造防火壁を數ヶ所に設けたること、消火栓各棟毎に一乃至二ヶ所宛設置せること、避難
口、一般出入口、階段の外に各棟に一ヶ所以上の非常口、非常階段を設け以て防火上の完全を期せり。

一汚物處理及衛生に對する施設

便所、大小便共水洗式にして其の排水は他の汚水と共に屋外淨化槽に導き、槽は腐敗槽、濾過槽、沈澱槽、酸化
槽を経て完全に淨化し排水す、隔離病棟に限り内務省案改良汲取便所とす。

汚物處理 適宜集積し煉瓦造、焼却爐に入れ焼却處分をなす。

工事概算

一建築工事費 二四一、一八四、八〇 一給水衛生工事費 五〇、八〇〇、〇〇 一電氣及電話工事費 二二、八三三、九〇

合計三〇四、八一八圓七〇を要したり

一、設立年月日 昭和十五年九月二十六日

一、出資總額 二十七萬九千圓(全額拂込)

一、所屬組合數 十三組合

- 八幡町信用購買利用組合
- 岡山信用販賣購買利用組合
- 金田村信用購買販賣利用組合
- 桐原信用購買販賣利用組合
- 島村信用販賣購買利用組合
- 安土信用販賣購買利用組合
- 鏡山村信用販賣購買利用組合
- 苗村信用購買販賣利用組合
- 北里村信用販賣購買利用組合
- 篠原信用販賣購買利用組合
- 馬淵村信用販賣購買利用組合
- 平田村信用販賣購買利用組合
- 市邊村信用購買販賣利用組合

一、役職員

- 會長 奥野孝三郎
- 理事 岡田清四郎
- 事務理事 西川嘉右衛門
- 村井又一郎
- 仲川常治
- 梅井孫三郎

- 松村嘉重郎
- 野間庄藏
- 山出光太郎
- 西村爲治郎
- 井狩彌左衛門
- 島田清市
- 安井伊藏
- 藤田金治郎
- 伊東金四郎
- 上出重徳
- 神原英男
- 倉尙貞
- 友則一男
- 丸岡省三
- 駒井次郎
- 奥村讓四郎
- 西村信男
- 大原一郎
- 山田美代子

監事

主事

醫學博士 伊東金四郎

内科

醫學士 上出重徳

同科

醫學士 神原英男

小兒科

醫學博士 倉尙貞

外科

醫學士 友則一男

産婦人科

醫學士 丸岡省三

耳鼻咽喉科

醫學士 駒井次郎

眼科

醫學士 奥村讓四郎

レントゲン科

技手 西村信男

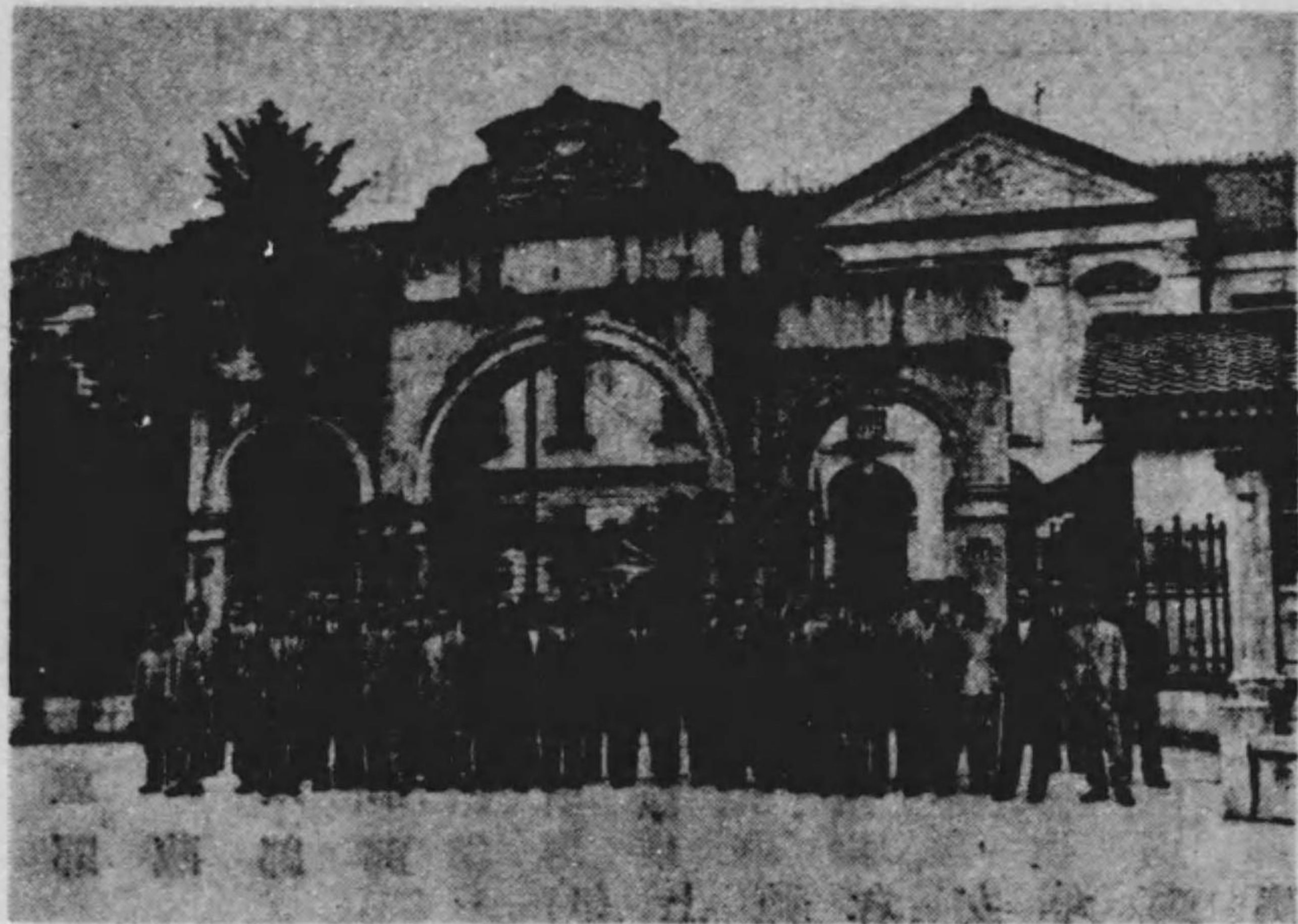
同科

京都藥學士 大原一郎

藥劑科

神戸藥學士 山田美代子

第二章 滋賀縣の産業組合運動



滋賀縣廳舊廳舎

第一節 縣の指導獎勵施設

一 監督獎勵職員

縣廳内部課等の組織も世の推移に連れて幾多の變遷があつた、組合法發布當時、明治三十三年頃には知事官房の外に、内務、警察の兩部があり、組合の指導監督の事務は内務部勸業課の内の商工係が、管掌してゐたが大正十五年七月には分課により商工課に移り、昭和七年十月更に新設の經濟振興課に入り、昭和十二年七月には經濟振興課の廢止と同時に年來要望しつゝあつた、産業組合課の獨立を見た、然し獨立したるも東の間、同十五年十一月には同課は廢止となり、産業組合事務は農政課に包括せらるゝこととなつた、産業組合關係の職員は法律施行の當時より大正二年三月迄専任者はなく、同年四月より始めて専任の、技手一名を設置して専ら組合の指導監督に當らしむることとな

つたが、其の後勸業課時代の、大正十五年には、主事一名の外主事補三名に産業組合獎勵書記二名、産業組合獎勵事務員一名を配屬せられ七名となつた、昭和二年には主事一名、主事補七名に増員、同五年には主事の外主事補八名、同十一年には主事の外主事補十二名に増員、同十三年十一月には内栗太、野洲二郡へ一名、甲賀郡へ一名彦根、犬上、坂田の一市二郡へ一名、東淺井、伊香二郡へ一名、滋賀、高島二郡へ一名の計五名を、支會駐在職員二名と共に縣下七ヶ所に長期出張せしむることとなり今日に至つた。

現在の縣監督部課員は次の通である。

官職名	氏名	任命年月日
農政課長	岐部光久	昭和十四年十一月七日
地方農林主事	荒木英雄	同十五年三月十九日
農林主事補	清水吉一	同十年六月五日
同	田中千年	同十二年四月十七日
同	安部貞正	同十三年七月八日
同	小林金之助	同十四年七月十二日
同	澤幸吉	同十四年八月二日
同	田堂晴次	同十五年二月八日

現況

同	同	同	同	同	同
下川	藤田	青山	奥野	川本	遠藤
正三	義市	寅一	孝夫	憲治	剛一郎
同十五年二月十六日	同十五年六月三日	同十五年十一月二日	同十六年五月七日	同十六年五月二十七日	同十六年十二月一日

四六六

二 監督獎勵施設

産業組合は明治三十四年以來漸を追ふて各地に設立せられ、事業分量亦年々増進を見た、信用部に於ては明治四十三年より大正四年迄は貸付金は、貯金を凌駕したるも以後貯金の増加率頗る加はり一ケ年に其の額五十萬圓、百萬圓更に、五百萬圓乃至八百萬圓と増加し、昭和十四年の如きは千九百餘萬圓の増加を見た、貸付金は之に反し却て減少の跡を見る、其の他の事業は全國的機關の設立と共に進展したが、大正七八年の好景氣に乘じ投機的な行爲に由つて思はざる打撃を受けた組合も、ないことはなかつたが、更に昭和二年の財界動亂は物質的に大なる損失を蒙つた許りでない、精神的にも動搖を齎した、縣は各關係機關を督し、之等組合の善後措置や、人心の安定に懸命の努力を拂つた爲に其の後、漸次回復し却て財界不安の原因を一掃して、組合認識を新た

にし更に堅實な經營方針を採るに至り順調な軌道に入つた、昭和十一年十一月には米穀自治管理法の發布に伴ひ縣下各組合に米穀統制組合の事業代行を獎勵し、翌十一年十一月には一齊検査を執行して、内容の刷新充實に努め同十三年には未設置町村並に、農山漁村の未加入者解消運動に援助を與へ又組合資力の増大を圖るため、出資増額を企畫せしめ、昭和十四年末には夫々豫期以上の成績を収めた、斯くて本縣産業組合は過去四十年の間に實に驚異的な進展振を示し、支那事變勃發に際會して其の使命の重加を一層自覺し、爾後重要農林水産物の集荷、同生産并生活必需資材の配給、貯蓄の獎勵、國債消化に協力する等一路國策の遂行に邁進しつゝ、ある實情である縣は指導獎勵機關たる支會に毎歳の其の事業費に對し補助金を交付した、其の年次別金額左の通である。

支會事業費に對する縣費補助

明治四十四年	三〇〇	昭和元年	八〇〇
大正元年	三〇〇	同二年	八〇〇
同二年	三〇〇	同三年	八〇〇
同三年	三〇〇	同四年	八〇〇
同四年	三〇〇	同五年	六四〇

現況

四六七

現況

同五年	六〇〇	同六年	五二二
同六年	一、六〇〇	同七年	四〇〇
同七年	八〇〇	同八年	八〇〇
同八年	八〇〇	同九年	九〇〇
同九年	八〇〇	同十年	七二〇
同十年	二〇〇	同十一年	七二〇
同十一年	五〇〇	同十二年	七二〇
同十二年	五〇〇	同十三年	九七〇
同十三年	五〇〇	同十四年	八〇〇
同十四年	四〇〇	同十五年	七九〇

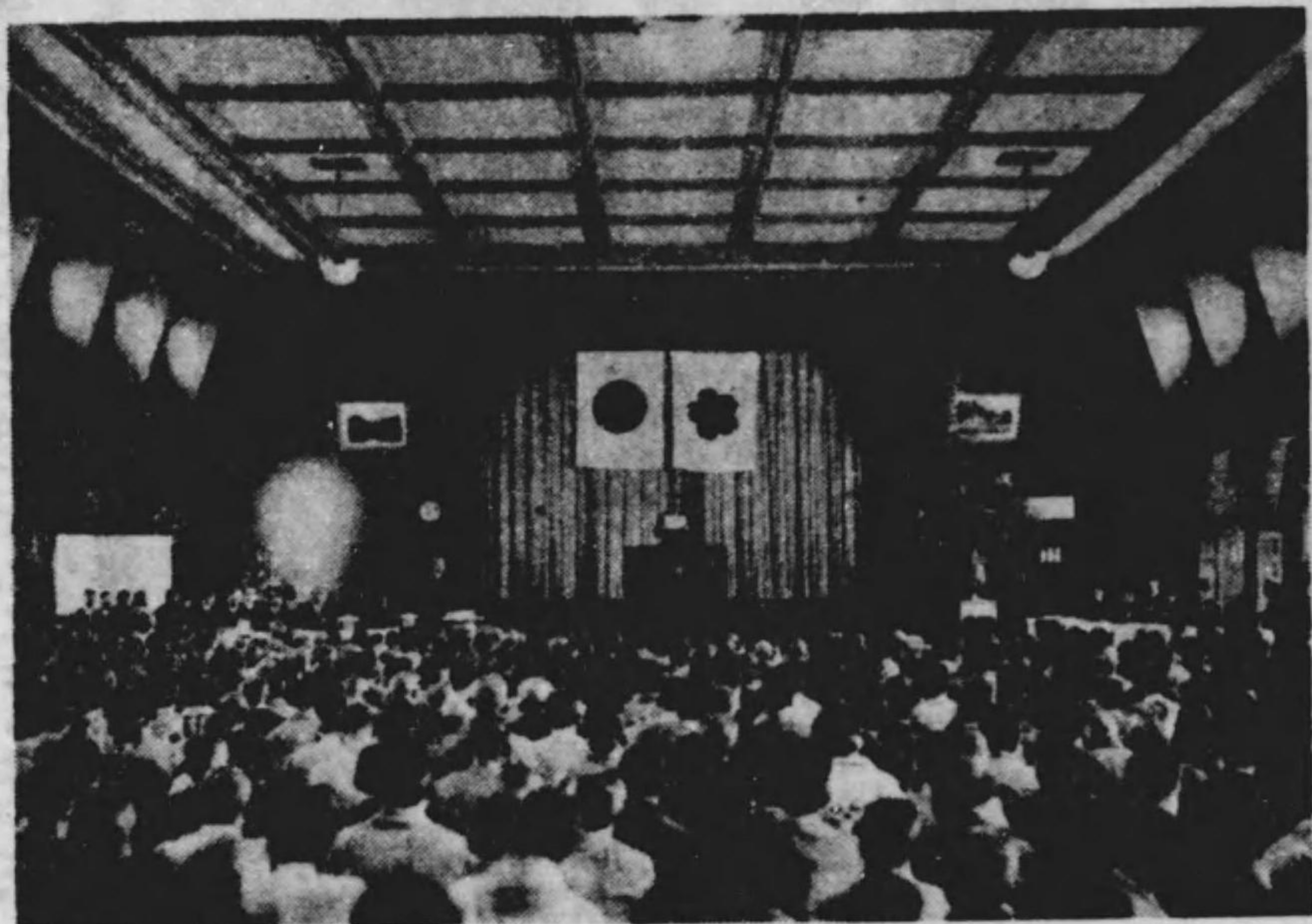
四六八

第二節 産業組合中央會滋賀支會

一 沿革

創立

明治三十三年三月六日産業組合法が發布せられ、同年十二月始めて産業組合が生れてから明治三十七年四月迄は、何等産業組合を助長發達せしむべき機關はなく、明治三十七年五月漸次設立の數を加ふる状況に鑑み其の指導獎勵上、縣農會は其の主催の農事講習會に産業組合の科目を加へて、専ら之が獎勵の衝に當り、隨時産業組合に關する講習會、講話會を開き其の普及發達に努めたのであるが明治四十二年四月に至つて、縣



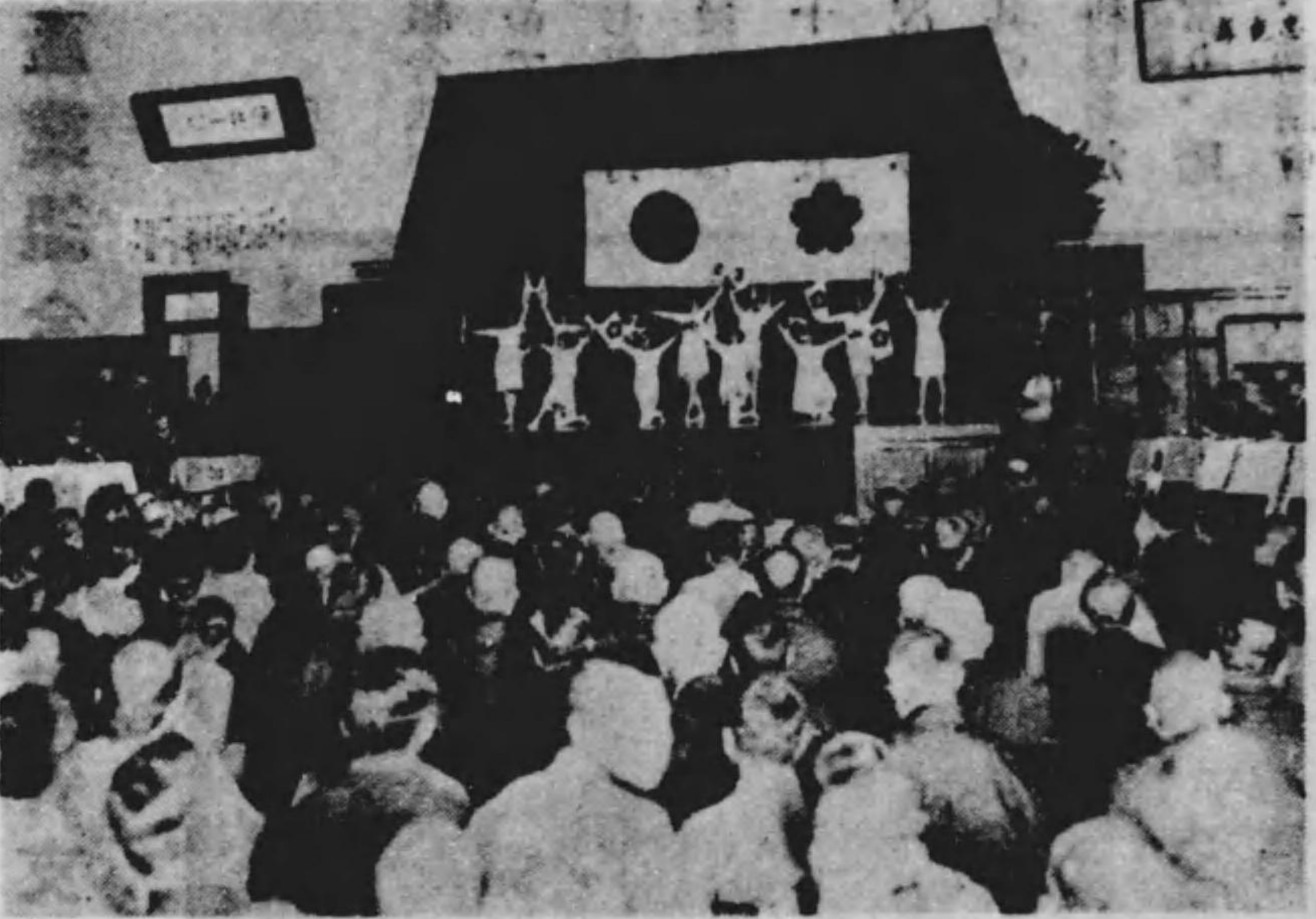
縣下産業組合大會

農會は、縣費の補助を得て産業組合専任の技手を置くこととなり、當年度より積極的に之が指導を爲すこととなつた、時勢の要求と産業組合發達の情勢は茲に獨立したる、指導獎勵機關の必要を痛感するに至り、翌明治四十三年に至り縣、縣農會、組合關係者は時折其の施設に付協議を爲したが、遂に同年九月十九日、滋賀縣農會有限責任琵琶湖水産物販賣購買組合及高見長恒（縣農事試驗場長）發起人となり滋賀支會設立を申請し、同年十月四日設立承認を受け、茲

現況

四六九

に縣下産業組合の統制連絡並に指導獎勵は、凡て本會に於て掌ることとなつた、斯くて翌十一月二十日、大津高等女學校（現在の女子師範學校）に發會式を挙げた、發會式には、知事代理縣内務部長添田敬一郎を始めとし、勸業課長小財捨太郎、縣屬村上幾太郎、同寺島誠、縣農會副會長、横山安忍、主任技手若林富太郎（正臣）來賓として産業組合中央會副會頭小松原英太郎、農學博士佐藤寛次、横田縣會議長及各郡市長の臨席あり來會者百五十餘名、設立の經過報告、來賓祝辭佐藤博士の講演ありて盛大に式を終つた。



産業組合舞踊

- 會長 滋賀縣知事 川島純幹
 - 副會長 縣内務部長 添田敬一郎
 - 主事 縣勸業課長 小財捨太郎
 - 同 縣屬 村上幾太郎
 - 同 縣農會幹事 白崎清兵衛
 - 同 縣農會技手 若林富太郎
 - 同 評議員有限責任琵琶湖水産物販賣購買組合
 - 同 有限責任録掛信用販賣購買組合
 - 同 有限責任厚生社信用販賣購買組合
 - 同 無限責任土山信用販賣購買生産組合
 - 同 有限責任近江蠶糸販賣組合
- 同時各郡市長に郡市部長を依頼し其の陣容は整つた、縣は翌四十四年度より支會事業費に對し、毎年金參百圓を補助すること

となり、事務所は縣農會内に設置して、農會及び産業組合との聯絡方針を確立した、而して大正十五年三月迄は同所に事務を執りたるも更に、縣監督との聯絡關係上廳内に置くことに變更し、同年四月より縣廳内勸業課に移轉す、其の後引續き廳内に置いたが、同年七月縣の分課の變更に伴ひ、商工課に、昭和七年十月には新設の經濟振興課に、更に昭和十二年七月産業組合課の獨立に依り同課へと移動し、其の後昭和十四年四月産業團體綜合事務所たる、境川町に建設成りたる産業會館に入り現在に至る。

イ 構成

支會は創立と同時に全國的組織たる、社團法人産業組合中央會の府縣支部的の組織として、縣内産業組合同聯合會の加入に依つて、之を會員とし會長一名、副會長二名、理事五名、評議員十四名（各郡市に一名宛）とし理事は會長の指揮を承け會務を執行し、評議員は會長の諮問に應じ且つ本會の豫算其他必要なる事項の決議並に會務執行狀況の監査を行ふこととなつてゐる。

ロ 職制

會長は本會を總理し、副會長は之を補佐し又は代理し、理事は會長の指揮に依り會務を執行し更に事務を處理するため、參事、主事、主事補、書記を置く、創立以來歴代役職員は次の通である

一、會長

氏名	官職名	就任年月日	退任年月日
川島純幹	知事	明治四十三年十月	大正元年十二月
佐藤太	同	大正二年二月	同三年五月
池松時和	同	大正三年八月	同七年二月
森正隆	同	大正七年一月	同八年五月
堀田義次郎	同	大正八年五月	同十二年十月
末松階一郎	同	大正十三年一月	同十四年九月
高橋守雄	同	大正十四年九月	同十五年八月
黒崎眞也	同	大正十五年八月	昭和二年五月
今村正美	同	昭和二年五月	同三年七月
堀田正鼎	同	昭和三年七月	同四年九月
田寺俊信	同	昭和四年九月	同六年一月
除野康雄	同	昭和六年二月	同六年十二月
新庄祐治郎	同	昭和六年十二月	同七年六月
伊藤武彦	同	昭和七年七月	同九年十月
村地信天	同	昭和九年十一月	同十一年四月

二見直三	同	昭和十一年五月	同十一年九月
平敏彦	同	昭和十一年十月	同十五年四月
近藤境太郎	同	昭和十五年四月	

二、副會長

氏名	官職名	就任年月日	退任年月日
添田敬一郎	内務部長	明治四十三年十月	大正二年二月
北川嘉平	縣聯合會 厚生社組合長	大正三年一月	昭和十二年十一月
堀田義治郎	内務部長	大正五年七月	同六年二月
伊東喜八郎	同	大正六年四月	同八年五月
島内三郎	同	大正八年五月	同十二年十月
平田紀一郎	同	大正十二年十月	同十三年六月
鶴田澤憲	同	大正十三年七月	同十五年九月
田中無事	同	大正十五年九月	昭和三年二月
間野一	同	昭和三年二月	同三年五月

現況

土居通次	內務部長	昭和三年六月	同	四年六月
山口尚章	同	昭和四年六月	同	六年十二月
三樹三郎	同	昭和六年十二月	同	九年二月
九鬼三郎	同	昭和九年二月	同	十年二月
鈴木修藏	經濟部長	昭和十年二月	同	十一年九月
福光正義	同	昭和十一年九月	同	十三年一月
原信次郎	同	昭和十三年三月	同	十四年四月
猪飼清六	縣聯合會長	昭和十三年三月	同	十四年九月
伊藤佐介	經濟部長	昭和十四年五月	同	十四年九月
新見俊介	同	昭和十四年十月	同	十五年八月
桐谷勝三郎	同	昭和十五年九月		

四七四

三、理事

氏名	官職名	就任年月日	退任年月日
小財拾太郎	勸業課長	明治四十三年十月	大正五年四月

現況

村上幾太郎	滋賀縣屬	明治四十三年十月	大正七年三月
白崎清兵衛	縣聯合會理事	明治四十三年十月	昭和二年七月
若林富太郎	縣農會技手	明治四十三年十月	明治四十五年七月
鹽谷鍵重	同	大正二年三月	大正四年五月
間部彰	勸業課長	大正五年五月	同
藤田正那	同	大正六年四月	同
今井兼寬	同	大正七年一月	同
丹下茂十郎	同	大正八年二月	同
村松俊一	產業主事	大正九年三月	同
松原五百藏	勸業課長	大正十三年七月	同
小西寅之助	縣聯合會理事	昭和三年三月	大正十四年三月
伴四郎	農林主事	大正十四年三月	昭和二年五月
岸本千秋	農工課長	大正十五年七月	昭和四年一月
勾坂治平	農林主事	昭和二年十二月	同
伊藤藤貢	商工課長	昭和四年三月	同
中澤八郎	農林主事	昭和五年二月	同

四七五